

緊急時における大学の遠隔授業 の実施に関する調査

結果報告書

令和2年12月
中部管区行政評価局

前 書 き

我が国においては、令和2年1月下旬から新型コロナウイルスへの感染事例が相次いで発生し、同年4月に新型インフルエンザ等対策特別措置法第32条第1項の規定に基づく新型コロナウイルス感染症に係る緊急事態宣言が全国的に出されるなど、国内での感染対策が重要になる中、大学の授業に関して、令和2年3月24日に文部科学省は大学に対し、換気の悪い密閉空間、多くの人が手の届く距離に密集、近距離（密接）での会話や大声での発声の3つの条件が同時に重なる場所（以下「3密」という。）を徹底的に回避することが不可欠であり、授業等の開始に当たっては、万全の感染症対策を講じるとともに、遠隔授業の活用などによる学生の学修機会の確保に留意することなどを通知している。

岐阜県、静岡県、愛知県及び三重県の東海地方の8国立大学は、令和2年3月中旬までは、教室で教員が学生と直接対面して行う面接授業を実施することを検討しており、3密を回避するために一部の授業に遠隔授業を取り入れるとした大学もあったが、「原則、遠隔授業で実施する」ことを検討、判断したのは、3月下旬以降であった。その結果、令和2年度前期授業について、7大学は全て遠隔授業によることとし、残る1大学は講義を遠隔授業で、実習、演習については感染防止対策を講じた上で面接授業により実施することとした。

その後、令和2年5月に、新型コロナウイルス感染症の感染者発生数が減少したため、緊急事態宣言の終了が宣言され、全て遠隔授業で実施するとしていた7大学においても、実験、実習等の科目について、3密の回避等の感染防止策を講じた上で、面接授業の開始を可能とした。このことにより、令和2年度前期においても一部の授業で面接授業が行われたが、8大学が開講した授業16,513科目のうち約8割に当たる13,012科目が遠隔授業のみで実施された。また、後期においても8大学全てで遠隔授業が行われており、このうち後期に実施中、実施予定の授業の実施方法を把握している7大学では、前期と比べて面接授業が増加しているが、これら7大学で実施中の8,531科目のうち約6割に当たる4,779科目が遠隔授業のみで実施されている。

遠隔授業実施の準備として、8大学は、①教員や学生に対する遠隔授業の実施方法を周知、修得させるためのマニュアルの作成、教員を対象とした研修を全学的に実施、②学生が受講科目を選択して登録する履修登録の方法等を説明するガイダンスの実施、③学生が遠隔授業を受講できるかを確認するための情報端末機器の保有状況やインターネット接続回線の契約に関する調査の実施、④大学の情報通信システムのサーバの処理能力強化、⑤遠隔授業で使用するオンライン教材の作成等を行っている。

8大学の中には、全学的に4月中に授業を開始しているものが3大学あるが、このように早期に実施できたのは、それぞれ①令和2年度前期授業の実施方法を検討、決定するに当たり、遠隔授業に使用するウェブ会議システムを特定するなど具体的な方

針を示し、これに基づいて準備作業を速やかに実行できたこと、②従来からオンライン教育の推進に取り組み、遠隔授業に利用できるノウハウを有しており、遠隔授業に必要なシステムの検討、整備を進めていたことによるものと考えられる。

遠隔授業は、面接授業とは異なり、教員が学生と直接かつ同時に行うものではないことから、令和2年4月1日に文部科学省は大学に対し、面接授業に相当する教育効果を担保するため、教員の設問解答、添削指導、質疑応答等による十分な指導や学生の意見交換の機会を確保する必要があることを通知している。

しかし、8大学は、令和2年度前期の授業がどのように行われているかを把握していない。このような状況の中で、当局が、総合大学は1学部、単科大学は1学科・課程を抽出してシラバスを調査したところ、面接授業に相当する教育効果を担保するための措置が行われているかどうか不明な状況がみられ、このようなシラバスに係る授業においては、面接授業に相当する教育効果が得られていないおそれがある。

加えて、大学設置基準等により、各授業科目の詳細な授業計画であり学生が講義の履修を決める際の資料となるシラバス等により、授業の実施方法を学生に明示する必要があるとされているが、8大学ともに、一部のシラバスに遠隔授業であるか否かや、遠隔授業の場合、その方法が記載されていない状況がみられた。

また、遠隔授業の受講に関して、学生が保有する情報通信機器や契約しているインターネット環境は様々であるため、令和2年4月6日に文部科学省は大学に対し、学生の情報通信機器の保有状況等を事前に把握し、十分な通信環境を持たない学生に対してパソコンやルータ等の貸与などの支援を行う必要があることを通知している。

8大学は、学生の情報通信機器の保有状況等調査を行っているが、一部の調査において、①遠隔授業開始日以降に調査を始めていること、②回答者を特定できない方法で行っているため、支援が必要な学生を把握できないこと、③受講に必要な機器や通信容量など学生の通信環境を把握するものとなっていないことなどから、授業開始までに調査結果を学生の支援などに反映できないおそれがある状況がみられた。

さらに、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化し、学生が自宅等で遠隔授業を受講する中で、孤独感や不安を抱えているため、学生の心のケアが重要である。令和2年6月5日に文部科学省は大学に対し、電話やメール等を活用して、より学生から相談しやすい体制を構築するよう通知し、同年9月15日には、相談においてウェブ会議システム等を用いている例などを示している。

8大学において、学生の心の相談及び診察を行っている保健管理センターの中には、新型コロナウイルス感染の防止、遠隔地に居住している学生等に配慮して、画面を通じて表情が分かるなどの対面と同様の効果があるウェブ会議システムを相談及び診察に活用しているものがある一方で、遠隔によるサービスを全く提供していないものもみられる。

また、ウェブ会議システムを活用している保健管理センターにおいても、活用していることを全学生に周知していないものがみられる。

この調査では、コロナ禍にあつて、8大学が遠隔授業の実施の決定から短期間で授業を開始している中で、学生の学修機会を確保する観点から、大学における遠隔授業の実施状況について、遠隔授業における教育効果の担保、個別の授業における遠隔授業の実施方法の学生への周知状況、学生のインターネット環境について調査するとともに、学生の心のケアに関する取組についても調査を行い、大学による遠隔授業についての実態や課題が明らかとなった。これらを踏まえ、来年度以降に実施する授業において、必要な取組に資することを通知するものである。

目 次

第1 調査の目的等	1
第2 調査の結果	2
1 新型コロナウイルス感染症対策としての遠隔授業の実施状況.....	2
2 遠隔授業における教育効果の担保等.....	31
3 学生の情報通信機器の保有状況等の把握状況等	52
4 学生の心のケアに関する取組	97

図 表 目 次

1 新型コロナウイルス感染症対策としての遠隔授業の実施状況

図表 1-①	「学校における新型コロナウイルスに関連した感染症対策について」(令和 2 年 2 月 18 日付け文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課事務連絡)(抜粋)……………	11
図表 1-②	「令和 2 年度における大学等の授業の開始等について(通知)」(令和 2 年 3 月 24 日付け元文科高第 1259 号)(抜粋)……………	11
図表 1-③	大学設置基準(昭和 31 年文部省令第 28 号)(抜粋)……………	13
図表 1-④	平成 13 年文部科学省告示第 51 号「大学設置基準第 25 条第 2 項の規定に基づき、大学が履修させることができる授業等について定める件」(抜粋)……………	13
図表 1-⑤	「学事日程等の取扱い及び遠隔授業の活用に係る Q & A の送付について(4 月 21 日時点)」(令和 2 年 4 月 21 日付け文部科学省高等教育局大学振興課事務連絡)(抜粋)……………	14
図表 1-⑥	調査対象の 8 国立大学の概要……………	15
図表 1-⑦	令和 2 年度前期における授業の開始日……………	15
図表 1-⑧	令和 2 年度前期における授業の実施方法……………	16
図表 1-⑨	令和 2 年度前期の授業実施方法別科目数……………	17
図表 1-⑩	令和 2 年度後期の授業実施方法別科目数(予定)……………	17
図表 1-⑪	遠隔授業の実施方法……………	18
図表 1-⑫	令和 2 年度前期の授業を原則、遠隔授業で実施すると決定するまでの経緯等……………	20
図表 1-⑬	遠隔授業の実施方法に関する教員研修の実施状況……………	23
図表 1-⑭	新入生ガイダンス、履修登録等の状況……………	25
図表 1-⑮	遠隔授業実施に向けた大学の情報通信設備の整備状況……………	26
図表 1-⑯	遠隔授業に使用する教材の作成要請事例……………	26
図表 1-⑰	短期間で準備し学事日程の予定どおりに授業を開始した大学(浜松医科大学)……………	26
図表 1-⑱	早い時期に遠隔授業の一部導入を決定し準備を進めていた大学(名古屋大学)……………	28
図表 1-⑲	従来から推進していたオンライン教育のノウハウ等が遠隔授業の早期実施に寄与したとみられる大学(静岡大学)……………	29

2 遠隔授業における教育効果の担保等

図表 2-①	「学事日程等の取扱い及び遠隔授業の活用に係る Q & A 等の送付について」(令和 2 年 4 月 1 日付け文部科学省高等教育局大学振興課事務連絡)(抜粋)……………	39
図表 2-②	大学設置基準(昭和 31 年文部省令第 28 号)(抜粋)……………	40
図表 2-③	「本年度後期や次年度の各授業科目の実施方法に係る留意点について」(令和 2 年 7 月 27 日付け文部科学省高等教育局大学振興	

	課事務連絡) (抜粋)	40
図表 2-④	遠隔授業において教員の指導等が必要であることについての教員への周知状況	41
図表 2-⑤	令和 2 年度の授業のシラバスにおける面接授業に相当する教育効果を担保する措置に係る記載状況	43
図表 2-⑥	シラバスにおいて面接授業に相当する教育効果を担保するための措置が行われていない旨の学生の意見	44
図表 2-⑦	前期の遠隔授業の実施方法についてのシラバスによる学生への周知状況	45
図表 2-⑧	愛知教育大学におけるシラバスの記載についての教員への周知内容 (前期)	46
図表 2-⑨	後期の遠隔授業の実施方法についてのシラバスによる学生への周知状況	46
図表 2-⑩	愛知教育大学におけるシラバスの記載についての教員への周知内容 (後期)	47
図表 2-⑪	岐阜大学におけるシラバスの記載についての教員への周知内容	48
図表 2-⑫	静岡大学におけるシラバスの記載についての教員への周知内容	48
図表 2-⑬	豊橋技術科学大学におけるシラバスの記載についての教員への周知内容	49
図表 2-⑭	令和 2 年度の授業のシラバスにおける授業の実施方法に係る記載状況	50

3 学生の情報通信機器の保有状況等の把握状況等

図表 3-①	「大学等における遠隔授業の実施に当たっての学生の通信環境への配慮等について」(令和 2 年 4 月 6 日付け 2 文科高第 36 号) (抜粋)	59
図表 3-②	新型コロナウイルス感染症の影響拡大に伴う学生等の学習に係る通信環境の確保について (要請)」(令和 2 年 4 月 3 日付け総基料第 89 号) (抜粋)	60
図表 3-③	遠隔授業に関するアンケート結果及び遠隔授業に関する問合せ窓口等への情報通信機器やインターネット環境に関する学生からの問合せ等 (抜粋)	61
図表 3-④	各大学におけるインターネット環境の整わない学生に対する支援の実施状況	67
図表 3-⑤	各大学における情報通信機器の保有状況等調査の実施日等	69
図表 3-⑥	各大学における情報通信機器の保有状況等調査の実施状況	73
図表 3-⑦	各大学における情報通信機器の保有状況等調査のうち情報通信	

	機器に係る調査の実施状況	76
図表 3-⑧	令和 2 (2020) 年度入学者に示した PC の仕様等	79
図表 3-⑨	電気通信事業者における学生の遠隔授業等に対する支援の実施状況	85
図表 3-⑩	名古屋大学医学部医学科が行った情報通信機器の保有状況等調査において利用できる通信容量として回答した学生の通信容量の状況	87
図表 3-⑪	各大学における情報通信機器の保有状況等調査のうちインターネット環境に係る調査の実施状況	88
図表 3-⑫	電気通信事業者による支援継続に関する意見・要望等	91
図表 3-⑬	遠隔授業の実施に伴い各大学が周知した必要な機器、インターネット環境	93

4 学生の心のケアに関する取組

図表 4-①	「大学等における新型コロナウイルス感染症への対応ガイドラインについて (周知)」(令和 2 年 6 月 5 日付け 2 文科高第 238 号) (抜粋)	102
図表 4-②	「大学等における本年度後期等の授業の実施と新型コロナウイルス感染症の感染防止対策について (周知)」(令和 2 年 9 月 15 日付け 2 文科高第 543 号) (抜粋)	103
図表 4-③	新型コロナウイルス感染症の影響による主な心の相談内容	104
図表 4-④	調査対象の 8 国立大学における学生の心のケアを行っている相談・診察窓口の体制	105
図表 4-⑤	調査対象の 8 国立大学における学生からの心の相談に対応している相談窓口の体制	107
図表 4-⑥	学生からの心の相談に対し、ウェブ会議システムを活用していることについての各大学の意見	108

第1 調査の目的等

1 目的

この調査では、コロナ禍にあつて、8大学が遠隔授業の実施の決定から短期間で授業を開始している中で、学生の学修機会を確保する観点から、大学における遠隔授業の実施状況について、遠隔授業における教育効果の担保、個別の授業における遠隔授業の実施方法の学生への周知状況、学生のインターネット環境についての把握とともに、学生の心のケアに関する取組についても調査を行い、大学による遠隔授業についての実態や課題が明らかとなった。これらを踏まえ、来年度以降に実施する授業において、必要な取組に資することを通知するものである。

2 対象機関

国立大学法人東海国立大学機構（岐阜大学、名古屋大学）、国立大学法人静岡大学、国立大学法人浜松医科大学、国立大学法人愛知教育大学、国立大学法人名古屋工業大学、国立大学法人豊橋技術科学大学、国立大学法人三重大学

3 担当部局

中部管区行政評価局

4 調査実施時期

令和2年7月～12月

第2 調査の結果

1 新型コロナウイルス感染症対策としての遠隔授業の実施状況

調 査 結 果 等	説明図表番号
<p>【制度の概要等】</p> <p>(1) 新型コロナウイルス感染症対策として大学で遠隔授業を実施することとなった経緯</p> <p>我が国においては、令和2年1月下旬から新型コロナウイルスに感染した事例が相次いで報告され、国内での感染防止対策が重要になる中、文部科学省は、同年2月18日付け事務連絡「学校における新型コロナウイルスに関連した感染症対策について」により、都道府県教育委員会、国立大学法人等に対し、基本的な感染症対策の徹底、教室の換気等の適切な環境の保持、学校行事等における感染症対策等、学校における対策に万全を期すよう要請した。</p> <p>その後、政府の新型コロナウイルス感染症対策専門家会議の「新型コロナウイルス感染症対策の状況分析・提言」（令和2年3月19日）において、春休み明け以降の学校再開に当たっては、多くの子供たちや教職員が日常的に長時間集まることによる感染リスク等に備え、地域ごとのまん延の状況を踏まえることが重要とされ、日々の学校現場において、換気の悪い密閉空間、多くの人が手の届く距離に密集、近距離での会話や大声での発声の「3つの条件が同時に重なる場所」（以下「3密」という。）を避けるための対策等を徹底することが重要であるとの考え方が示された。</p> <p>上記を踏まえ、文部科学省は、大学及び高等専門学校（以下「大学等」という。）における令和2年度の感染防止対策措置や学事日程の編成に際して留意が必要な事項を取りまとめ、「令和2年度における大学等の授業の開始等について（通知）」（令和2年3月24日付け元文科高第1259号）（以下「令和2年3月24日文科省通知」という。）により大学等の設置者に通知した。同通知によれば、大学等では、①3密を徹底的に回避することが不可欠であること、②授業等の開始に当たっては、万全の感染症対策を講じ、衛生環境の整備に留意した上で準備を進めること、③地域における感染症の発生状況等を踏まえ、設置者の判断で授業等の開始時期の延期等を行うことを妨げないこと、④その検討を行う場合は、遠隔授業の活用などによる学生の学修機会の確保に留意することなどとしている。</p> <p>(2) 遠隔授業に関する法令等の規定</p> <p>ア 遠隔授業の実施根拠等</p>	<p>図表1-①</p> <p>図表1-②</p>
<p>大学設置基準（昭和31年文部省令第28号）第25条第1項では、大学の授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技（以下「面接授業」という。）により行うとしているが、同条第2項では、多様なメディアを高度に利用して授業を行う場所以外の場所で履修させるこ</p>	<p>図表1-③</p>

とができるとしており、当該規定により大学における遠隔授業の実施が可能とされている。

また、遠隔授業の実施方法については、平成13年文部科学省告示第51号「大学設置基準第25条第2項の規定に基づき、大学が履修させることができる授業等について定める件」（以下「メディア授業告示」という。）において、同告示第1号、第2号のいずれかの要件を満たし、面接授業に相当する教育効果を有すると認めたものであることとしている。

令和2年3月24日文科省通知では、学生の学修機会を確保するとともに、新型コロナウイルス感染症の感染リスクを低減する観点から、面接授業に代えて遠隔授業を行うことが考えられ、その際、メディア授業告示の規定に基づき、遠隔授業を自宅等にいる学生に対して行うことは可能であるとして、下記のような方法を例示している。

① ウェブ会議システムを用いた遠隔授業（メディア授業告示第1号の規定に基づくもの）

ウェブ会議システムを利用して講義をリアルタイムに配信し、学生がパソコン等からインターネットに接続し受講するもので、同システムによって、教員と学生が質疑応答や意見交換を行う。

② オンライン教材を用いた遠隔授業（メディア授業告示第2号の規定に基づくもの）

スライド資料や講義形式の動画等を教材とする e-learning システム等を準備し、学生がパソコン等からインターネットに接続して受講するもので、学生からの課題提出や質問の受付及び回答、学生間の意見交換もインターネット等を通じて行う。

イ 新型コロナウイルス感染症対策として実施する遠隔授業に関する特例的措置

大学設置基準第32条第5項では、卒業の要件として修得すべき単位数（4年以上在学で124単位を修得等）のうち、同基準第25条第2項の授業の方法（遠隔授業）により修得する単位数は60単位を超えないものとするとしている。

この遠隔授業で修得できる単位数の制限に関して、文部科学省が令和2年4月21日に国立大学法人等に対して発出した事務連絡「学事日程等の取扱い及び遠隔授業の活用に係るQ&Aの送付について（4月21日時点）」では、新型コロナウイルス感染症対策として実施する遠隔授業に関し、特例的な措置として、面接授業に相当する教育効果を有すると大学において認められるものについては、大学設置基準第25条第2項の規定による遠隔授業ではなく、第32条第5項の規定は適用されないことから、同規定の60単位の上限に算入する必要はないとしている。

これにより、今回の新型コロナウイルス感染症に対応するための遠

図表1-④

図表1-③
(再掲)

図表1-⑤

隔授業は、修得単位数の制約なく実施が可能となった。

【調査結果】

今回、当局が、東海地方4県（岐阜県、静岡県、愛知県及び三重県）内に所在する8国立大学（注）について、令和2年度前期（令和2年4月から9月）における授業の実施状況を調査した結果は、以下のとおりである。

（注） 岐阜大学、静岡大学、浜松医科大学、名古屋大学、愛知教育大学、名古屋工業大学、豊橋技術科学大学、三重大学

(1) 令和2年度前期授業の実施状況の概要

ア 授業の開始時期及び方法

令和2年度前期授業の開始時期に当たる令和2年4月には、全国的に新型コロナウイルス感染症の感染者発生数が増加し、同月7日に、政府が、首都圏、近畿圏等の7都府県を対象に新型インフルエンザ等対策特別措置法（平成24年法律第31号）第32条第1項の規定に基づく新型コロナウイルス感染症に関する緊急事態を宣言、同月16日には、緊急事態宣言の対象区域が全国に拡大される等の状況にあった。このため、調査対象の8国立大学のうち7大学では、令和2年度前期授業の開始時期を延期するとともに、授業を開始する際には、すべての授業を遠隔授業で実施することとした。また、残る1大学においても、講義は遠隔授業で実施し、実習、演習については、感染防止対策を講じて面接授業で実施することとした。

その後、令和2年5月には新型コロナウイルス感染症の感染者発生数が減少し、同月14日に、東海地方の4県を含む39県が緊急事態宣言の対象区域から除外され、同月25日には緊急事態の終了が宣言された。このような状況を受け、遠隔授業のみとしていた7大学においても、早い大学では、5月下旬から、遅い大学でも7月上旬から、実験、実習等の科目について、3密の回避等の感染防止対策を講じた上で、面接授業の開始を可能とした。

以上のとおり、令和2年度前期においても一部の授業で面接授業が行われたが、基本的には遠隔授業で行われており、8大学が令和2年度前期に開講した17,476科目の授業の約8割（13,012科目）の授業が遠隔授業のみで実施された。

なお、令和2年度後期に実施中、実施予定の授業の実施方法を把握している7大学について、同期の面接授業、遠隔授業の実施状況を見ると、前期に比較し各大学とも面接授業が増加しているが、開講科目の56%が遠隔授業のみで実施、24%が面接授業・遠隔授業併用で実施となっており、遠隔授業が多数利用される状況が引き続いてい

図表1-⑥

図表1-⑦

図表1-⑧

図表1-⑧

（再掲）

図表1-⑨

図表1-⑩

る。残る1大学では、後期も引き続き面接授業と遠隔授業のいずれか又は併用により実施しているが、面接授業、遠隔授業の実施方法別科目数についての学内調査は後期後半に行う予定のため当局調査時点では把握していない。

イ 遠隔授業の実施方法

前述のとおり、遠隔授業の実施方法には、ウェブ会議システムを用いた遠隔授業（同時双方向型）、オンライン教材を用いた遠隔授業（オンデマンド型）がある。

調査対象の8国立大学において遠隔授業の実施方法を調査したところ、このうち6大学では、ウェブ会議システムを用いた遠隔授業を禁止しているものではないが、オンライン教材を用いた遠隔授業の方式で実施することを原則又は推奨としている。

オンライン教材を用いた遠隔授業の具体的な実施方法は、大学が整備しているe-learningシステム（以下「学習支援システム」という。）に教員が動画（授業録画等）、音声解説を録音したスライド資料、その他の教材資料をアップロードし、これを学生がパソコン等によって視聴することにより受講するものである。また、学習支援システムには、教員からの課題の提示、学生からのレポートの提出、小テストの実施等の機能があり、これにより授業の理解度の把握も可能とされている。

オンライン教材を用いた遠隔授業を原則又は推奨としている6大学に、その理由を聴取したところ、ウェブ会議システムを用いた同時双方向型の遠隔授業では、通信回線のトラブル等によって配信が中断し受講できない学生が発生するリスクがあるのに対し、オンライン教材を用いた遠隔授業は、配信中断などのトラブルがあっても再度受講でき、通信トラブルによるリスクを回避できる。また、ウェブ会議システムを用いた同時双方向型の遠隔授業ではデータ通信量が多いため、スマートフォンなどで受講する学生が契約している通信容量を超過した場合、受講に支障が発生するおそれがあるが、オンライン教材を用いた遠隔授業であれば、動画（授業録画等）を極力利用しないこと等により通信量を少なくできることなど、主に通信環境上の理由を挙げている。

また、残る2大学では、遠隔授業の実施方法について特に指定等は行っておらず学部や教員の選択に任せているとしているが、結果として、多くの授業がウェブ会議システムを用いた遠隔授業により実施されていると説明している。この理由について、これらの大学では、教員は、面接授業に近い授業が行えるウェブ会議システムによる授業を希望していること、また、教員、学生が質疑応答を行いながら授業できる同時双方向型の方が高い教育効果が期待できることを挙げている。

図表1-⑩

(2) 遠隔授業の実施に至る経緯及び実施準備作業等

調査対象の8国立大学が、令和2年度前期の授業について、原則、遠隔授業により実施することを決定した時期をみると、いずれも令和2年3月下旬以降であった。その後、遠隔授業実施のための準備作業を行って実際に遠隔授業を開始した時期は、当初に学事日程で授業開始を予定していた時期(4月上旬)より約1か月後の5月の連休明けとなった大学が多い一方、当初予定どおりに授業を開始した大学、授業開始を延期したものの4月中に開始した大学もみられる。

8大学における遠隔授業の実施の決定に至る経緯、実施決定から遠隔授業開始までの準備作業、及び早期に遠隔授業を開始した3大学(静岡大学、浜松医科大学、名古屋大学)について、その要因等を調査した結果は、以下のとおりである。

図表1-⑦
(再掲)

ア 遠隔授業の実施の決定に至る経緯

調査対象の8国立大学が、令和2年度前期の授業を、原則、遠隔授業により実施することを決定した時期をみると、令和2年3月下旬に決定したものが2大学(浜松医科大学、三重大学)、4月上旬に決定したものが4大学(岐阜大学、静岡大学、名古屋大学、名古屋工業大学)、4月下旬に決定したものが2大学(愛知教育大学、豊橋技術科学大学)となっている。

各大学が、上記の決定に至った経緯をみると、下記のとおり、令和2年3月の中旬までの時期には、面接授業で実施することが検討されており、遠隔授業を取り入れるとした大学であっても、面接授業が3密状態になることを回避するための補助的手段との位置付けであったが、3月下旬以降から、原則、遠隔授業で実施することの検討、判断が行われるようになった。

図表1-⑦
(再掲)

- ① 3月上中旬に決定した方針では、面接授業の3密回避対策として遠隔授業を併用する等としていたが、4月上旬になって、原則、遠隔授業とすることとした大学(岐阜大学、名古屋大学)
- ② 3月中は面接授業実施の方針としていたが、4月になって、遠隔授業の利用を検討することとした大学(静岡大学、愛知教育大学)
- ③ 3月下旬に令和2年度前期の授業の実施方法を検討する会議が開催され、原則、遠隔授業とすることを決定あるいは検討することとした大学(浜松医科大学、豊橋技術科学大学、三重大学)
- ④ 3月上旬から遠隔授業導入のための検討を開始し、4月上旬に、原則、遠隔授業とすることを決定した大学(名古屋工業大学)

図表1-⑫

令和2年度前期の授業を、原則、遠隔授業で実施することとした理由について、各大学は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大、新型コロナウイルス感染症に関する緊急事態の宣言等を挙げており、令和2年3月下旬からの新型コロナウイルス感染症の感染者数の増加とこ

図表1-⑫
(再掲)

れに伴う緊急事態の宣言が、この時期に、各大学において、授業を遠隔授業で実施することを検討、決定した要因となっている。

イ 遠隔授業開始までの準備作業

調査対象の8国立大学において、令和2年度前期の授業を、原則、遠隔授業で実施することを決定後、授業を開始するまでの間に実施した準備作業を調査した結果、主に、以下のような作業を実施していた。

① 遠隔授業の実施方法等に関するマニュアルの作成及び研修の実施

各大学とも、これまで、全学的な遠隔授業を実施した経験はないため、教員、学生に遠隔授業の実施方法等を周知、修得させる必要があった。

このため、各大学では、ウェブ会議システム、学習支援システムの使用方法等の遠隔授業の実施方法に関する教員向け、学生向けのマニュアルを作成したほか、教員を対象とする研修会を開催している。

② 学生に対するガイダンスの実施及び履修登録期間の調整

大学の各学期の当初には、当該学期に実施する授業等についての学生へのガイダンス、学生が当該学期に受講する科目を選択して登録する履修登録が行われる。

特に新生生については、履修登録を行うことは初めてであることから、新生生ガイダンスにおいて履修登録方法を説明しておく必要があるほか、履修登録に利用する情報システム（学務情報システム）、遠隔授業に利用する学習支援システム等の大学の情報システム（以下「学内システム」という。）にアクセスするためのアカウント情報（ID、パスワード）を配布し、その利用方法を説明しておく必要がある。

令和2年度前期の授業の開始時期は、新型コロナウイルス感染症の感染者数が増加していた時期に重なったことから、8大学の中には、新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、予定していた新生生ガイダンスが実施できず、郵送による資料送付等の代替方策を講じた大学がみられる。また、授業開始時期を延期した大学においては、これに合わせて履修登録期間の調整が行われている。

③ 学生のインターネット環境の調査

各大学とも、学生が遠隔授業を受講できる状況にあるかの確認のため、パソコン等の情報端末機器の保有状況、インターネットに接続できる回線の契約状況等の調査を実施した。

④ 大学の情報通信設備の整備

8大学のうち4大学では、遠隔授業の実施によって大学の情報通信設備に大きな負荷がかかることが予想されたため、学習支援システムに係るサーバの処理能力強化等の整備を実施した。

図表1-⑬

図表1-⑭

図表1-⑮

<p>⑤ 遠隔授業で使用するオンライン教材の作成</p> <p>特に、オンライン教材を用いる遠隔授業においては、動画（授業録画等）、音声解説付きのスライド資料等の教材の作成、準備が必要である。</p> <p>このため、8大学の中には、遠隔授業開始当初に使用する教材を準備し、学生に提示するよう教員に要請している大学がみられた。</p>	<p>図表 1-⑯</p>
<p>ウ 早期に遠隔授業を開始した大学の事例</p> <p>(ア) 短期間で準備し学事日程の予定どおりに授業を開始した大学（浜松医科大学）</p> <p>浜松医科大学は、令和2年3月末に、令和2年度前期の授業を原則、遠隔授業で実施することを決定し、その後、学生へのガイダンス、教員に対する研修、遠隔授業で使用するウェブ会議システムの整備等の準備作業を1週間内に行って、学事日程の予定どおり、4月6日から遠隔授業を開始した。</p> <p>短期間のうちに遠隔授業を準備し、早期に授業を開始することができた要因として、同大学において、令和2年度前期の授業の実施方法を検討、決定するに当たり、遠隔授業に使用するウェブ会議システムのシステム名を特定するなど具体的な方針を示しており、このため、遠隔授業の準備作業が、同方針に基づいて速やかに実行することができたものとみられる。</p> <p>このように、遠隔授業の実施方法を特定して検討、決定した経緯について、同大学では、大学の危機管理として新型コロナウイルス感染症対策を協議する中で、執行部が中心となって授業の実施方法等についても検討していたことを挙げている。具体的には、令和2年2月下旬頃から、面接授業ができない場合の対応として、ウェブ会議システムを利用した遠隔授業が可能であるとの情報を医学部教員が得ており、このような情報も含めて、執行部において検討を進めていた。</p> <p>この結果、令和2年3月末に、ウェブ会議システムを利用して遠隔授業を実施することについて、具体的なシステム名を示して決定し、以降、この決定に従って遠隔授業の実施準備作業を進めたものである。</p> <p>なお、上記のほか、同大学が比較的規模の小さい単科大学で学生数が少なく、遠隔授業の実施の周知や学生のインターネット環境の調査が順調に行えたことなども、遠隔授業が早期に円滑に実施できたことの背景となっているものとみられる。</p>	<p>図表 1-⑰</p>
<p>(イ) 早期に遠隔授業の一部導入を決定し準備を進めていた大学（名古屋大学）</p> <p>名古屋大学は、令和2年度前期の授業を、学事日程の当初予定を</p>	<p>図表 1-⑱</p>

1週間延期したのみで令和2年4月17日から開始した。

同大学が、令和2年度前期の授業を、原則、遠隔授業で実施することを決定したのは令和2年4月2日であったが、その前の3月中には、遠隔授業の実施方法に関する教員研修、遠隔授業実施に必要な情報通信設備の整備等の準備作業を実施していた。

同大学では、令和2年3月9日に策定した令和2年度前期の授業の実施方針において、4月17日から、面接授業と遠隔授業を隔週で実施することなどを決定していた。このため、3月中から遠隔授業の準備に取り掛かっていたものである。

また、同方針において、遠隔授業の実施方法はオンライン教材を同大学の学習支援システムによって配信する方法とされており、これにより、遠隔授業の実施方法に関する教員研修の早期実施が可能となったものとみられる。

このように部分的な導入ではあるが遠隔授業を導入することを早い時期に判断し、かつ、遠隔授業の実施方法を具体的に決定して準備作業を進めていたことが、その後、遠隔授業を全面的に実施することになっても早期に対応することができた要因となったものとみられる。

(ウ) 従来から推進していたオンライン教育のノウハウ等が遠隔授業の早期実施に寄与したとみられる大学（静岡大学）

静岡大学が、令和2年度前期の授業を、原則、遠隔授業で実施することを決定したのは令和2年4月8日であったが、その約3週間後の同月30日から、遠隔授業により授業を開始した。

同大学では、従来から、インターネットを活用して教育を提供するオンライン教育を推進しており、オンライン教材を導入した授業科目数の目標設定、オンライン教育に使用する動画の制作方法等に関する研修実施等の取組を実施してきた。また、同大学では、令和元年7月に「オンライン教育推進室」を設置して、上記のような取組をさらに推進することとしているほか、オンライン教育に利用する学習支援システム等のシステムの構築・改修を進めている。

同大学では、今回の新型コロナウイルス感染症対応のための遠隔授業を実施するに当たり、オンライン教育推進室が、教員、学生の支援サイトを開設し、遠隔授業で使用する動画等のオンライン教材の制作方法等、遠隔授業の実施方法・受講方法に関するマニュアルを掲載するなどの施策を講じており、同大学では、これは、これまでオンライン教育推進のために蓄積してきたノウハウを活用したものであると説明している。

また、同大学では、今回の新型コロナウイルス感染症対応のための遠隔授業は、オンライン教材を用いた遠隔授業により実施しているが、これに利用している学習支援システムの動画掲載機能は、令

図表1-⑱

<p>和元年度にオンライン教育推進室が改修・整備したものである。</p> <p>このように、同大学が、今回の新型コロナウイルス感染症に対応するための遠隔授業を順調に開始できた背景には、同大学がこれまでオンライン教育の推進に取り組み、遠隔授業に利用できるノウハウを有していたこと、また、遠隔授業に必要なシステムの検討、整備を進めていたことがあるものと考えられる。</p>	
--	--

図表 1-① 「学校における新型コロナウイルスに関連した感染症対策について」（令和 2 年 2 月 18 日付け文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課事務連絡）（抜粋）

<p>国内において新型コロナウイルスに感染した事例が相次いで報告されている中、<u>今後は、国内での感染をできる限り抑えることが重要となっています。</u>このため、改めて下記のとおり感染症対策のポイントをお知らせしますので、学校における感染症対策に万全を期すようお願いいたします。<u>幼児・児童・生徒・学生（以下、「児童生徒等」という。）</u>に対しては、現在の知見の下での新型コロナウイルス感染症に関する適切な知識をもとに、発達段階に応じた感染症対策の指導をお願いいたします。</p> <p>(略)</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>1. <u>基本的な感染症対策の徹底</u> 手洗いや咳エチケットなどの基本的な感染症対策を徹底するよう指導してください。</p> <p>2. (略)</p> <p>3. <u>適切な環境の保持</u> 適切な環境の保持のため、教室等のこまめな換気を心がけるとともに、空調や衣服による温度調節を含めて温度、湿度の管理に努めるよう適切な措置を講じてください。</p> <p>4. <u>卒業式などの学校行事等における感染症対策</u> 卒業式などの学校行事や入学試験など、大勢の人が長時間同じ空間にいる場合には、こまめな換気を実施するとともに、会場の入り口にアルコール消毒液を設置するなど、可能な範囲での対応を検討してください。</p> <p>(略)</p>
--

(注) 下線は当局が付した。

図表 1-② 「令和 2 年度における大学等の授業の開始等について（通知）」（令和 2 年 3 月 24 日付け元文科高第 1259 号）（抜粋）

<p>このたび公表された「新型コロナウイルス感染症対策の状況分析・提言」（令和 2 年 3 月 19 日新型コロナウイルス感染症対策専門家会議。以下単に「専門家会議見解」という。）においては、<u>春休み明け以降の学校再開に当たっては、多くの子供たちや教職員が、日常的に長時間集まることによる感染リスク等に備え、地域ごとのまん延の状況を踏まえていくことが重要であるとの考え方が示されました。</u></p> <p>また、<u>日々の学校現場における「3 つの条件が同時に重なる場」</u>を避けるため、①換気の悪い密閉空間にしないための換気の徹底、②多くの人が手の届く距離に集まらないための配慮、③近距離での会話や大声での発声をできるだけ控えるなど、保健管理や環境衛生を良好に保つような取組を進めていくとともに、咳エチケットや手洗いなどの基本的な感染症対策を徹底することが重要であるとの考え方が示されました。</p> <p>(略)</p> <p>大学及び高等専門学校（以下「大学等」という。）については、当初より一斉臨時休業の対象とはなっておりませんでした。令和 2 年度における感染の拡大防止措置の実施や学事日程の編成等に際し、御留意いただきたい事項等を下記のとおりとりまとめました。各大学等におかれましては、これらの事項について十分に御留意の上、令和 2 年度の教育研究活動の開始に向けた準備を行っていただきますようお願いいたします。</p>

(略)

記

1. 大学等における感染拡大の防止について

- (1) 大学等では、日常において、3つの条件（換気の悪い密閉空間、多くの人が密集、近距離での会話や発話）が重なることを徹底的に回避する対策が不可欠であること。大学等における授業等の開始に当たっては、万全の感染症対策を講じ、衛生環境の整備に特に御留意いただいた上で、その準備を進めていただきたいこと。

(略)

なお、地域における感染症の発生状況や学生の状況等を踏まえ、当初の予定通りに授業等を開始することが困難である場合には、設置者の判断で授業等の開始時期の延期等を行うことを妨げるものではないが、その検討を行う場合は、多様なメディアを高度に利用して行う授業（以下「遠隔授業」という。）の活用などによる学修機会の確保に留意すること。

(略)

3. 遠隔授業の活用について

- (1) 今後、学生の学修機会を確保するとともに、感染リスクを低減する観点から、いわゆる面接授業に代えて、遠隔授業を行うことが考えられること。

その際、平成13年文部科学省告示第51号（大学設置基準第25条の規定に基づき、大学が履修させることができる授業について定める件）等に従い行う必要があるところ、同告示第2号等の規定に基づき、テレビ会議システム等を利用した同時双方向型の遠隔授業や、オンライン教材を用いたオンデマンド型の遠隔授業を自宅等にいる学生に対して行うことは可能であり、例えば以下の方法によることが考えられること。

・テレビ会議システムを用いた遠隔授業の例

テレビ会議システムを利用して講義をリアルタイム配信し、学生は教室以外の場所（自宅を含む。）において、PCや携帯電話からインターネットに接続し受講。テレビ会議システムによって、教員と学生が、互いに映像・音声等による質疑応答や意見交換を行う。

・オンライン教材（MOOC等）を用いた遠隔授業の例

スライド資料や講義形式の動画等を教材としてe-learningシステム等を準備し、学生は教室以外の場所（自宅を含む。）において、PCや携帯電話からインターネットに接続し、随時又は期限が設定されている場合は当該期限内に受講。学生からの課題提出や質問の受付及び回答、学生間の意見交換等についても、インターネット等を通じて行う。質問の受付及び回答については、よくある質問とそれに対する答えについてあらかじめ提示しておき、それ以外の質問について担当教員又は指導補助者が回答するといった手法も考えられる。なお、聴講の前後において、授業担当教員による説明等の指導を行う必要があるが、こうした遠隔授業の一部として、MOOC等の教育コンテンツを活用することも考えられる。

(略)

(注) 下線は当局が付した。

図表 1-③ 大学設置基準（昭和 31 年文部省令第 28 号）（抜粋）

<p>(略)</p> <p>(授業の方法)</p> <p>第 25 条 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。</p> <p>2 大学は、文部科学大臣が別に定めるところにより、<u>前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。</u></p> <p>3 大学は、第 1 項の授業を、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。</p> <p>4 大学は、文部科学大臣が別に定めるところにより、第 1 項の授業の一部を、校舎及び附属施設以外の場所で行うことができる。</p> <p>(略)</p> <p>(卒業の要件)</p> <p>第 32 条 卒業の要件は、大学に 4 年以上在学し、124 単位以上を修得することとする。</p> <p>2 前項の規定にかかわらず、医学又は歯学に関する学科に係る卒業の要件は、大学に 6 年以上在学し、188 単位以上を修得することとする。ただし、教育上必要と認められる場合には、大学は、<u>修得すべき単位の一部の修得について、これに相当する授業時間の履修をもって代えることができる。</u></p> <p>3 第 1 項の規定にかかわらず、薬学に関する学科のうち臨床に係る実践的な能力を培うことを主たる目的とするものに係る卒業の要件は、大学に 6 年以上在学し、186 単位以上（将来の薬剤師としての実務に必要な薬学に関する臨床に係る実践的な能力を培うことを目的として大学の附属病院その他の病院及び薬局で行う実習（以下「薬学実務実習」という。）に係る 20 単位以上を含む。）を修得することとする。</p> <p>4 第 1 項の規定にかかわらず、獣医学に関する学科に係る卒業の要件は、大学に 6 年以上在学し、182 単位以上を修得することとする。</p> <p>5 前 4 項又は第 42 条の 12 の規定により卒業の要件として修得すべき単位数のうち、<u>第 25 条第 2 項の授業の方法により修得する単位数は 60 単位を超えないものとする。</u></p> <p>(略)</p>
--

(注) 下線は当局が付した。

図表 1-④ 平成 13 年文部科学省告示第 51 号「大学設置基準第 25 条第 2 項の規定に基づき、大学が履修させることができる授業等について定める件」（抜粋）

<p>大学設置基準（昭和 31 年文部省令第 28 号）第 25 条第 2 項の規定に基づき、大学が履修させることができる授業等について次のように定め、平成 13 年 3 月 30 日から施行する。</p> <p>(略)</p> <p>通信衛星、光ファイバ等を用いることにより、多様なメディアを高度に利用して、文字、音声、静止画、動画等の多様な情報を一体的に扱うもので、<u>次に掲げるいずれかの要件を満たし、大学において、大学設置基準第 25 条第 1 項に規定する面接授業に相当する教育効果を有すると認めたものであること。</u></p> <p>1 <u>同時かつ双方向に行われるものであって、かつ、授業を行う教室等以外の教室、研究室</u></p>

又はこれらに準ずる場所（大学設置基準第 31 条第 1 項の規定により単位を授与する場合においては、企業の会議室等の職場又は住居に近い場所を含む。以下次号において「教室等以外の場所」という。）において履修させるもの

- 2 毎回の授業の実施に当たって、指導補助者が教室等以外の場所において学生等に対面することにより、又は当該授業を行う教員若しくは指導補助者が当該授業の終了後すみやかにインターネットその他の適切な方法を利用することにより、設問解答、添削指導、質疑応答等による十分な指導を併せ行うものであって、かつ、当該授業に関する学生等の意見の交換の機会が確保されているもの

(注) 下線は当局が付した。

図表 1-⑤ 「学事日程等の取扱い及び遠隔授業の活用に係る Q & A の送付について（4 月 21 日時点）」（令和 2 年 4 月 21 日付け文部科学省高等教育局大学振興課事務連絡）（抜粋）

(略)

問 17 新型コロナウイルス感染症対策として、本来面接授業として実施することを予定していた授業科目に係る授業の全部又は一部が、結果的に遠隔授業により実施された場合については、60 単位の上限に算入する必要があるか。【更新】

- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、臨時休業が長期化するなど、本来授業計画において面接授業の実施を予定していた授業科目に係る授業の全部又は一部を面接授業により予定通り実施することが困難と認められる場合には、特例的な措置として、面接授業に相当する教育効果を有すると大学において認められるものについては、大学設置基準第 25 条第 1 項で規定する授業の方法を弾力的に取り扱って差し支えありません。

具体的には、同規定が主に想定している、教室等において対面で授業を行うという授業の方法について、面接授業に限らず、自宅における、遠隔授業や、授業中に課すものに相当する課題研究等（以下「面接授業以外の授業」という。）を行うなど、弾力的な運用を行うことも認められます。

- 上記特例的な措置において面接授業以外の授業として認められる遠隔授業は、同条第 2 項の規定による遠隔授業ではなく、同令第 32 条第 5 項の規定は適用されないことから、同規定の 60 単位の上限に算入する必要はありません。

- なお、上記特例的な措置の面接授業以外の授業の成績評価を行う場合であっても、当該授業の実施状況及び成果を確認した結果、当該授業科目の到達目標を十分に達成できていることに加え、面接授業に相当する教育効果が認められる必要があります。その観点から、以下の（1）から（3）までについて、留意頂くようお願いします。

（1）授業担当教員の各授業ごとの指導計画（シラバス等）の下に実施されていること

（2）授業担当教員が、オンライン上での出席管理や、確認的な課題の提出などにより、当該授業の実施状況を十分に把握していること

（3）大学として、どの授業科目が遠隔授業で実施されているかなど、個々の授業の実施

状況について把握していること
(略)

(注) 下線は当局が付した。

図表 1-⑥ 調査対象の 8 国立大学の概要

大学名	学生数	教員数			学部等・大学院の状況	
		常勤	非常勤	計	学部等数	研究科数
岐阜大学	7,326 人	868 人	473 人	1,341 人	6	10
静岡大学	10,229 人	826 人	389 人	1,215 人	7	5
浜松医科大学	1,216 人	384 人	176 人	560 人	1	1
名古屋大学	16,114 人	2,330 人	1,376 人	3,706 人	9	13
愛知教育大学	4,073 人	202 人	225 人	427 人	1	1
名古屋工業大学	5,830 人	357 人	112 人	469 人	1	1
豊橋技術科学大学	2,084 人	189 人	72 人	261 人	1	1
三重大学	7,044 人	781 人	691 人	1,472 人	5	6

(注) 1 当局の調査結果による。
 2 「学生数」及び「教員数」は令和 2 年 5 月 1 日現在の数である。
 また、学生数は、学部生、大学院生、聴講生等の計である。
 3 「学部等数」は学部及び学環の数である。

図表 1-⑦ 令和 2 年度前期における授業の開始日

大学名	当初予定の授業開始日	実際の授業開始日 (遠隔授業による。)		令和 2 年度前期授業を原則、遠隔授業で実施することを決定した日
岐阜大学	4 月 10 日	医学部看護学科	4 月 20 日	4 月 8 日
		応用生物科学部共同獣医学科	4 月 22 日	
		教育学部、地域科学部、工学部、 応用生物科学部 (共同獣医学科以外)、 全学共通教育科目	5 月 7 日	
		医学部医学科	5 月 11 日	
静岡大学	4 月 9 日	全学	4 月 30 日	4 月 8 日
浜松医科大学	4 月 6 日	医学部医学科	4 月 6 日	3 月 31 日
	4 月 13 日	医学部看護学科	4 月 13 日	
名古屋大学	4 月 10 日	全学	4 月 17 日	4 月 2 日
愛知教育大学	4 月 8 日	全学	5 月 7 日	4 月 21 日
名古屋工業大学	4 月 7 日	全学	5 月 14 日	4 月 7 日
豊橋技術科学大学	4 月 8 日	全学	5 月 11 日	4 月 23 日
三重大学	4 月 10 日	医学部、工学部、生物資源学部	4 月 17 日	3 月 31 日
		人文学部、教育学部	5 月 14 日	
		教養教育院	5 月 15 日	

(注) 1 当局の調査結果による。
 2 本表では学部の状況を記載し、大学院の状況は省略した。

図表1-⑧ 令和2年度前期における授業の実施方法

大学名	令和2年度前期授業開始当初における授業方法	面接授業の実施状況
岐阜大学	遠隔授業のみで実施	6月4日から、全学共通教育科目及び主たる受講者が1年生である専門科目は面接授業で実施可能とするなど、面接授業を再開した。 なお、面接授業で実施する授業については、教室定員の60%未満となる人数などの条件を付した。
静岡大学	遠隔授業のみで実施	6月8日から、3密対策等の感染防止対策が講じられていることを要件として、面接授業を一部再開することを可能とした(語学、体育実技、実習等)。
浜松医科大学	講義は基本的に遠隔授業で行う。実習、演習は感染防止対策を講じた上で、面接授業で実施する。	
名古屋大学	遠隔授業のみで実施	5月25日から、1教室当たりの参加人数等の要件を付した上で、実験・実習科目の面接授業を開始することを可能とした。
愛知教育大学	遠隔授業のみで実施	6月1日から、遠隔授業では対応できない実験、実習等のうち、緊急度、必然度が高い等の理由により、学務部に申請して承認された授業について面接授業を開始することとした。
名古屋工業大学	遠隔授業のみで実施	6月22日から、演習、実験、実習について、感染予防策を実践した上で、面接授業を開始することを可能とした。
豊橋技術科学大学	遠隔授業のみで実施	6月15日から、主に語学、実験、実習について、感染防止対策措置を行った上で、面接授業を開始することを可能とした。
三重大学	遠隔授業のみで実施	7月上旬から、検温、3密の回避などを遵守の上、実習など一部の授業を対面で実施することを可能とした。

(注) 当局の調査結果による。

図表 1-⑨ 令和 2 年度前期の授業実施方法別科目数

大学名	開講科目数	開講した科目数				開講しなかった科目数(中止、延期等)
		すべて遠隔授業	面接授業・遠隔授業併用	すべて面接授業	計	
岐阜大学	2,005	932	392	192	1,516	489
静岡大学	3,053	2,467	534	0	3,001	52
浜松医科大学	168	97	41	25	163	5
名古屋大学	6,665	4,574	1,824	61	6,459	206
愛知教育大学	1,600	1,392	172	30	1,594	6
名古屋工業大学	1,119	962	138	3	1,103	16
豊橋技術科学大学	714	636	58	1	695	19
三重大学	2,152	1,952	0	30	1,982	170
合計(比率)	17,476	13,012(78.8)	3,159(19.1)	342(2.1)	16,513(100)	963

(注) 1 当局の調査結果による。

図表 1-⑩ 令和 2 年度後期の授業実施方法別科目数(予定)

大学名	開講科目数	開講科目数				その他(中止、延期、未把握等)
		すべて遠隔授業	面接授業・遠隔授業併用	すべて面接授業	計	
岐阜大学	3,092	258	219	303	780	2,312
静岡大学	2,683	1,726	300	631	2,657	26
浜松医科大学	119	40	22	57	119	0
愛知教育大学	1,508	481	587	440	1,508	0
名古屋工業大学	676	332	328	16	676	0
豊橋技術科学大学	651	15	590	38	643	8
三重大学	2,189	1,927	5	216	2,148	41
合計(比率)	10,918	4,779(56.0)	2,051(24.0)	1,701(19.9)	8,531(100)	2,387

(注) 1 当局の調査結果による。

2 「合計」欄の()内は、令和 2 年度後期に開講している授業科目数に対する授業方法(遠隔授業、面接授業)別科目数の比率(%)である。なお、四捨五入の関係で比率の計は「計」欄の数(100)と一致しない。

3 岐阜大学は、面接授業、遠隔授業別の実施科目数について、当局調査時点では把握途上であり、未把握の科目が多い。

4 名古屋大学は、後期も引き続き面接授業と遠隔授業のいずれか又は併用により実施しているが、面接授業、遠隔授業の実施方法別科目数についての学内調査は後期後半に行う予定のため当局調査時点では把握していない。

図表1-⑪ 遠隔授業の実施方法

大 学 名	遠隔授業の実施方法	当該方法を推奨等している理由（大学の説明）
岐阜大学	オンライン教材を用いた方法を推奨	<p>ウェブ会議システムを用いた同時双方向型の遠隔授業では、下記の問題が発生するおそれがあるが、オンライン教材を用いた遠隔授業であれば、これを回避することができるため。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 特定の時間帯に通信ネットワークに負荷がかかり通信トラブルが発生することがある。同時双方向型の遠隔授業では、通信トラブルが発生した場合、受講できなくなる。 ○ 同時双方向型の遠隔授業はデータ通信量が多い。学生の中には、スマートフォン等で通信量に制限のある契約の者がいるので、通信量を少なくできるオンライン教材を用いた方式で実施することが適当である。
静岡大学	オンライン教材を用いた方法を推奨	<ul style="list-style-type: none"> ○ 同時双方向型の遠隔授業では、通信トラブルによって授業の配信が中断するなど、円滑に授業が受けられない事態が発生する場合がある。 ○ 同時双方向型の遠隔授業では、授業の URL や資料を見るために、学生が同一時間帯に学習支援システムにアクセスするため、同システムに過大な負荷がかかるおそれがある。
浜松医科大学	教員の選択に任せ、特定の方法を指定していない。	<p>ウェブ会議システムを用いた同時双方向型の遠隔授業で実施している授業がほとんどである。</p> <p>その理由は、教員と学生が、双方向で質疑等のやり取りをしながら授業できる方式の方が、教育効果が高いと考えられるためである。</p>
名古屋大学	オンライン教材を用いた方法を推奨	<p>ウェブ会議システムを用いた同時双方向型の遠隔授業ではデータ通信量が多いこと等から、以下の理由により、オンライン教材を用いた遠隔授業を基本としている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 通信システムは有限な資源である。同じ時期に義務教育や高校でも遠隔授業を行っており、通信システムにかかる負荷を低減させる必要がある。 ○ 学生の中には、スマートフォン等で使用できる通信量に制約のある者がいることから、遠隔授業の通信量を抑える必要がある。なお、オンライン教材を用いる方式であっても、教材は音声付きスライド資料によることとし、データ量

		<p>の多い動画は利用しないよう教員に要請している。</p>
愛知教育大学	オンライン教材を用いた方法を推奨	<p>全学で一斉に遠隔授業を開始した場合、通信障害がどれだけ発生するか見通せない状況の中、ウェブ会議システムを用いた同時双方向型では、スムーズに履修できない学生が頻出するおそれがあった。</p> <p>これに対し、オンライン教材を用いた遠隔授業であれば、随時の時間に受講し見直すことができ、通信障害への対応も可能である。</p>
名古屋工業大学	オンライン教材を用いた方法が原則（同時双方向型の授業を実施する場合はオンデマンド教育推進部会への申請承認が必要）	<p>遠隔授業では、学生の視聴機会を確保し、授業として成立することが最低限の要件である。</p> <p>ウェブ会議システムを用いた同時双方向型の授業では、通信障害による学生の視聴機会損失に教員は気づきにくい。このため視聴機会を失った学生については授業の成立要件が満たされない場合がある。</p> <p>これに対し、オンライン教材を用いた遠隔授業であれば、随時の時間に視聴でき通信障害のリスクを回避することができる。</p>
豊橋技術科学大学	オンライン教材を用いた方法を推奨	<p>豊橋技術科学大学では、全体の3分の1程度の学生が大学構内の学生寮に入居している。</p> <p>ウェブ会議システムを用いた同時双方向型の遠隔授業はデータ通信量が多い上、大学構内の学生寮にいる学生が同一時間帯に受講することになり、大学の情報通信設備に過大な負荷がかかるおそれがある。</p> <p>このため、随時の時間に受講が可能なオンライン教材を用いた遠隔授業を基本としている。</p>
三重大学	学部の選択に任せ、特定の方法を指定していない。	<p>ウェブ会議システムを用いた同時双方向型の遠隔授業で実施している授業がほとんどである。</p> <p>この理由は、教員は、面接授業に近い方式で実施できる同時双方向型の遠隔授業を希望するためである。</p>

(注) 当局の調査結果による。

図表1-⑫ 令和2年度前期の授業を原則、遠隔授業で実施すると決定するまでの経緯等

① 3月上中旬に決定した方針では、面接授業の3密回避対策として遠隔授業を併用する等としていたが、4月上旬になって、原則、遠隔授業とすることとした大学			
大学名	令和2年度前期の授業を原則、遠隔授業で実施すると決定するまでの経緯		令和2年度前期の授業を原則、遠隔授業で実施することとした理由
	時点	検討・方針の状況	
岐阜大学	3月17日	「2020年前学期における講義等の実施にかかる方針（新型コロナウイルス感染症対策）」では、面接授業の3密回避のため、学生を半分に分け、面接授業と遠隔授業を隔週で実施する等の方策を検討することとしていた。	4月6日から19日までの大学全館閉鎖等、昨今の新型コロナウイルス感染症を取り巻く環境の変化のため (令和2年4月8日付け「2020年前学期における講義等の実施にかかる方針（新型コロナウイルス感染症対策）の一部更新について」による。)
	4月3日	感染拡大防止対策の強化に関する岐阜県の要請を受け、4月19日まで全館閉鎖を決定	
	4月8日	上記の講義等の実施にかかる方針を変更し、4月20日から、原則として、授業は遠隔授業で実施することを決定 (注) 後日、5月7日以降に遠隔授業を開始することも認めることとした。	
名古屋大学	3月9日	「2020年度春学期における講義等の実施にかかる方針（新型コロナウイルス感染症対策）」では、学生を半分に分け、面接授業と遠隔授業を隔週実施するなど、感染防止対策を講じた上で、4月17日から授業を開始することとした。	4月1日に示された政府の「新型コロナウイルス感染症専門家会議」の状況分析・提言や、社会情勢等を勘案 (令和2年4月2日付け「2020年度春学期における講義等の実施にかかる方針について（新型コロナウイルス感染症対策）の一部更新について」による。)
	4月2日	上記の方針を変更し、4月17日から、原則として、授業は遠隔授業で実施することを決定	
② 3月中は面接授業実施の方針としていたが、4月になって、遠隔授業の利用を検討することとした大学			
大学名	令和2年度前期の授業を原則、遠隔授業で実施すると決定するまでの経緯		令和2年度前期の授業を原則、遠隔授業で実施することとした理由
	時点	検討・方針の状況	

静岡大学	3月27日	当初予定どおり4月9日から授業を開始する旨、教員、学生に周知	都市部を中心に新型コロナウイルス感染症の拡大が続いており、4月7日には、7都府県対象に緊急事態宣言が発出される事態となったこと (令和2年4月8日付け「令和2年度前学期の授業の開始日の再延期及び授業の実施方法等について(通知)」による。)
	3月31日	授業開始日を4月23日に延期する旨、教員、学生に周知(遠隔授業については言及なし。)	
	4月8日	「新型コロナウイルス感染症に関する静岡大学対策本部会議」において、4月30日から遠隔授業により授業を開始する旨を決定	
愛知教育大学	3月25日	授業開始日を4月15日からとする旨ホームページで周知	緊急事態宣言の対象地域が全国に拡大され、愛知県は「特定警戒都道府県」の一つに位置付けられたこと (令和2年4月21日付け「令和2年度前期における遠隔授業の実施要請について」による。)
	4月1日	授業での3密回避方法の一つとして、遠隔授業を検討するなどの工夫を行うよう教員に要請	
	4月6日	授業開始日を4月30日からとする旨ホームページで周知	
	4月10日	授業開始日を5月7日からとすること、遠隔授業を検討している旨ホームページで周知	
	4月21日	学長・理事懇談会での検討を踏まえ、学長が、前期授業は遠隔授業のみとすることを教員に要請	

③ 3月下旬に令和2年度前期の授業の実施方法を検討する会議が開催され、原則、遠隔授業とすることを決定あるいは検討することとした大学

大学名	令和2年度前期の授業を原則、遠隔授業で実施すると決定するまでの経緯		令和2年度前期の授業を原則、遠隔授業で実施することとした理由
	時点	検討・方針の状況	
浜松医科大学	3月31日	「令和2年度新型コロナウイルス感染症拡大に伴う授業・ガイダンスの実施に関する検討会議」(教育担当の理事、副学長、学生委員長等出席)において、4月からの授業はウェブ会議システムを使用してライブ配信(遠隔授業)で行うことを承認	Covid-19感染者増及び浜松市における初の検査陽性者の発生など (令和2年4月1日付け「【重要】4月からの本学授業の実施について」による。)
豊橋技術科学大学	3月31日	臨時教務委員会において、次期学長から前期授業は5月11日から開始したい旨の説明があり了承。また、授業は遠隔授業で実施することとし、5月11	新型コロナウイルス感染症拡大 (令和2年3月31日開催の「臨時的教務委員会」)

		日までの期間は、その検討期間としてほしい旨の要請あり。	の議事メモによる。)
	4月23日	教育戦略本部・教務委員会合同会議において決定した「2020年度の授業の実施方法について」により、一般科目は遠隔授業により実施すること等を規定	
三重大大学	3月24日及び26日	「新型コロナウイルス感染症対策授業等実施検討会議」(教育担当理事、副学長、各学部の教務委員長、事務局の教務担当職員等出席)を開催し、遠隔授業の実施など前期の授業の実施方針を協議	国内の複数の地域で感染経路が明らかでない市中感染が発生しており、三重県知事も首都圏等への不要不急の外出の自粛を求める事態に至っていること (令和2年4月2日付け「令和2年度前期における授業等の実施に係る方針について(新型コロナウイルス感染症対策)」による。)
	3月31日	教育研究評議会(書面審議)において、前期授業はすべて遠隔授業で実施する等とした「令和2年度前期における授業等の実施に係る方針について」を承認	

④ 3月上旬から遠隔授業導入のための検討を開始し、4月上旬に、原則、遠隔授業とすることを決定した大学

大学名	令和2年度前期の授業を原則、遠隔授業で実施すると決定するまでの経緯		令和2年度前期の授業を原則、遠隔授業で実施することとした理由
	時点	検討・方針の状況	
名古屋工業大学	3月上旬	メディアを活用した授業(反転授業)について検討していた教員グループに対し、理事(学務担当)が、遠隔授業の導入に向けた検討事項の洗い出しを依頼	新型コロナウイルス感染症拡大のため (令和2年4月7日付けの教員・学生への周知文書「2020年度前期における授業等の実施に係る方針について」による。)
	3月19日	授業開始日を4月7日から4月20日に変更	
	4月3日	教育企画院(同大学の教育に関する事項の企画立案の審議組織)委員に、前期の授業の方針について意見聴取	
	4月7日	上記の結果を受け、学長が、前期授業は5月7日から遠隔授業で開始するとして「2020年度前期における授業等の実施に係る方針(新型コロナウイルス	

		ス感染症対策)」を決定（後日、授業開始は5月14日に再延期）	
--	--	--------------------------------	--

(注) 1 当局の調査結果による。

2 「時点」欄の日付は、いずれも令和2年の日付である。

図表1-⑬ 遠隔授業の実施方法に関する教員研修の実施状況

大 学	実施日	研修対象	研 修 内 容	実施方法
岐阜大学	4月20日、 21日	教育学部教員	ウェブ会議システム接続テスト、遠隔授業の考え方や方法、学習支援システムの基本操作等	ウェブ会議システム
静岡大学	4月7日	希望する教員	オンライン教材の作成方法	集合
	4月20日 ～22日	希望する教員	電子教材作成及び教材アップロード操作方法等	集合
	4月16日 ～	全教員	学習支援システムの使用方法	動画の視聴
	4月23日	人文社会科学部及び非常勤講師	遠隔授業に使用するソフト及び学習支援システムの基本操作等	集合
浜松医科大学	4月1日～ 8日	全教員	ウェブ会議システムを利用した授業方法	集合、ウェブ会議システム、動画視聴
名古屋大学	3月23日、 24日、26日	全教員	学習支援システムの使用方法	23日：ウェブ会議システム 24日、26日：集合
	3月30日、 4月8日、 10日	全学教育科目担当外国人教員、非常勤講師等	学習支援システムの使用方法	集合、ウェブ会議システム
	4月13日	全学教育科目担当教員	ウェブ会議システムの使用・活用方法	集合、ウェブ会議システム
	上記のほか、教育学部、法学部、経済学部、医学部、工学部、農学部等において、学習支援システム、ウェブ会議システムの使用方法等の遠隔授業に関する研修を実施している。			
愛知教育大学	4月10日	全教員	遠隔授業の実施方法、ツールの利用方法	集合、ウェブ会議システム

				テム
名古屋工業大学	4月8日、9日	全教員	学習支援システムの使用方法	集合
豊橋技術科学大学	4月30日	全教員	学習支援システムの使用方法等の遠隔授業実施方法	学習支援システムにマニュアル掲載
三重大学	4月7日、23日	人文学部教員	ウェブ会議システムの操作方法	ウェブ会議システム
	4月6日～(数回)	教育学部教員	ウェブ会議システムによる授業開催方法	集合、ウェブ会議システム
	4月15日	医学部・付属病院教員	ウェブ会議システムによる授業の実践的方法	ウェブ会議システム
	4月3日、15日、16日	工学部教員	ウェブ会議システムの使用方法等	集合
	4月3日	生物資源学部教員	ウェブ会議システムによる授業開催方法	集合、ウェブ会議システム
	4月8日	教養教育院教員	ウェブ会議システムの操作方法	集合、ウェブ会議システム
	4月23日、24日、27日、28日	教養教育院・人文学部非常勤講師 他学部教員	学習支援システム、ウェブ会議システムの操作方法	ウェブ会議システム
	4月1日	地域イノベーション研究科教員	ウェブ会議システムの使用方法	集合

(注) 1 当局の調査結果による。

2 「実施日」の日付は、いずれも令和2年の日付である。

図表1-⑭ 新入生ガイダンス、履修登録等の状況

大学・学部等		新入生ガイダンス		履修登録期間	授業開始日
		開催日	中止の場合の代替措置		
岐阜大学	地域科学部	中止	資料郵送	4月22日～28日	5月7日
	教育学部	中止	資料郵送	4月22日～5月4日	5月7日
静岡大学	人文社会科学部	4月10日		4月16日～26日	4月30日
	教育学部	中止	ガイダンス情報集約サイトを立ち上げて資料を掲載	4月16日～26日	4月30日
浜松医科大学		4月9日		医学部医学科 4月8日～17日	4月13日 (新入生)
				医学部看護学科 4月7日～17日	
名古屋大学	法学部	4月3日		4月3日～9日	4月17日
	教養教育院			4月3日～9日	4月17日
愛知教育大学		中止	教務情報システムで資料配信	4月23日～29日	5月7日
名古屋工業大学		中止	資料郵送	5月14日～20日	5月14日
豊橋技術科学大学		4月2日～7日		4月3日～5月15日	5月11日
三重大学	人文学部	中止	資料郵送、動画を学習支援システムで配信	5月7日～12日	5月14日
	教育学部	中止	資料郵送、動画を学習支援システムで配信	5月7日～12日	5月14日

(注) 1 当局の調査結果による。

2 岐阜大学、静岡大学、名古屋大学及び三重大学については、当局が調査対象とした学部等の状況を記載した。

3 名古屋工業大学では、履修登録は授業開始日から始め、その後、指導教員の指導アドバイス期間を経て、履修登録確認・修正が行われる。

4 新入生ガイダンスの「開催日」、「履修登録期間」、「授業開始日」の各欄の日付は、いずれも令和2年の日付である。

図表 1-⑮ 遠隔授業実施に向けた大学の情報通信設備の整備状況

大 学 名	情報通信設備の整備の内容
名古屋大学	学習支援システムに係るサーバについて、特定のサーバにアクセスが集中しないよう負荷分散装置を増設
名古屋工業大学	学習支援システムに係るサーバの処理能力の向上(仮想サーバのCPU、メモリの設定変更等)
豊橋技術科学大学	学習支援システムに係るサーバの処理能力の向上(仮想サーバのCPU、メモリの設定変更等)
三重大学	学習支援システムに係るサーバの処理能力の向上(仮想サーバのCPU、メモリの設定変更等)

(注) 当局の調査結果による。

図表 1-⑯ 遠隔授業に使用する教材の作成要請事例

大 学 名	教員に対する教材の作成・準備要請の内容
静岡大学	令和2年度前期授業を、遠隔授業により4月30日から開始した。 これに先立ち、令和2年4月8日付けの各部局長宛ての通知「令和2年度前学期の授業の開始日の再延期及び授業の実施方法等について(通知)」では、各科目の第1回目分は4月28日(火)までに、第2回目分は5月1日(金)までに授業の課題や教材等を受講生に提示できるよう要請した。
名古屋大学	令和2年3月時点では、学生を2グループに分けて、面接授業と遠隔授業を隔週で実施するなどの感染防止対策を講じた上で、令和2年度前学期の授業を4月17日から開始することとしていた。 このため、令和2年3月9日に策定した「2020年度春学期における講義等の実施に係る方針について(新型コロナウイルス感染症対策)」では、事前に実施すべき準備事項として1回目の講義までに、教材や課題を最低1回分用意することとした。
豊橋技術科学大学	令和2年度前期授業を、遠隔授業により5月11日から開始した。 これに先立ち、令和2年4月30日付けの教員宛て文書「前期授業開始に関する授業準備について(依頼)」により、5月11日から22日の期間内に遠隔授業を開始できるよう、遠隔授業に対応した教材作成等の準備を遅滞なく進めるよう依頼した。

(注) 当局の調査結果による。

図表 1-⑰ 短期間で準備し学事日程の予定どおりに授業を開始した大学(浜松医科大学)

<p>1 遠隔授業開始日等の状況</p> <p>令和2年3月31日に、令和2年度前期の授業を原則、遠隔授業で実施することを決定し、学事日程の予定どおり、4月6日から遠隔授業により授業を開始した。</p> <p>2 遠隔授業開始までの準備作業の状況</p> <p>遠隔授業実施決定から授業開始までの約1週間内に次のような準備作業を実施した。</p> <p>① 学生への説明</p>

在学生ガイダンスを4月2日に、新入生ガイダンスを4月9日に開催し、遠隔授業について説明した。なお、在学生ガイダンスは遠隔授業で使用予定のウェブ会議システムにより実施した。

② 教員の研修

4月1日から8日の間に7回、教員に対し、ウェブ会議システムを利用した授業方法についての研修を実施した。

③ 学生のインターネット環境の調査

学生が遠隔授業を受講できる環境にあるかの確認のため、3月31日から4月3日の間で、Wi-Fi等のインターネット環境の整備状況に関するアンケート調査を実施した。

④ 遠隔授業のための施設・システムの整備

- ・ 遠隔授業に利用することとしたウェブ会議システムの使用契約（アカウント取得）
- ・ 教員がウェブ会議システムで授業を行うブースを8ブース整備

3 短い準備期間で遠隔授業が開始できた要因

短い準備期間で遠隔授業が開始できた要因については、同大学が令和2年3月31日に遠隔授業の実施を決定した際に、ウェブ会議システムを利用することに加え、使用するウェブ会議システムのシステム名を特定するなど具体的な実施方法が示されていたことが、以降の準備作業を速やかに実行に移すことができた背景となっていると考えられる。この点について、同大学では、新型コロナウイルス感染症の危機管理対策を検討する中で、授業の実施方法等についても、大学執行部が中心となって頻繁に協議を行って検討を進めてきた結果であると説明している。

具体的には、同大学医学部教員が参加している全国の医学教育関係者の情報共有グループにおいて、2月下旬頃から、面接授業ができない場合の対応方法を検討しており、この中で、ウェブ会議システムを利用した遠隔授業を実際に試行した結果等が報告されるなど、同システムにより有効な遠隔授業が可能であるとの情報を得ていた。上記の情報も含めて、大学執行部において、令和2年度前期の授業の実施方法の検討を進めた結果、3月31日に開催した「令和2年度新型コロナウイルス感染症拡大に伴う授業・ガイダンスの実施に関する検討会議」において、遠隔授業の実施方法はウェブ会議システムによることとし、使用するウェブ会議システムのシステム名を特定して決定している。

なお、上記のほか、同大学が、比較的規模の小さい単科大学で、学生数が少ないこと（約1,200人）、授業科目数も少ないことが、以下のとおり、遠隔授業の準備等が順調に実施できたこと背景となっているものとみられる。

① 学生数が少ないため、ウェブ会議システムを使用して在学生ガイダンスを開催するなど、遠隔授業の実施に関する学生への周知が順調に行えたほか、学生のインターネット環境の調査も短期間で実施し、遠隔授業を実施できる環境にあることが確認できた。

② 同大学では、遠隔授業のほとんどがウェブ会議システムによる同時双方向型で実施されている。ウェブ会議システムを使用した遠隔授業の実施に当たり、事務局（学務課）では、教員の遠隔授業実施状況をモニター画面で監視しトラブルがあった場合に即座に対応、遠隔授業に使用する教材資料等を教員に代わって学習支援システムに掲載といった教員サポートを行っており、これにより、遠隔授業で使用するシステム（ウェブ会議システム、学習支援システム）の操作等に不慣れな教員がいても、順調に遠

隔授業が実施できたものとみられる。

同大学においては、授業科目数が少なく、同一時間帯に開講される遠隔授業の科目数が最大 8 科目であることから、上記のような事務局による教員サポートが可能であるものと考えられる。

(注) 当局の調査結果による。

図表 1-⑩ 早い時期に遠隔授業の一部導入を決定し準備を進めていた大学 (名古屋大学)

1 遠隔授業開始日等の状況

令和 2 年度前期の授業を、学事日程の当初予定 (4 月 10 日授業開始) を 1 週間延期したのみで、4 月 17 日から開始した。

2 遠隔授業開始までの準備作業の状況

令和 2 年度前期の授業を、原則、遠隔授業で実施することを決定したのは令和 2 年 4 月 2 日であったが、その前の 3 月中には、次のとおり、遠隔授業の実施に向けた一部の準備作業を実施しており、これが、比較的早期に遠隔授業を開始できた要因となったものとみられる。

① 遠隔授業に関する教員研修の実施

3 月中 (23 日、24 日、26 日) に、情報担当部局と教育担当部局が連携して、「オンライン授業支援ツールの利活用に向けて」と題して、学習支援システムを活用した授業の実施方法、ウェブ会議システムの活用についての教員研修を実施した。

また、当該研修の収録動画を学習支援システムに掲載し、閲覧に供している。

② 情報通信設備の整備

遠隔授業は、学習支援システムにアップロードされた解説音声付きスライド資料等の教材資料により学生が受講するオンライン教材を用いた方式を基本としている。

このため、遠隔授業の実施に伴い、学生の学習支援システムへのアクセスが急増することが想定されたため、3 月中旬から、学習支援システムのサーバの負荷分散装置の調達を始め、納品、設置、調整を経て 4 月 9 日から運用を開始した。

3 早期に遠隔授業の準備作業に着手した理由等

令和 2 年 3 月 9 日に策定した「2020 年度春学期における講義等の実施に係る方針について (新型コロナウイルス感染症対策)」では、面接授業の 3 密回避のため、学生を 2 グループに分け、グループごとに隔週で面接授業、遠隔授業を受講する等の方策を実施することとし、授業は 4 月 17 日から開始することとした。

このように一部導入ではあるが遠隔授業を導入する方針が示されたことから、上記のとおり、準備作業を行ったものである。

また、上記方針では、遠隔授業の実施方法について、オンライン教材を用いる遠隔授業 (教材や課題を学習支援システムにアップロード、同様に学習支援システムを介して課題の提出・受講確認を実施) を推奨するとしており、このため、上記の教員研修では、学習支援システムの活用方法を中心に説明が行われた。

(注) 当局の調査結果による。

図表1-⑱ 従来から推進していたオンライン教育のノウハウ等が遠隔授業の早期実施に寄与したとみられる大学（静岡大学）

1 遠隔授業開始日等の状況

令和2年度前期の授業を、原則、遠隔授業で実施することを決定したのは令和2年4月8日であったが、その約3週間後の同月30日から、遠隔授業により授業を開始した。

2 遠隔授業を比較的早期に開始できた要因

今回の新型コロナウイルス感染症に対応するための遠隔授業を比較的早期に開始できたのは、以下のとおり、同大学が従来からオンライン教育を推進するための取組や体制・設備整備を行っており、蓄積したノウハウや成果が今回の遠隔授業の実施に反映されたことが一つの要因となったものとみられる。

(1) オンライン教育の推進状況

以下のとおり、オンライン教育の推進に取り組んでいる。

① オンライン教材を導入した授業の推進

第3期中期目標・計画期間中（平成28年度から令和3年度まで）の機能強化戦略（地域の人材育成の中核拠点を目指した機能強化戦略）の取組の評価指標の一つとして、授業のオンライン化への取組指標（オンライン教材の導入科目数）を設定している。

上記の目標と実績は下表のとおりであり、目標を上回る実績となっている。

表 オンライン教材を導入した授業科目数の目標と実績 単位：科目

区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
目標値	12	20	29	56	67	107
実績値	14	21	42	85		

（注）静岡大学提出資料による。

② オンライン教育用動画制作等の教員研修の実施

上記の取組（授業へのオンライン教材の導入）に関連し、オンライン教材用の動画制作などオンライン教育に関連した教員研修を実施している。

その平成30年以降の実績は、下表のとおりである。

表 オンライン教育用動画制作等の教員研修の実施状況

区分	研修名	実施回数	参加者数	研修内容
平成30年	オンライン教育総合セミナー	15回	181人	授業オンライン化の実践セミナー。パソコンの操作実習、授業動画制作実習
	出版セミナー	3回	30人	教科書、参考書などの電子教材制作及び出版を行うための実践セミナー
	動画制作セミナー	5回	46人	パソコンの操作実習、授業動画制作実習
	ロボット活用セミナー	2回	18人	ロボットの応用機能（ロボット先生の授業）について説明

	ソフトウェアセミナー	2回	22人	オンライン教育に使用するソフトウェアの説明と実習
令和元年	動画作成説明会	3回	不明	教授会で動画制作について説明
	動画作成説明	1回	約30人	全学教育基盤機構会議で動画制作について説明
	オンライン教育用動画制作セミナー	3回	10人	オンライン教育用の動画制作について説明

(注) 静岡大学提出資料による。

③ 「オンライン教育推進室」の設置

オンライン教育をさらに推進するため、令和元年7月に「オンライン教育推進室」を設置した。

同室では、令和元年度には、オンライン教育用動画の制作、教員等への動画制作支援（上記②参照）、動画制作・動画配信のためのシステムの構築及び改修（学務情報システムの改修等）などについて取り組んでいる。

(2) オンライン教育推進のノウハウ等の遠隔授業への反映

今回の新型コロナウイルス感染症対応の遠隔授業のために実施した事項等についてみると、以下のとおり、これまでのオンライン教育推進の取組のノウハウや成果が反映されている。

- ① 遠隔授業を実施することを決定した令和2年4月8日に、オンライン教育推進室が、教員向け、学生向けの緊急対応サイトを開設し、遠隔授業の実施に関する各種の情報を掲載するとともに、質問・問合せに対応することとした。

同緊急対応サイトでは、教員向けには、教材用動画の制作やそのアップロードなどの遠隔授業の実施方法に関するマニュアル等の資料が掲載されているが、同大学では、これは、これまでオンライン教育推進のために蓄積してきた動画制作等のノウハウを活用したものであると説明している。

- ② 動画等のオンライン教材や課題のアップロード等、オンライン教材を用いた遠隔授業を基本としているが、その際に利用するシステムとしては、学習支援専用のシステムではなく、学内の各種連絡、履修登録等に用いる学務情報システム内にある学習支援機能によっている。

オンライン教育推進室では、学務情報システムをオンライン教育用の動画配信システムとして活用することとし、令和元年度中に、学務情報システムに動画の掲載機能を追加するよう改修を行った。

このように、オンライン教育推進のために学務情報システムの機能を強化していたことが、結果的に、今回の新型コロナウイルス感染症対応のための遠隔授業の円滑な実施に奏功したものと考えられる。

(注) 当局の調査結果による。

2 遠隔授業における教育効果の担保等

調 査 結 果 等	説明図表番号
<p>【制度の概要等】</p> <p>(1) 遠隔授業の活用</p> <p>大学の遠隔授業については、令和2年3月24日文科省通知により、ウェブ会議システム等を利用した同時双方向型の遠隔授業や、オンライン教材を用いたオンデマンド型の遠隔授業を自宅等にいる学生に対して行うことは可能であるとされ、以下の方法が示されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ウェブ会議システムを用いた遠隔授業 <p>ウェブ会議システムを利用して講義をリアルタイム配信し、学生は教室以外の場所（自宅を含む。）において、PCや携帯電話からインターネットに接続し受講する。ウェブ会議システムによって、教員と学生が、互いに映像・音声等による質疑応答や意見交換を行う。</p> ・ オンライン教材を用いた遠隔授業 <p>スライド資料や講義形式の動画等を教材として e-learning システム等を準備し、学生は教室以外の場所において、PC や携帯電話からインターネットに接続し、随時又は期限が設定されている場合は当該期限内に受講する。学生からの課題提出や質問の受付及び回答、学生間の意見交換等についても、インターネット等を通じて行う。質問の受付及び回答については、よくある質問とそれに対する答えについてあらかじめ提示しておき、それ以外の質問について担当教員又は指導補助者が回答するといった手法も考えられる。なお、聴講の前後において、授業担当教員による説明等の指導を行う必要がある。</p> <p>また、文部科学省が各大学に発出した「学事日程等の取扱い及び遠隔授業の活用に係るQ&A等の送付について」（令和2年4月1日付け事務連絡）において、面接授業に相当する教育効果の担保に関する事項として、以下のような事項が示されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> i) 面接授業に相当する教育効果を有すると認められる遠隔授業に必要な要素として、①教員の設問解答、添削指導、質疑応答等による十分な指導、②学生の意見の交換の機会が挙げられる。 ii) オンデマンド型の遠隔授業の場合には、授業の終了後速やかに上記①及び②の実施を求めることが必要である。 iii) 単に印刷教材等の送付により授業が完結することは想定しておらず、毎回の授業の実施に併せて質疑応答等による指導を行う必要がある。 <p>(2) 学生への授業の実施方法等の情報提供</p> <p>学生への授業の方法等の情報提供については、大学設置基準第25条の2によれば、大学は、学生に対して、授業の方法・内容や成績評価の基準をあらかじめ明示することとされている。</p> <p>情報提供の方法に関しては、文部科学省が各大学に発出した「本年度後期や次年度の各授業科目の実施方法に係る留意点について」（令和2</p>	<p>図表1-② (再掲)</p> <p>図表2-①</p> <p>図表2-②</p> <p>図表2-③</p>

年7月27日付け事務連絡)により、「本年度後期や次年度の授業の実施方法としては、面接授業のみ実施、面接授業と遠隔授業の併用実施、遠隔授業のみ実施等多様な授業の実施形態が考えられますが、いずれの場合も、授業計画(シラバス)等に明示し、学生に対して丁寧な説明に努める」とされている。

シラバスは、中央教育審議会の「学士課程教育の構築に向けて(答申)」(平成20年12月24日)によると、「各授業科目の詳細な授業計画。一般に、大学の授業名、担当教員名、講義目的、各回ごとの授業内容、成績評価方法・基準、準備学習等についての具体的な指示、教科書・参考文献、履修条件等が記されており、学生が各授業科目の準備学習等を進めるための基本となるもの。また、学生が講義の履修を決める際の資料になるとともに、教員相互の授業内容の調整、学生による授業評価等にも使われる」とされている。

【調査結果】

今回、当局が調査対象の8国立大学において、遠隔授業の実施方法等の把握状況、学生への周知状況等を調査した結果、以下のとおりの状況がみられた。

なお、新型コロナウイルス感染症の流行が拡大する中、これまで面接授業を行ってきた各大学は、授業実施方法を遠隔授業に変更することとなった。各大学は、履修登録後にこの授業の実施方法等に関する変更内容を授業計画(シラバス)等によって周知している状況がみられた。

(1) 授業の実施方法等の把握

調査対象の8国立大学は、同時双方向型の遠隔授業とオンデマンド型の遠隔授業の両方を実施しており、年度当初に教員に対し、遠隔授業において、上記の令和2年4月1日付け事務連絡で示された面接授業に相当する教育効果を担保するための措置を行うことが必要であると周知している。

一方、8大学では、令和2年度前期に実施した遠隔授業については、教員と学生との間で、面接授業に相当する教育効果を担保する授業が行われているかどうかについて、その状況を把握していないことが分かった。

当局が、8大学の令和2年度前期授業及び後期授業のシラバスについて、総合大学で1学部、単科大学では1学科・課程を抽出して、授業の実施方法や面接授業に相当する教育効果を担保するための措置の状況を調査したところ、全ての大学において、当該措置が確保されているか不明な状況がみられた。

このように、8大学の今年度におけるシラバスにおいては、遠隔授業の内容、成績評価の方法・基準等の学生が履修する授業を選択する上で重要な情報が記載されていないものがみられ、これらのシラバスに係

図表1-⑪(再掲)

図表2-④

図表2-⑤

る授業では、面接授業に相当する教育効果が得られていないおそれがある(注)。

また、8大学に寄せられた学生からの意見をみたところ、4大学において、一部の遠隔授業で面接授業に相当する教育効果を担保するための措置が行われていないとする意見があった。

(注) 8大学は、履修登録後においては、授業の具体的な実施方法や内容など、授業の受講に必要な情報を学習支援システム等により、学生に伝えているとしている。

ア シラバスにおける面接授業に相当する教育効果の担保措置

調査対象の8国立大学はいずれも、授業の目標、授業の内容、達成目標、成績評価の方法・基準等の授業実施上の主要な事項について、シラバスに記載し、学生が履修する授業を選択する重要な情報として、履修登録の際に提示している。

8大学の令和2年度のシラバスにおける面接授業に相当する教育効果の担保措置の状況について、総合大学で1学部、単科大学では1学科・課程を抽出して(注)、前期(通年授業や集中講義を含む。)の1,449授業及び後期の1,377授業の内容を調査した。

その結果、全ての大学の前期及び後期の授業について、教員の質疑応答等による十分な指導や学生との意見交換などが授業終了後速やかに行うことが求められているにもかかわらず、その内容が不明となっているオンデマンド型の遠隔授業、及び、授業の内容、成績評価の方法・基準等の実施方法が不明となっているなど教育効果を担保する措置が行われていない授業がみられた。

(注) 後述の2(2)の項目では、遠隔授業の実施方法の学生への周知に関して、8大学における大学全体の方針を調査したほか、4総合大学は人文学系の2学部を抽出し、4単科大学では全てについて、学生への周知状況を調査している。

また、本項目のシラバスにおける教育効果の担保措置に関する調査では、総合大学は、上記の2学部のうちの1学部、単科大学は学則上の筆頭の学科又は課程を抽出してその内容を確認した。



図表2-⑥

図表2-⑤(再掲)

表 令和2年度のシラバスにおける教育効果を担保する措置の記載状況

(単位：件、%)

大学名 (学部等名)	前 期		後 期	
	全授業数	双方向性なし	全授業数	双方向性なし
岐阜大学 (地域科学部)	182	114 (62.6)	239	101 (42.3)
静岡大学 (人文社会科学部)	235	96 (40.9)	331	55 (16.6)
浜松医科大学 (医学科)	129	41 (31.8)	56	18 (32.1)
名古屋大学 (法学部)	84	44 (52.4)	51	26 (51.0)
愛知教育大学 (初等教育教員養成課程)	352	265 (75.3)	294	102 (34.7)
名古屋工業大学 (生命・応用化学科)	50	45 (90.0)	54	44 (81.5)
豊橋技術科学大学 (機械工学課程)	212	127 (59.9)	151	71 (47.0)
三重大学 (人文学部)	205	123 (60.0)	201	117 (58.2)
計	1,449	855 (59.0)	1,377	534 (38.8)

(注) 1 令和2年度前期の授業数には、通年及び集中講義の授業数を含む。

2 「双方向性なし」は、次の①～③のいずれも記載されていないもの

① 面接授業である旨

② 遠隔授業で、ウェブ会議システムによる同時双方向の授業である旨

③ 学生が教員に対し問い合わせするためのメールなどの連絡先や問い合わせ方法

3 「双方向性なし」欄の()内は、全授業数に対する割合

イ 大学における教育効果を担保するための措置の把握状況

遠隔授業において面接授業に相当する教育効果を担保するためには、措置が行われていない授業があった場合に教員に措置の実施を促すことができるよう、大学がその実施状況を把握する必要がある。

しかし、調査対象の8国立大学は、令和2年度前期の遠隔授業において面接授業に相当する教育効果を担保するための措置が行われているかどうかなど、遠隔授業がどのように行われているかを把握

していない状況がみられた。

ウ 学生の意見

調査対象の 8 国立大学のうち岐阜大学、浜松医科大学、名古屋大学及び愛知教育大学の計 4 大学において、以下のとおり、オンデマンド型の遠隔授業の一部において、面接授業に相当する教育効果を担保するための措置が行われていないとする主な意見がみられた。

- ① 教員に質問ができないとするもの（岐阜大学、名古屋大学）
- ② 課題が提出できないとするもの（名古屋大学）
- ③ 教員の連絡先が分からないため、課題の提出ができないもの（愛知教育大学）
- ④ 教員が提示した課題に対するレポートを提出したが、教員からのフィードバックがないとするもの（浜松医科大学、名古屋大学、愛知教育大学）
- ⑤ 当日の遠隔授業の教材が学習支援システムに掲載されておらず、教員への連絡もできないもの（愛知教育大学）

(2) 授業の実施方法の明示

調査対象の 8 国立大学は、授業の目標、授業の内容、達成目標、成績評価の方法・基準等などについて、学生が履修する授業を選択（履修登録）する際、重要な情報であるシラバスに記載することとしている。

今回の新型コロナウイルス感染症拡大への対応として、8 大学とも、令和 2 年度前期授業について、基本的に授業方法を面接授業から遠隔授業に変更しており、このうち 1 大学は、学生が各授業計画等の情報を知るための手段はシラバスであるとして、履修登録の際に遠隔授業の実施方法をシラバスにより周知しており、後期授業においても同様に行っている。

また、他の 7 大学の中にも、同様の理由により、後期授業からシラバスによる周知を行うことにしたものが 3 大学みられる。

このように、4 大学は、シラバスの意義に沿って、遠隔授業の内容、実施方法、成績評価の方法等を明示しているが、残る 4 大学は、後期も引き続きシラバスによる周知を行うこととしていない。

また、8 大学ともに、後述ウのとおり、一部のシラバスに適切に記載されていない状況がみられる。

ア 令和 2 年度前期における遠隔授業の実施方法の周知状況

調査対象の 8 国立大学は、令和 2 年度前期授業のシラバスを前年度末までに作成しており、作成当時は、授業の実施方法は基本的に面接授業のみであったため、シラバスにその実施方法を記載することとはしていなかった。

今年度に入り、8 大学では、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、

図表 2-⑥（再掲）

図表 2-⑦、⑧

図表 2-⑨、⑩

図表 2-⑪、⑫、⑬

基本的に遠隔授業を行うこととしたため、遠隔授業の実施方法（遠隔授業を行うこと、同時双方向型・オンデマンド型の別、ウェブ会議システムや学習支援システムなどの授業に用いる具体的なツール）を学生に周知する必要が生じたこととなった。

今回、令和2年度前期授業に関して、8大学のうち4総合大学は2学部を抽出し、4単科大学は大学全体について、履修登録時における遠隔授業の実施方法に係る学生への周知状況を調査したところ、遠隔授業の実施の決定から短期間で授業を開始する中で、以下のとおり、愛知教育大学はシラバスにより周知していたが、他の7大学では、大学全体としては行っていない状況がみられた。

① 愛知教育大学は、遠隔授業の実施方法の学生への周知方法について、学生が各授業の授業計画の情報を知るためのシラバス以外の方法は考えなかったとして、シラバスに記載して周知している。

② 三重大学は、各学部が周知方法を判断することとしている。当局が抽出した人文学部及び教育学部のいずれも、シラバスにより周知することとはしていない。

また、岐阜大学も、各学部が周知方法を判断することにしており、抽出した2学部のうち教育学部はシラバスによる周知はしていないが、地域科学部は、学生が授業を選択する際に見るシラバスに記載するのは当然との考えから、シラバスにより周知している。

③ 他の5大学（静岡大学、浜松医科大学、名古屋大学、名古屋工業大学及び豊橋技術科学大学）は、大学全体として、シラバスにより周知することとはしていない。

ただし、これら5大学のうち2総合大学について、当局が2学部ずつ抽出して周知状況をみると、計4学部のうち3学部は大学全体の方針どおりとしているが、名古屋大学法学部は、学生はシラバスを見て受講する授業の履修登録を行うことから、シラバスにより周知している。

なお、静岡大学は、前期の途中の7月に、大学全体として、後期授業について、履修登録の際、遠隔授業の実施方法等をシラバスにより学生に周知することとしており、それに併せ、前期授業のシラバスへの追記も行っている。

イ 令和2年度後期における遠隔授業の実施方法の周知状況

令和2年度後期の授業について、調査対象の8国立大学では、面接授業と遠隔授業を併用して実施するとしているため、学生が履修登録する際の情報として、面接授業・遠隔授業の別や授業の実施方法を周知することが求められる。

後期授業についても、前期授業と同様に、8大学のうち4総合大学は2学部を抽出し、4単科大学は大学全体について、履修登録時にお

図表2-⑦（再掲）

図表2-⑧

図表2-⑫（再掲）

図表2-⑨、⑩、⑪、⑫、⑬（全

ける遠隔授業の実施方法に係る学生への周知状況を調査したところ、岐阜大学、静岡大学、愛知教育大学及び豊橋技術科学大学の4大学が大学全体として、シラバスにより遠隔授業の実施方法を学生に周知するとしている。

この中には、以下のとおり、シラバスにおける遠隔授業の実施方法についての記載内容を具体的に教員に示しているものがみられる。

- ① 静岡大学では、シラバスに遠隔授業の形態の区分（「教科書等による課題提示型」、「動画配信型」等）や遠隔授業の具体的な実施方法等を記載する欄を設けるとともに、記載例を教員に提示
 - ② 愛知教育大学では、i) 授業の方法（遠隔授業、対面授業）、ii) 遠隔授業の実施内容、iii) 成績評価の方法及びiv) 学生からの相談に速やかに応じるための連絡先を記載するよう教員に依頼
- しかし、他の4大学は、前期と同様に、シラバスによる周知を行うこととしていない。

ウ シラバスの記載状況

調査対象の8国立大学について、総合大学で1学部、単科大学では1学科・課程における、令和2年度前期（通年授業や集中講義を含む。）の1,449授業及び後期の1,377授業のシラバスの記載内容を調査した。このうち4大学では、シラバスの意義に沿って、遠隔授業の実施方法、成績評価の方法等を学生に明示することとしていることから、授業の実施方法を記載しているシラバスが各大学のシラバスに占める割合は、①前期から記載することとしている愛知教育大学では、前期は約7割、後期は9割近くとなっており、②後期から記載することとした岐阜大学、静岡大学及び豊橋技術科学大学では、前期と比べ後期は増加しており、後期はそれぞれ約6割、10割近く、約8割となっている。

しかし、全ての大学において、次表のとおり、シラバスの全て又は一部に、面接授業・遠隔授業の別、遠隔授業の場合その方法が記載されていない状況がみられた。



て再掲)

図表2-⑭

表 令和2年度のシラバスにおける授業の実施方法に係る記載状況
(単位：件、%)

大 学 名 (学部等名)	前 期		後 期	
	全授業数	記載なし等	全授業数	記載なし等
岐阜大学(地域 科学部)	182	92 (50.5)	239	90 (37.7)
静岡大学(人文 社会科学部)	235	58 (24.7)	331	4 (1.2)
浜松医科大学 (医学科)	129	129 (100)	56	56 (100)
名古屋大学(法 学部)	84	40 (47.6)	51	21 (41.2)
愛知教育大学 (初等教育教 員養成課程)	352	94 (26.7)	294	34 (11.6)
名古屋工業大 学(生命・応用 化学科)	50	50 (100)	54	49 (90.7)
豊橋技術科学 大学(機械工学 課程)	212	200 (94.3)	151	26 (17.2)
三重大学 (人文学部)	205	205 (100)	201	201 (100)
計	1,449	868 (59.9)	1,377	481 (34.9)

- (注) 1 令和2年度前期の授業数には、通年及び集中講義の授業数を含む。
 2 「記載なし等」は、シラバスに面接授業・遠隔授業の別、遠隔授業の場合における授業方法に係る記載がないもの
 3 「記載なし等」欄の()内は、全授業数に対する割合

【所見】

したがって、調査対象の8国立大学は、遠隔授業の実施に当たって、学生が面接授業に相当する教育効果が担保された授業を履修できるよう、以下の措置を講ずる必要がある。

- ① 遠隔授業における面接授業に相当する教育効果を担保するための措置の実施状況について、教員への調査やシラバスの内容を確認するなどにより把握し、この措置が行われていない場合は必要な対応を行うこと
- ② 学生は履修登録する際にシラバスを閲覧することから、遠隔授業を実施するに当たり、学生が遠隔授業においても面接授業に相当する教育効果を有する授業を選択できるよう、全てのシラバスに授業の実施方法(面接授業・遠隔授業の別、具体的な実施方法)を明記すること

図表 2-① 「学事日程等の取扱い及び遠隔授業の活用に係る Q & A 等の送付について」
 (令和 2 年 4 月 1 日付け文部科学省高等教育局大学振興課事務連絡) (抜粋)

(略)
<p>問 4 3 月 24 日付け通知においては、同時双方向型の遠隔授業を自宅にいる学生に対し行うことは、平成 13 年文部科学省告示第 51 号の第 2 号の規定に基づき可能であるとしているが、この場合、同号の定める「授業の終了後すみやかに」に①「設問解答、添削指導、質疑応答等による十分な指導」を行うとともに、②「学生の意見の交換の機会」を確保する必要があるのか。</p>
<p>○ 本告示の第 2 号が担保しようとしていることは、<u>面接授業に相当する教育効果</u>であるところ、こうした<u>教育効果を有すると認められる遠隔授業に必要な要素</u>として、同号においては、①設問解答、添削指導、質疑応答等による十分な指導と②学生の意見の交換の機会を挙げているものと考えております。</p> <p>○ このため、<u>オンデマンド型の遠隔授業の場合には</u>、授業配信中に上記①及び②を実施することが困難であることから、<u>面接授業に相当する教育効果を担保するため</u>、「授業の終了後すみやかに」①及び②の実施を求めることが必要であるのに対し、同時双方向型の遠隔授業の場合には、当該授業の実施中に上記①及び②を行うことにより、実質的に面接授業に相当する教育効果が担保できているといえるのであれば、「授業の終了後すみやかに」上記①及び②の実施を求めることは必ずしも必要ではないと考えております。</p> <p>※ 平成 13 年文部科学省告示第 51 号（大学設置基準第 25 条第 2 項の規定に基づき、大学が履修させることができる授業について定める件）(抄)</p> <p>通信衛星、光ファイバ等を用いることにより、多様なメディアを高度に利用して、文字、音声、静止画、動画等の多様な情報を一体的に扱うもので、次に掲げるいずれかの要件を満たし、大学において、大学設置基準第 25 条第 1 項に規定する面接授業に相当する教育効果を有すると認めたものであること。</p> <p>一 (略)</p> <p>二 毎回の授業の実施に当たって、指導補助者が教室以外の場所において学生等に対面することにより、又は当該授業を行う教員若しくは指導補助者が当該授業の終了後すみやかにインターネットその他の適切な方法を利用することにより、設問解答、添削指導、質疑応答等による十分な指導を併せ行うものであって、かつ、当該授業に関する学生の意見の交換の機会が確保されているもの</p>
(略)
<p>問 6 遠隔授業の実施方法として、教科書や教材による学修による一定時間自宅において行わせたうえで、メールや掲示板等を用いて質疑応答等を行うことは許容されるか。</p>
<p>○ 法令上、<u>遠隔授業の一部</u>において、<u>教科書や教材による学修を自宅において行わせることが禁止されるもの</u>ではございませんが、<u>面接授業に相当する教育効果を有するものである必要があることから</u>、授業外の予習・復習に相当するような単に教科書を読ませるといった形態は想定しておらず、授業担当教員による事前のガイダンス等において、当該授業のねらい、教科書を読むに当たっての留意点や、必要な視点・観点などを示すなどにより、授業中に課すものに相当する学修である必要があります。</p>

○ また、大学通信教育設置基準第3条第1項においては、印刷教材その他これに準ずる教材を送付若しくは指定し、主としてこれにより学修させる授業（印刷教材等による授業）、大学設置基準第25条第1項の方法による授業（面接授業）、及び同条第2項の方法によるメディアを利用して行う授業（遠隔授業）が、別の方法として区別されていることを踏まえると、単に印刷教材等の送付により授業が完結することは想定しておらず、毎回の授業の実施に併せて質疑応答等による指導を行う必要があります。

※ 大学通信教育設置基準（昭和56年文部科学省令第33号）（抄）
（授業の方法等）

第三条 授業は、印刷教材その他これに準ずる教材を送付若しくは指定し、主としてこれにより学修させる授業（以下「印刷教材等による授業」という。）、主として放送その他これに準ずるものの視聴により学修させる授業（以下「放送授業」という。）、大学設置基準第25条第1項の方法による授業（以下「面接授業」という。）若しくは同条第2項の方法による授業（以下「メディアを利用して行う授業」という。）のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

（略）

（注） 下線は当局が付した。

図表2-② 大学設置基準（昭和31年文部省令第28号）（抜粋）

（略）

（成績評価基準等の明示等）

第25条の2 大学は、学生に対して、授業の方法及び内容並びに一年間の授業の計画をあらかじめ明示するものとする。

（略）

（注） 下線は当局が付した。

図表2-③ 「本年度後期や次年度の各授業科目の実施方法に係る留意点について」

（令和2年7月27日付け文部科学省高等教育局大学振興課事務連絡）（抜粋）

新型コロナウイルス感染症は、いまだ不明な点が多い感染症であり、国内外の感染状況を見据えると、社会全体として長期的な対応が必要になることが見込まれます。こうした状況において、感染拡大の防止と学生の学修機会確保を両立するため、各大学及び高等専門学校（以下「大学等」という。）が所在する地域の感染状況やその授業の規模等各大学等の実情によって、本年度後期や次年度における授業の実施方法は異なるものになるものと考えられることから、このたび、本年度後期や次年度の各授業科目の実施方法に係る留意点について、下記のとおり考え方をまとめましたのでお知らせします。

（略）

以上を踏まえ、各授業科目の実施方法について御検討いただいた結果、本年度後期や次年度の授業の実施方法としては、面接授業のみ実施、面接授業と遠隔授業の併用実施、遠隔授業のみ実施等多様な授業の実施形態が考えられますが、いずれの場合も、授業計画（シラバス）等に明示し、学生に対して丁寧な説明に努めるとともに、その実施方針等につい

ては、受験生の進学先の参考となるよう、できる限り早めにインターネット等により公表していただくようお願いいたします。

(略)

(注) 下線は当局が付した。

図表 2-④ 遠隔授業において教員の指導等が必要であることについての教員への周知状況

大学名	周知状況
岐阜大学	<p>「e-Learning 授業の実施にあたっての留意事項」(令和2年4月16日)により、次のことを周知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オンデマンド授業を行う場合の留意点として、①授業を受講したことを確認する出席確認、②学習支援システムなどを利用して、提示した教材や動画を閲覧したことを確認するための「簡単な小テストなどの設問回答」、③提示した教材や動画に対する理解度を測るための「レポートなどの課題」を提出させ、「それに対する添削」を行い、学生個々に返送、④個々の学生からの質疑応答などの十分な指導に加えて、「当該授業に関する学生の意見の交換(共有)の機会を確保」することが必要で、実質的に対面授業に相当する教育効果を担保できていることが必要
静岡大学	<p>「在学授業の実施に際してのお願い」(令和2年4月17日)により、次のことを周知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の理解度や学習の定着度を確認するために、毎回又は複数回の授業のまとめごとに、学務情報システム等を活用し、小テストや小レポート等を課すことをお願いしております。
浜松医科大学	<p>「遠隔授業の実施における学生への対応について」(令和2年4月23日)により、次のことを周知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 録画配信(オンデマンド型)により授業を実施される先生方におかれましても、同様の趣旨から、配信後にメールなどにより、設問を設けて学生から解答を求めたり、質疑応答や添削指導などの機会を設けてくださるようお願い申し上げます。例えば、区切りの良いタイミング(数回の講義の後)で、学習支援システムの小テストを活用し学修の進捗を確認して、その結果を学生にフィードバックする。質問があれば配信後メールで質問することをアナウンスし、質問に対して学生全体に解答を送るような工夫があると思います。いろいろな取り組みをお願いしたいと思います。 ・ オンデマンド型授業の取扱いについては、令和2年4月1日付文部科学省事務連絡において配信するのみでなく、双方向性の授業を実施するように示されていますので、申し添えます。
名古屋大学	<p>4月7日に開催した全学教育企画委員会(各部署の教務担当教職員が出席)において、遠隔授業においても面接授業に相当する教育効果を担保するための措置が必要であることを説明。出席した各部署の教務担当教職員は、所属部署で各教職員に周知。</p>

愛知教育大学	<p>○ 「学外学習活動を授業履修時間に組み込むためのガイドライン」の策定について」（令和2年4月10日）により、次のことを周知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業者が不在でも、個別の学修が可能で、知識理解が中核となる活動では、大学での講義を代替する方法が取り入れられる可能性がある。この授業回に、オンラインや書籍、配布資料等を用いた個別学習を導入し、理解度を確認する小テスト・レポート等の提出を課すほか、学生との質疑応答等のコミュニケーション手段を確保することで、これを授業履修時間に組み込めるものとする。 <p>○ 「令和2年度前期における遠隔授業の実施要請について」（令和2年4月21日）により、次のことを周知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業方法は、遠隔かつ時間差での実施が可能なもの（ネット上のトラフィックの増大を回避するため主にメディアを利用したオンデマンド方式の資料提示や教科書等の利用を踏まえて、授業者と履修学生のオンライン上のコミュニケーションが導入される形態での学修）による実施とします。
名古屋工業大学	<p>「授業オンライン化のガイドライン」（令和2年4月8日）を作成し、次のことを周知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オンライン授業の導入に際して守るべき事柄は次のとおり <ol style="list-style-type: none"> ① 十分な学修効果が期待できる授業科目であること。また、学修効果について適宜評価を行い改善すること ② テキスト教材に加えて、その内容を解説する講義動画ファイルもしくは音声ファイルあるいはオンライン教材が提供されること ③ 当該のオンライン授業に関して、質問や意見を交換できる情報共有手段が提供されること
豊橋技術科学大学	<p>4月23日に、教務委員会に出席した各学科の代表の教員（2名ずつ）に、遠隔授業において双方向性を確保する必要があることを周知している。</p>
三重大学	<p>遠隔授業において双方向性を確保する必要がある旨記載された、文部科学省発出の「学事日程等の取扱い及び遠隔授業の活用に係るQ&A等の送付について」（令和2年4月1日 事務連絡）を教員にメールにより周知</p>

（注） 当局の調査結果による。

図表 2-⑤ 令和 2 年度の授業のシラバスにおける面接授業に相当する教育効果を担保する措置に係る記載状況 (単位:件、%)

大学名 (学部等名)	前 期					後 期				
	全 授 業数	双 方 向 性 あ り	双 方 向 性 な し	オ ン デ マ ン ド	そ の 他	全 授 業数	双 方 向 性 あ り	双 方 向 性 な し	オ ン デ マ ン ド	そ の 他
岐阜大学 (地 域科学部)	182	68	114 (62.6)	43	71	239	138	101 (42.3)	18	83
静岡大学 (人 文社会科学 部)	235	139	96 (40.9)	56	40	331	276	55 (16.6)	51	4
浜松医科大学 (医学科)	129	88	41 (31.8)	0	41	56	38	18 (32.1)	0	18
名古屋大学 (法学部)	84	40	44 (52.4)	15	29	51	25	26 (51.0)	10	16
愛知教育大学 (初等教育教 員養成課程)	352	87	265 (75.3)	180	85	294	192	102 (34.7)	75	27
名古屋工業大 学(生命・応用 化学科)	50	5	45 (90.0)	0	45	54	10	44 (81.5)	5	39
豊橋技術科学 大学(機械工 学課程)	212	85	127 (59.9)	1	126	151	80	71 (47.0)	55	16
三重大学 (人文学部)	205	82	123 (60.0)	0	123	201	84	117 (58.2)	0	117
計	1,449	594	855 (59.0)	295	560	1,377	843	534 (38.8)	214	320

(注) 1 2(2)の項目において遠隔授業の実施方法の学生への周知に関する調査を実施するに当たり、以下のとおり、4 総合大学については 2 学部を抽出して行っている。

① 1 学部目については、公表されているシラバスにおいて、遠隔授業の実施方法を記載している学部を選定することとし、記載していた岐阜大学地域科学部及び名古屋大学法学部を選定した。一方、静岡大学及び三重大学では、記載している学部がなかったため、岐阜大学及び名古屋大学で選定した学部と同様の人文学系の学部として、静岡大学は人文社会科学部、三重大学は人文学部を選定した。

② 2 学部目については、岐阜大学、静岡大学及び三重大学に共通する学部として、教員養成を目的とした教育学部を選定し、残る名古屋大学については、教員養成を目的とした教育学部ではないため、各学部に通ずる基礎教育及び教養教育を全学共通教育として行う教養教育院を選定した。

本表に関しては、総合大学は上記 2 学部のうちの 1 学部を、単科大学では学則上の筆頭の学科又は課程を抽出し、その学部等のシラバスの記載内容から、面接授業に相当する教育効果を担保するための措置（遠隔授業における教員と学生との双方向性を確保する取組）の確保状況について確認した。

2 大学全体として、シラバスに授業の実施方法を記載することとしている大学・時期（前期・後期）に網掛けを付した（項目 2(2)関係）。

なお、網掛けしていないもののうち、岐阜大学（地域科学部）及び名古屋大学（法学部）は、学部としてシラバスに記載することとしている。

3 令和2年度前期の授業数には、通年及び集中講義の授業数を含む。

4 「双方向性あり」は、シラバスに次の①～③のいずれかの記載があるもの

① 面接授業である旨

② 遠隔授業で、ウェブ会議システムによる同時双方向の授業である旨

③ 学生から教員に対し問い合わせするためのメールなどの連絡先や問い合わせ方法

5 「双方向性なし」の「オンデマンド」は、シラバスにオンデマンド型の授業である旨の記載があるが、学生から教員に対し問い合わせするためのメールなどの連絡先や問い合わせ方法に係る記載がないもの

6 「双方向性なし」の「その他」は、シラバスに①遠隔授業・面接授業の別の記載がないもの又は②遠隔授業との記載はあるが、同時双方向型・オンデマンド型の記載がなく、学生から教員に対し問い合わせするためのメールなどの連絡先や問い合わせ方法に係る記載もないもの

7 「双方向性なし」欄の（ ）内は、全授業数に対する割合

図表 2-⑥ シラバスにおいて面接授業に相当する教育効果を担保するための措置が行われていない旨の学生の意見

大学名	意見の内容
岐阜大学	<ul style="list-style-type: none"> 資料オンデマンド型の遠隔授業の場合、<u>教員に質問ができない。</u> 課題が要約であるなど作業的、<u>感想の提出がなく双方向性なし</u> 課題がしっかりと提出できているかわからない・<u>確認の返信がない。</u>
静岡大学	—
浜松医科大学	<ul style="list-style-type: none"> web 授業でレポート課題が増えたが、<u>教員からのフィードバックが何もない科目もあり</u>、授業料を払って自分でただレポートを作るのは違うと思う。
名古屋大学	<ul style="list-style-type: none"> <u>課題が提出できない。また、レポートが受理されたかどうか分からない。</u> ある遠隔授業において、<u>質問ができず、ただ知識を提供されているだけ</u>と感じる。 <u>メールや学習支援システムのメッセージでやり取りできない教員もいる</u>ため、連絡できるアドレスなどを公開してほしい。 <u>提出したレポートが受理されているか確認できない。</u> ある授業では、論文を読ませて<u>レポートを提出させるが、フィードバックがない。</u> ある授業は、内容が難しいが、<u>課題を配布するだけで、解説や採点はされないし、他の資料もない。</u> <u>講義資料もなく、メールに対しての返答もなく、毎週レポートを出すだけ</u>になっている。 ある授業は、<u>教科書を読むだけの授業</u>となっている。
愛知教育大学	<ul style="list-style-type: none"> <u>課題についてのフィードバックがない</u>ため、現状ただその動画についての感想や考察を送っているだけの状態です。 本日の二限から予定している〇〇という授業の資料が上がって

	<p>こないです。シラバスには学習支援システムに掲載すると書かれているのですが、そこにもメールにも何もこないです。先生のメールアドレスも分からずこちらからはどうすることもできません。お手数ですが状況の確認をお願いできますでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●●の授業の課題についてです。 <ul style="list-style-type: none"> 学びネットに添付されていた●●の授業のワークシートに提出期限は○月○日 16 時までと書かれていたため、○日の午前中に提出しようと思っていました。しかし、先ほど学びネットを見たところ提出期限が○月○日 00 時 00 分と書かれており、提出期限が過ぎてしまっていました。 提出期限を過ぎてしまいましたが、そのワークシートにこの旨を記載してお詫びし、先ほどすぐに提出いたしました。ですが、●●の授業の担当教授である先生にその旨をメールでお伝えして、再度丁重にお詫びしたいと考えています。しかし、<u>シラバスに先生の連絡先が記載されておらず分からないため、メールさせていただきました。</u> 先生の連絡先を教えてくださいてもよろしいでしょうか？ <u>非常勤講師なのか、常勤教員メールアドレスに載っていないため、未だに今日中に提出の課題の提出をすることができません。</u>
名古屋工業大学	—
豊橋技術科学大学	—
三重大学	—

(注) 1 調査対象の 8 大学から提出された学生からの意見の記録の中から、遠隔授業において教員による設問解答、添削指導等の指導が行われていないとする意見を記載した。

2 下線は当局が付した。

図表 2-⑦ 前期の遠隔授業の実施方法についてのシラバスによる学生への周知状況

大学名	周知方法
岐阜大学	<p>学部ごとの方法で周知することとしている。</p> <p>調査対象として抽出した 2 学部のうち、地域科学部は、シラバスに記載して周知することとしている。その理由は、学生はシラバスを見て授業を選択するため、履修登録の前に、シラバスに授業の実施方法、成績評価の方法などの変更内容を記載するのは当然との考えによるものである。</p> <p>教育学部は、シラバスで周知することとしていない。</p>
静岡大学	大学全体として、シラバスで周知することとしていない。
浜松医科大学	シラバスで周知することとしていない。
名古屋大学	<p>大学全体としては、シラバスで周知することとしていない。</p> <p>調査対象として抽出した 2 学部のうち、教養教育院は、基本的に大学全体の方針に沿っているが、法学部は、学生はシラバスを見て受講する授業を登録するとして、シラバスにより周知することとしている。</p>

愛知教育大学	シラバスにより周知することとしている。このことについて、同大学は、学生が各授業の授業計画等の情報を知るための手段はシラバスであることから、シラバス以外の手段を用いることは考えなかったためとしている。
名古屋工業大学	シラバスで周知することとしていない。
豊橋技術科学大学	シラバスとは別に、シラバスの記載内容に遠隔授業の実施方法を追記した資料を作成し、学務情報システムに掲載して周知することとしている。このことについて、豊橋技術科学大学は、シラバスの内容に遠隔授業の実施方法を追記した資料を作成するものであり、手間をかけずに学生に周知できる方法であると判断したためであるとしている。
三重大学	学部ごとの方法で周知することとしている。 調査対象として抽出した人文学部及び教育学部ともに、シラバスで周知することとしていない。

(注) 当局の調査結果による。

図表 2-⑧ 愛知教育大学におけるシラバスの記載についての教員への周知内容（前期）

<p>「学部の前期授業におけるシラバスの加筆修正のお願い」（令和 2 年 4 月 22 日）により、教員に対し、4 月 28 日（火）までにシラバスの加筆修正を行うよう依頼</p> <p>① 授業展開の見直しにより、1～5 回までの遠隔授業による授業回の内容を、他の授業回の内容と入れ替えて実施する場合、可能であれば該当回のシラバスを修正</p> <p>② 初回授業の「授業内容・方法」欄又は「授業外学修指示」欄に、次の情報を加筆</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業のサイト情報（「まなびネット」、「URL」等） ・ 授業情報の提供開始日時、学修作業の完了期限日時 ・ 必要であれば、機器や教科書、資料等の準備物の案内 <p>③ 初回講義時に 2～5 回目案内ができない場合には、②に加えて、各授業回の「授業内容・方法」欄又は「授業外学習指示」欄に、次の情報について加筆</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業情報の提供開始日時、学修作業の完了期限日時 ・ サイトを変更する場合には、授業のサイト情報

(注) 愛知教育大学提出資料による。

図表 2-⑨ 後期の遠隔授業の実施方法についてのシラバスによる学生への周知状況

大学名	周知方法
岐阜大学	シラバスの「備考」欄に、記載して周知することとしている。このことについて、岐阜大学は、学生が履修登録に当たりシラバスを見るときに、授業の実施方法が分かるほうがよいとしている。 なお、例えば、各授業の実施方法を一覧表にしてガイダンス時に配布するなど、シラバスとは異なる形で授業の実施方法の情報を提供することも可能としている。 調査対象として抽出した地域科学部及び教育学部ともに、大学全体の方針に沿って、シラバスや学内システムへの掲示により周知するこ

	ととしている。
静岡大学	シラバスに「在宅授業形態」欄と「在宅授業形態（詳細）」欄を新設して、それらの欄に遠隔授業の実施方法を記載することとしている。このことについて、同大学は、遠隔授業の実施方法について、シラバスで伝えるべきとの考えによるものとしている。 また、調査対象として抽出した人文社会科学部及び教育学部も、大学全体の方針に沿って、シラバスにより周知することとしている。
浜松医科大学	前期と同じ（シラバスにより周知することとしていない。）
名古屋大学	前期と同じ（大学全体として、シラバスにより周知することとしておらず、教養教育院は、基本的に大学全体の方針に沿っているが、法学部は、シラバスにより周知）
愛知教育大学	前期と同じ（シラバスにより周知）
名古屋工業大学	前期と同じ（シラバスにより周知することとしていない。）
豊橋技術科学大学	面接授業・遠隔授業の別などをシラバスに記載して周知することとした。このことについて、同大学は、遠隔授業の実施方法について、シラバスで伝えるべきとの考えによるものとしている。
三重大学	前期同じ（シラバスにより周知することとしていない。）

（注） 当局の調査結果による。

図表 2-⑩ 愛知教育大学におけるシラバスの記載についての教員への周知内容（後期）

<p>「後期授業におけるシラバスの加筆修正について」（令和2年8月21日）により、教員に対し、8月21日（金）から9月30日（水）までに、以下のとおりシラバスの加筆修正を行うよう依頼</p> <p>「特に、シラバスの修正については、履修学生を「初回授業の設定」へ誘導する必要があることに加えて、文部科学省事務連絡において、「授業担当教員の各授業ごとの指導計画（シラバス等）の下に実施されていること」、「学生一人一人へ確実に情報を伝達する手段や、学生からの相談に速やかに応じる体制が確保されていること」とされていることを踏まえ、下記の手順にしたがって、必ず加筆修正いただきますようお願いいたします。」</p> <p>〔加筆修正の手順〕</p> <p>① 授業方法（対面授業 or 遠隔授業）の加筆（※必須）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「授業計画」欄の冒頭に、授業方法を加筆 ○ シラバスによって記載方法が変わると学生が混乱するおそれがあるため、記載する文言は下記の3つのうちいずれかとする。 <ul style="list-style-type: none"> 「本授業は、全てのコマを対面授業で実施します。」 「本授業は、全てのコマを遠隔授業（オンデマンド型）で実施します。」 「本授業は、対面授業と遠隔授業（オンデマンド型）を併用して実施します。」 <p>※ 今後、完全遠隔型の授業実施要請が全学に発令され、リアルタイム（同期）型のメディア利用も併用することとなった場合は、上記の文言に準じて、適宜、加筆修正</p> <p>② 遠隔授業の実施内容の加筆修正（※遠隔授業を実施する場合）</p>

- 各授業回の「授業内容・方法」欄又は「授業外学修指示」欄に、次の情報について加筆（全ての授業回に共通する情報については、適宜、「授業計画」欄又は「備考」欄に加筆）
 - ・ 授業のサイト情報（「まなびネット」、「URL」等）
 - ・ 授業情報の提供開始日時、学修作業の完了期限日時
 - ・ 必要であれば、機器や教科書、資料等の準備物の案内
 - ③ 成績評価方法の加筆（※必須）
 - 「評価基準・方法」欄に記載している成績評価方法に、その実施方法（対面方式 or 遠隔方式）について加筆
 - ④ 学生からの相談に速やかに応じるための連絡先の加筆（※遠隔授業を実施する場合）

遠隔授業の実施に当たり、学生からの相談に速やかに応じる体制の確保が求められていることから、「備考」欄に、学生が授業に関する相談・質問をする場合の連絡先を記載
- (注) 愛知教育大学提出資料による。

図表 2-⑪ 岐阜大学におけるシラバスの記載についての教員への周知内容

- 「令和2年度後学期の授業実施等の方針について（通知）」（令和2年9月7日）により、教員に対し、記載例を参照し、9月15日（火）までにその時点の予定を各授業シラバスの「備考」欄に記載するよう依頼
- （記載例）
- （例1） この授業は、全ての授業回を、対面形式により実施する。
 - （例2） この授業は、半数程度の授業回を、Teamsによる双方向同時配信により実施する。残りの授業回は、対面形式により実施する。
- (注) 岐阜大学提出資料による。

図表 2-⑫ 静岡大学におけるシラバスの記載についての教員への周知内容

- 「令和2年度のシラバスの修正について（依頼）」（令和2年7月20日）により、教員に対し、原則として8月末までに、後学期のシラバス及び前学期のシラバスの修正・追記を行うよう依頼
- ① 後学期のシラバスについて、「テキスト／参考書」欄、「成績評価の方法・基準」欄及び「オフィスアワー」欄の見直し、新設した「在宅授業形態」欄及び「在宅授業形態（詳細）」欄の追記
 - ② 前学期のシラバスについて、新設した「在宅授業形態」欄及び「在宅授業形態（詳細）」欄に追記
- また、「シラバス作成の手引き（2020年度版）」において、在宅授業（対面授業を併用する場合を含む。）を行う場合の「在宅授業形態」欄と「在宅授業形態（詳細）」欄の記載内容についても提示
- i 「在宅授業形態」欄については、「教科書等による課題提示型」、「資料・教材配信型」、「動画配信型」、「音声配信型」、「同時双方向型」、「その他」の中から、該当する授業形態を選択。
 - ii 「在宅授業形態（詳細）」欄には、具体的な実施方法等を記載。授業回ごとに実施方法

が異なる場合は、授業回ごとの実施方法を記載

(記載例)

(例 1) 在宅授業と対面授業を交互に実施する。在宅授業では、教員が作成したスライド等の資料を学務情報システムから提示し、その中で課題も提示する。

(例 2) 第1～3回目は、zoomを用いた同時双方向型の授業を実施し、それ以降は、教員が作成した教材を用いて課題を課す。

(注) 静岡大学提出資料により作成

図表 2-⑬ 豊橋技術科学大学におけるシラバスの記載についての教員への周知内容

「後期授業実施に向けての準備について (お願い) (令和 2 年 8 月 26 日) により、教員に対し、後期授業の授業形態をシラバスに記載するよう依頼

- 後期開講に先立ち、シラバスの内容を授業の実施形態に沿ったものになるよう修正
- 授業内容欄において、毎回の授業形態について「対面授業」若しくは「遠隔授業」と分かるように記入 (注 2)

(注) 1 豊橋技術科学大学提出資料による。

2 同大学の後期のシラバスをみると、遠隔授業の実施方法(「同時双方向」、「オンデマンド」)についても記載されている。



図表 2-⑭ 令和 2 年度の授業のシラバスにおける授業の実施方法に係る記載状況

(単位：件、%)

大学名 (学部等名)	前 期					後 期				
	全授 業数	記載 あり	記 載 なし	面接・ 遠 隔 の別	同時・ オンデ マンド の別	全授 業数	記載 あり	記 載 なし	面 接・ 遠隔 の別	同時・オン デマンド の別
岐阜大学 (地 域科学部)	182	90 (49.5)	92 (50.5)	82	10	239	149 (62.3)	90 (37.7)	80	10
静岡大学 (人 文社会科学 部)	235	177 (75.3)	58 (24.7)	53	5	331	327 (98.8)	4 (1.2)	3	1
浜松医科大学 (医学科)	129	0 (0)	129 (100)	129	0	56	0 (0)	56 (100)	56	0
名古屋大学 (法学部)	84	44 (52.4)	40 (47.6)	21	19	51	30 (58.8)	21 (41.2)	17	4
愛知教育大学 (初等教育教 員養成課程)	352	258 (73.3)	94 (26.7)	60	34	294	260 (88.4)	34 (11.6)	27	7
名古屋工業大 学(生命・応用 化学科)	50	0 (0)	50 (100)	50	0	54	5 (9.3)	49 (90.7)	48	1
豊橋技術科学 大学(機械工 学課程)	212	12 (5.7)	200 (94.3)	199	1	151	125 (82.8)	26 (17.2)	18	8
三重大学 (人文学部)	205	0 (0)	205 (100)	205	0	201	0 (0)	201 (100)	201	0
計	1,449	581 (40.1)	868 (59.9)	799	69	1,377	896 (65.1)	481 (34.9)	450	31

(注) 1 2(2)の項目において遠隔授業の実施方法の学生への周知に関する調査を実施するに当たり、4 総合大学については、2 学部を抽出して行っている(抽出方法は、図表 3-⑤の注 1 参照)。

本表に関しては、総合大学は上記 2 学部のうちの 1 学部を、単科大学では学則上の筆頭の学科又は課程を抽出し、その学部等のシラバスの記載内容から、面接授業に相当する教育効果を担保するための措置(遠隔授業における教員と学生との双方向性を確保する取組)の確保状況について確認した。

2 大学全体として、シラバスに授業の実施方法を記載することとしている大学・時期(前期・後期)に網掛けを付した。

なお、網掛けしていないもののうち、岐阜大学(地域科学部)及び名古屋大学(法学部)は、学部としてシラバスに記載することとしている。

3 令和 2 年度前期の授業数には、通年及び集中講義の授業数を含む。

4 「記載あり」は、シラバスに授業の実施方法の記載があるものであり、「記載なし」は、それらの記載がないもの

5 「記載なし」の「面接・遠隔の別」は、シラバスに面接授業と遠隔授業のどちらの記載もないもの

- 6 「記載なし」の「同時・オンデマンドの別」は、シラバスに遠隔授業との記載はあるが、同時双方向型であるか、オンデマンド型であるかの記載がないもの
- 7 「記載なし」欄の（ ）内は、全授業数に対する割合

3 学生の情報通信機器の保有状況等の把握状況等

調 査 結 果 等	説明図表番号
<p>【制度の概要等】</p> <p>文部科学省は、「大学等における遠隔授業の実施に当たっての学生の通信環境への配慮等について」（令和2年4月6日付け2文科高第36号）において、大学等の設置者に対し、遠隔授業を自宅等にいる学生に対して行う際に、「①遠隔授業の実施に当たっては、必要に応じて事前のアンケート調査により学生の情報通信機器の保有状況等を把握し、適切な遠隔授業の実施方法を検討するなど、学生の通信環境に十分配慮することが重要です。その上で、テレビ会議システム等を利用した同時双方向型の遠隔授業や、オンライン教材等を用いたオンデマンド型の遠隔授業等の実施方法が考えられるところ、授業の実施形態により必要な通信量は多様であることから、学生の通信環境や学内・地域の通信量等を踏まえつつ、これらの授業方法の組合せ又は面接授業との組合せや、画質調整等によるオンライン教材の低容量化、教材のダウンロードを回線の比較的空いている時間帯に指定するなど、各大学等の状況に応じた取組の工夫をお願いします。②十分な通信環境を持たない学生に対しては、地域における新型コロナウイルス感染症の影響の程度にもよりますが、大学等の教室やパソコン（以下「PC」という。）ルームを開放する、PCやルータ等を貸与する等の方法により対応することが考えられます。」等を留意すべき事項として通知している。</p> <p>また、総務省は、一般社団法人テレコムサービス協会、一般社団法人電気通信事業者協会、一般社団法人日本ケーブルテレビ連盟及び一般社団法人日本インターネットプロバイダー協会の電気通信事業者関連4団体に対し、「新型コロナウイルス感染症の影響拡大に伴う学生等の学習に係る通信環境の確保について（要請）」（令和2年4月3日付け総基料第89号）において、「①学生等が自宅等において遠隔授業等を活用して学習をするための通信環境の確保に関し、携帯電話の通信容量制限等について、柔軟な措置を講ずること。②講ずることとした措置について、利用者等に対し広く周知するとともに、インターネットの適切な利用についての啓発を更に強化するよう努めること。」について、各団体会員各社への周知を要請している。</p> <p>【調査結果】</p> <p>今回、当局が調査対象の8国立大学において、学生の情報通信機器の保有状況等に関する把握状況等を調査した結果、以下のとおりの状況がみられた。</p> <p>(1) 遠隔授業の受講に当たっての支障等に係るアンケート調査結果等</p> <p>調査対象の8国立大学のうち7大学では、学生に対し、新型コロナウイルス感染症対策として実施することとした遠隔授業に関するアンケート調査を実施しており、このうち6大学では、情報通信機器やイ</p>	<p>図表3-①</p> <p>図表3-②</p>

ンターネット環境において支障があったとした学生がどの程度いたのかを把握している。その結果は、以下のとおりであり、相当数の学生が、支障があるとしている。

① 遠隔授業を受講するために必要な情報通信機器やプリンターなどの機器面で支障があったとした学生は、岐阜大学で 516 人（回答率：29.1%）、名古屋大学で 305 人（回答率：73.9%）、名古屋工業大学で 158 人（回答率：15.1%）などとなっている。

② インターネット環境に支障があったとした学生は、岐阜大学で 608 人（回答率：29.1%）、名古屋大学で 581 人（回答率：73.9%）、静岡大学で 269 人（回答率：29.4%）などとなっている。

このほか、各大学の行ったアンケートには遠隔授業に係る個別の意見等が出されており、また、学生から遠隔授業に係る問合せ等を受け付ける各大学の窓口にも、様々な内容の意見等が寄せられている。これらの中には、「PCがない。」、「PCのスペックが低いからか、ウェブ会議システムが重くて時間通りに会議に参加できなかった。」、「音声途切れていたり、ノイズが入っており、満足に聞き取れない授業があった。」、「通信状況によっては遅延があるため、話を聞けないことがある。」、「ウェブ会議システムで音声がかき消えなくなり、戸惑っていたら、積極的に参加していないと判断された。」、「穴埋めや書き込まなければいけないレジュメを配信されると、スマートフォンしかない自分は、指で書き込んだり、コピー機がないのに印刷しなければならなくなるので困る。」等学生の保有する情報通信機器やインターネット環境等が、学生が遠隔授業を受講する上で支障となっているとするものがみられる。

図表 3-③

(2) 情報通信機器の保有状況等調査の実施状況

調査対象の 8 国立大学では、新型コロナウイルス感染症対策としての遠隔授業を実施するに当たり、学生の通信環境に配慮した適切な遠隔授業の実施方法やインターネット環境が整わない学生の支援などを検討するため、情報通信機器の保有状況等調査を実施している。大学ごとの調査数は、岐阜大学で 3、静岡大学で 11、浜松医科大学で 1、名古屋大学で 13、愛知教育大学で 1、名古屋工業大学で 1、豊橋技術科学大学で 1 及び三重大学で 6 と合計 37 となっている。

これらの調査の実施状況をみると、以下のとおり、i) 遠隔授業の開始日以降に当該調査が始められ、授業開始時に調査結果が反映されていない、ii) 個人の特定ができない調査の実施方法となっており、学生への支援が効率的に行われていない、iii) 遠隔授業の実施に必要な OS などの仕様やカメラ、マイクなどの機能（以下「仕様等」という。）を備えた情報通信機器の保有状況の調査となっていない、iv) 遠隔授業を実施する場合の通信環境の整備において重要な通信容量を把握する調査になっておらず、学生の学修機会の確保に関して重要な環境整備に向けての調査が行われていない状況がみられた。

図表 3-④、⑤、⑥

<p>ア 調査の実施時期</p> <p>全ての学生が遠隔授業を受講するためには、遠隔授業を始める前に、学生の情報通信機器の保有状況やインターネット環境を把握した上で、授業の実施方法の決定や環境が整わない学生に対する支援を実施することが重要である。</p> <p>調査対象の8国立大学が実施した37の情報通信機器の保有状況等調査のうち、授業の開始日より前に調査を終了しているものは、岐阜大学で2、静岡大学で11、浜松医科大学で1、名古屋大学で9、愛知教育大学で1、名古屋工業大学で1、豊橋技術科学大学で1及び三重大学で5の計31の調査であった。一方、岐阜大学で1（一部学科のみ）、名古屋大学で4及び三重大学で1の計6つの調査は、遠隔授業の開始日以降に調査を始めている状況である。</p> <p>この理由について、</p> <p>i) 名古屋大学では、4つの調査のうち3つの調査については、インターネット環境が整わない学生に対し、Wi-Fi等の使える教室を開放する等の支援を行うことを予定していたが、遠隔授業の開始日前日に緊急事態宣言が発令され、学生が大学構内に入構できなくなったことから、学生が自宅等で遠隔授業を受けられるかどうかを把握するために実施したためであり、残り1つの調査については、授業開始後における学生の通信環境の現状を把握し、遠隔授業の実施方法の変更が必要かどうか検討するためのものであったとしている。</p> <p>ii) 岐阜大学では、調査開始が遠隔授業の開始日以降となった学科は、他大学との共同教育課程であり、遠隔授業の開始日を他大学と調整したためとしている。</p> <p>iii) 三重大学では、調査を遠隔授業の開始日に実施した研究科は、念のため、不具合を確認する目的で授業開始日に調査を実施したためとしている。</p>	<p>図表3-④（再掲）</p> <p>図表3-⑤（再掲）</p>
<p>イ 調査の実施方法</p> <p>全ての学生が遠隔授業を受講するためのインターネット環境が整わない学生への支援の方法としては、i) Wi-Fi等の使える教室等の開放、ii) PC及びルータの貸出しがある。このうち、PC及びルータの貸出しを行う場合には、個人を特定する必要がある。個人を特定せず支援が必要な学生がどの程度いるのか傾向を把握するためだけの調査の場合は、別途学生からの申出などが必要となり、手続に時間を要することで、学生の授業に支障が生じるおそれがある。</p> <p>調査対象の8国立大学が実施した37の情報通信機器の保有状況等調査について、調査の実施方法をみると、学内システム、ウェブフォーム、メールや電話、紙媒体、面談等により調査を行っている。</p> <p>このうちウェブフォームを使用した調査の中で、ルータの貸出しを行っている名古屋大学の3つの調査が、回答者を特定できない方法で実施されており、これらの調査の対象となった学生が支援を受</p>	<p>図表3-④（再掲）</p> <p>図表3-⑥（再掲）</p>

<p>けるためには、別途の申出が必要な状況であった。</p> <p>なお、同大学では、個人が特定できない方法で調査を実施した理由について、</p> <p>i) 「全体的な実態を把握することを目的としていたこと、記名にすることで回答率が低下する可能性があることを考慮して無記名とした。なお、インターネット環境に困難を抱えている学生に対しては別の方法により個別に対応している。」としている。</p> <p>ii) 「学生の通信環境の現状を把握し、遠隔授業の実施方法について検討するために行ったため、個人の特定を行わなかった。」としている。</p> <p>iii) 「学期当初にオンライン授業の実施の可能性を検討することを目的として、インターネット環境について統計的な情報を得るため実施した。」としている。</p>	
<p>ウ 情報通信機器に関する調査</p> <p>8 大学がアンケートにより把握した個別の意見等や学生から遠隔授業に係る問合せ等を受け付ける各大学の窓口に寄せられた問合せ等の中には、情報通信機器に関して、「特定の OS を搭載している PC に対応していないソフトを使用しなければならない授業がある。」「特定の OS を搭載している機械を使用している学生から、在宅授業の課題提出用ファイルが開けないとの問い合わせが複数ある。」など、保有する情報通信機器の OS が支障になっているものがみられる。</p> <p>また、いずれの大学でも、カメラやマイクが使用できる情報通信機器が必要な同時双方向型の授業を取り入れている。</p> <p>このため、8 大学が行った 37 の情報通信機器の保有状況等調査のうち、情報通信機器に関する調査の実施状況をみると、以下のとおり、保有する機器の OS、カメラやマイクの状況について、調査していないものがみられた。</p>	<p>図表 3-③ (再掲)</p>
<p>① 37 の情報通信機器の保有状況等調査のうち情報通信機器の OS の状況について調査しているものは、岐阜大学で 1、静岡大学で 3、名古屋大学で 3、名古屋工業大学で 1 及び豊橋技術科学大学で 1 の計 9 つの調査となっている。</p>	<p>図表 3-⑦</p>
<p>なお、残り 28 の調査のうち 8 つの調査を実施している浜松医科大学、愛知教育大学及び三重大学では、学生の PC 必携化や保有の推奨を行っており、令和 2 年度入学者に対し、保有する PC 等の OS の仕様を示している。</p>	<p>図表 3-⑧</p>
<p>② 37 の情報通信機器の保有状況等調査のうち情報通信機器のマイクやカメラの状況について調査しているものは、岐阜大学で 2、静岡大学で 2、名古屋大学で 4、名古屋工業大学で 1 及び三重大学で 2 の計 11 の調査となっている。</p>	<p>図表 3-⑦ (再掲)</p>
<p>なお、残り 26 の調査のうち 1 つの調査を実施している愛知教育</p>	<p>図表 3-⑧ (再掲)</p>

<p>大学では、学生の PC 必携化を行っており、令和 2 年度入学者に対し、内蔵カメラ付きの PC を推奨している。</p>	<p>掲)</p>
<p>エ インターネット環境に関する調査</p>	
<p>8 大学がアンケートにより把握した個別の意見等や学生から遠隔授業に係る問合せ等を受け付ける各大学の窓口寄せられた問合せ等の中には、「Wi-Fi がないため通信制限が気になってしまう。」、「オンデマンド形式では問題ないが、ネット回線の問題でウェブ会議システムに十分に参加できなかった。」、「Wi-Fi の速度制限の上限があるため動画を長時間見られない。」、「動画を見るには通信容量が足りない。」、「Wi-Fi がないため通信料がかかる。」、「実家には Wi-Fi 環境はあるが、下宿先は Wi-Fi 環境がないので、デザリング機能でネットを使用しているが、月末になると、速度制限がかかり、視聴できなくなる恐れがある。」、「自分が契約している Wi-Fi は、3 日間で 10GB までという制限があり、遠隔講義を受講するにあたって十分なのか不安。」などがあり、学生が授業を受ける際、良好な通信環境を整備する上で通信容量が重要な要素となっていることがうかがえる。</p>	<p>図表 3-③ (再掲)</p>
<p>また、総務省は、令和 2 年 7 月 31 日時点における「新型コロナウイルス感染症の影響拡大に伴う学生等の学習に係る通信環境の確保に関する取組状況」を公表しており、これによれば、27 事業者 15 ブランドが、総務省の要請などに基づき 4 月 1 日から順次、学生の遠隔授業等に対する支援を行っている。ただし、当該支援は、4 事業者 4 ブランドを除き、8 月 31 日までに終了した。</p>	<p>図表 3-② (再掲)、⑨</p>
<p>名古屋大学医学部医学科が 4 月下旬に行った情報通信機器の保有状況等調査によれば、これらの支援を受けて 1 か月当たり 20GB 以上を利用できた学生が 11.0% (75 人) みられたものの、これらの支援を実施していない電気通信事業者と契約していたことなどにより、1 か月当たり 20GB までしか利用できなかった学生も 3.0% (20 人) みられた。</p>	<p>図表 3-⑩</p>
<p>加えて、8 大学が実施した 37 の情報通信機器の保有状況等調査について、インターネット環境に関する調査の実施状況をみると、1 か月当たりどのくらいの通信容量が利用できるのかを調査しているものは、岐阜大学で 1、静岡大学で 2、名古屋大学で 3、上記と合わせて計 7 の調査となっている。</p>	<p>図表 3-⑪</p>
<p>このような状況を踏まえ、調査対象の 8 国立大学に対し、電気通信事業者への支援継続などの意見・要望等を聴取したところ、7 国立大学では、「学生の自宅等の通信環境によっては携帯電話の通信容量制限等により学習を行うことが困難な場合も想定される。」、「電気通信事業者の無償支援がなくなることで、経済的な負担が高いと感じる学生にとって安定的な受講の妨げとなることが想定される。」などとして、支援の継続を望んでいる状況がみられた。なお、残り 1 大学については、インターネット環境が整っていない学生に貸し出すための</p>	<p>図表 3-⑫</p>

PC 及びルータを十分に確保しており、インターネット環境の問題はないとしている。

(3) 遠隔授業の実施に必要な情報通信機器、インターネット環境に関する情報提供

調査対象の 8 国立大学では、遠隔授業に関する問合せ等を受け付ける窓口において、上記(1)、(2)ウ及びエに記載したもののほか、学生から「スマートフォンだと画面が小さく講義が見つらい。」、「タブレット端末でも視聴可能か。」、「オンライン授業は、スマートフォンでも受講可能か。」、「授業を受けるのに必要なネットのデータ通信量はどのくらいか。」、「1 コマ 90 分の講義で、どれくらいの通信容量がかかる見込みか。」等の問合せ等を受けている。

学生が遠隔授業を受講するに当たり、適切な情報通信機器の確保やインターネット環境の整備をするためには、機器の仕様・機能(以下「仕様等」という。)やインターネット環境の整備に関する情報が必要である。

しかし、8 大学における遠隔授業の受講に当たり必要な情報通信機器の仕様等及びインターネット環境の学生への周知状況についてみると、i) 機器について、必要な仕様等を周知していない、ii) インターネット環境を整備するに当たって、何に注目すればよいのか周知していない状況が、以下のとおりみられた。

- ① 岐阜大学教育学部は、「最新の OS を搭載したカメラ付きのもの」、三重大学は、「マイクは、イヤフォンとマイクが一体になったもの」、「パソコンにカメラが内蔵されていない場合、PC に加えてスマートフォンでも接続すればスマートフォンのカメラを使えます。」など遠隔授業を受講する上で必要な情報通信機器の仕様等を示しているほか、PC の必携化や保有を推奨している静岡大学工学部、浜松医科大学、愛知教育大学及び三重大学では、入学者を対象に授業を受講する上で必要な情報通信機器の仕様等を周知しているが、その他の大学では周知していない。

なお、静岡大学では、PC 必携化を行っていない学部の学生から個別に問合せが寄せられた場合、i) CPU は 1.6GHz 以上で 2 コア、ii) メモリは 4 GB 以上、iii) ハードディスクは使用可能ディスク領域が 4 GB 以上等の仕様を推奨すると回答するとしている。

- ② 岐阜大学の教育学部及び三重大学は、通信速度や通信容量に制限のないインターネット環境を整備するよう周知しており、名古屋大学及び名古屋工業大学は、通信量が増えるので注意するよう周知しているが、その他の大学においては、具体的な周知を行っていない。

【所見】

したがって、調査対象の 8 国立大学は、今後遠隔授業を実施する際、

図表 3-③ (再掲)

図表 3-⑬

学生の学修機会を確保する観点から、次の措置を講ずる必要がある。

① 授業の実施方法の検討やインターネット環境等の整っていない学生に対する適切な支援が実施できるよう、新年度当初に行われるガイダンス等の機会や学内システムを活用して、授業を開始するまでに、以下の事項に留意した学生の情報通信機器の保有やインターネット環境の状況を把握すること

(岐阜大学、静岡大学、浜松医科大学、名古屋大学、愛知教育大学、名古屋工業大学、豊橋技術科学大学、三重大学)

i) インターネット環境等が整っていない学生に対して必要な支援を行えるよう、支援が必要な学生が特定できる把握方法とすること

ii) 学生に対し、保有する情報通信機器に必要な OS の仕様、カメラやマイク機能について周知を行っていない大学においては、保有する機器のそれらの状況について調査すること

iii) インターネット環境の調査においては、1 か月あたりに使用可能な通信容量について調査すること

② 学生が遠隔授業の受講に必要な情報通信機器の確保やインターネット環境を整備する上で必要な機器の仕様等や通信容量に注意することなどの情報を周知すること

(岐阜大学、静岡大学、浜松医科大学、名古屋大学、愛知教育大学、名古屋工業大学、豊橋技術科学大学)

図表 3-① 「大学等における遠隔授業の実施に当たっての学生の通信環境への配慮等について」(令和2年4月6日付け2文科高第36号)(抜粋)

1. 学生の通信環境等への配慮等について

(1) 遠隔授業の実施に当たっては、必要に応じて事前のアンケート調査により学生の情報通信機器の保有状況等を把握し、適切な遠隔授業の実施方法を検討するなど、学生の通信環境に十分配慮することが重要です。その上で、テレビ会議システム等を利用した同時双方向型の遠隔授業や、オンライン教材等を用いたオンデマンド型の遠隔授業等の実施方法が考えられるところ、授業の実施形態により必要な通信量は多様であることから、学生の通信環境や学内・地域の通信量等を踏まえつつ、これらの授業方法の組合せ又は面接授業との組合せや、画質調整等によるオンライン教材の低容量化、教材のダウンロードを回線の比較的空いている時間帯に指定するなど、各大学等の状況に応じた取組の工夫をお願いします。

なお、同時双方向型の遠隔授業を実施する場合、当該授業の全時間帯について同時双方向の状態を保つことは法令上求められていないことから、例えば、90分授業の最初と最後においてテレビ会議システム等を通じた講義を実施し、その途中においては、電子メールや掲示板等による質疑応答等を行いつつ、スライド資料等の教材を用いて、授業中に課すものに相当する学修を各自行わせるといった方法も考えられます。

(2) 十分な通信環境を持たない学生に対しては、地域における新型コロナウイルス感染症の影響の程度にもよりますが、大学等の教室やPCルームを開放する、PCやルータ等を貸与する等の方法により対応することが考えられます。教室やPCルーム等を開放する場合には、4月1日付高等教育局長通知「大学等における臨時休業の実施に係る考え方等について」等を参照の上、万全の感染症対策を講じ、衛生環境の整備に特に御留意ください。

(注) 下線は、当局が付した。

図表 3-② 「新型コロナウイルス感染症の影響拡大に伴う学生等の学習に係る通信環境の確保について（要請）」（令和2年4月3日付け 総基料第89号）（抜粋）

標記について、新型コロナウイルス感染症の影響拡大に対応し、学生等が自宅等において遠隔授業等を活用して学習をすることが必要となっている。学生等の自宅等の通信環境によっては携帯電話の通信容量制限等により学習を行うことが困難な場合も想定されることから、そのような学生等においても学習の機会が確保されるよう、下記の事項について、貴団体会員各社への周知を要請する。

記

- 1 学生等が自宅等において遠隔授業等を活用して学習をするための通信環境の確保に関し、携帯電話の通信容量制限等について、柔軟な措置を講ずること。
- 2 講ずることとした措置について、利用者等に対し広く周知するとともに、インターネットの適切な利用についての啓発を更に強化するよう努めること。

図表 3-③ 遠隔授業に関するアンケート結果及び遠隔授業に関する問合せ窓口等への情報通信機器やインターネット環境に関する学生からの問合せ等（抜粋）

大学名	アンケート結果や学生からの問合せ等
岐阜大学	<p>【遠隔授業に関するアンケート調査(6月24日～7月7日；アンケート対象者数：7,257人、回答者数：2,111人、回答率：29.1%)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PC やプリンター等の機器面で学習への支障がある学生が 11.9%（「遠隔授業による学習面で支障があることは何か」に回答した延べ4,321人中516人） ・ネット接続環境等の通信面学習への支障がある学生が 14.1%（「遠隔授業による学習面で支障があることは何か」に回答した延べ4,321人中608人） ・音が小さすぎる時がある。 ・通信状況によっては遅延があるため、話を聞けないことがある。 ・特定のOSを搭載しているPCに対応していないソフトの使用を必要とする授業がある存在 ・ウェブ会議システムで受講中に画面が深夜のテレビのようなモザイク状になってしまったり、接続が切れてしまったりして、困ることがある。 ・音声途切れていたり、ノイズが入っており、満足に聞き取れない授業があった。 ・1人暮らしでポケットWi-Fiのため、ウェブ会議システムのとき接続がよく不安定になる。会話が遅れてしまう。 ・PCが親のものしかなく、いつ使えるかわからない。スマートフォンだと画面が小さく講義が見づらい。 ・PCのスペックが低いからか、ウェブ会議システムが重くて時間通りに会議に参加できなかった。 ・Wi-Fiがないため通信制限が気になってしまう。 ・ウェブ会議システムで音声がかえなくなり、戸惑っていたら、積極的に参加していないと判断された。 ・アパート共用の光回線のため、時間帯により速度差が出る。 ・オンデマンド形式では問題ないが、ネット回線の問題でウェブ会議システムに十分に参加できなかった。
静岡大学	<p>【オンライン在宅授業の学習状況確認アンケート(5月20日～5月29日；アンケート対象者数：10,162人、回答者数：2,986人、回答率：29.4%)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅学習用のパソコンが確保できなかった学生が 1.1%（全回答者2,986人中34人） ・インターネット回線が不安定、契約通信量が少なく、在宅授業の課題内容を確認できなかった学生が 9.0%（全回答者2,986人中269人） <p>【緊急支援サイトに記載された問合せ先に寄せられた問合せ】</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン授業や在宅ワークの導入が増えてきた中で、大学用の PC の発送が遅くなってしまい、オンライン授業に間に合わない可能性が出てきた。オンライン授業はスマートフォンでも受講可能か。家にパソコンはあるが、こちらを買ったところで、新しいものが手元に届いていないため、現状家にある PC の OS は、サポートが終了した OS である。 ・寮の Wi-Fi が普段から不安定なのでオンラインでの授業やゼミが不安である。 ・所持している PC のスペックが低いのでオンラインのゼミや授業が不安である。 ・学務情報システムを通じて在宅授業の課題提出用ファイル（文書作成ソフト）を配布したところ、同ファイルが開けないという問い合わせが、学務情報システムの掲示板を含めて複数あった。当該学生は特定の OS を搭載している機械を使用しているようだ。
<p>浜松医科大学</p>	<p>【Web 授業に関するアンケート(5 月 28 日～6 月 2 日 ; アンケート対象者数 : 732 人、回答者数 : 493 人、回答率 : 67.3%)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たまに通信状態が悪く音声がかかる事がある。 ・出席しているのに出席していないことになっていたりする。通信環境問題にもよるので、ウェブ授業で出席をとるのは公平ではないと強く思う。 ・たまに通信が不安定で音声がかき取りづらい時がある。 ・個人的に時折ウェブ会議システムの画面だけ真っ暗になってしまうときがあって困ったが、自分のパソコンの問題だと思う。 ・ネット環境や、ウェブ会議システムへのログイン時のトラブルで遅れてしまう場合があるにも関わらず、指名されたときに返事をしなかったら欠席扱いにするという先生がいるが、もう少し考えてほしい。 ・穴埋めや書き込まなければいけないレジュメを配信されると、スマートフォンしかない自分は、指で書き込んだり、コピー機がないのに印刷しなければならなくなるので困る。看護科は学習支援システムでの課題が多すぎる。(文字の小さい資料を配って読み取るような課題は目が疲れるのでできれば避けたい) ・Wi-Fi の関係もあって途中で切れてしまったりすると、大事なところが聞けないし出席に関わったりもするので、そこだけは心配になってしまうところがある。 ・回線の問題で追い出されたり音声がかき切れたりして講義がきちんと聞けないことがある。生徒側の回線の問題もあると思うが「担当教員」のアカウントの回線表示のようなものが白ではなく赤色で表示されていることがあるので学校側の回線の問題のときもあるのではないかなと思う。 ・Wi-Fi 環境が良くないと講義に参加できないので不便だった。 <p>【インターネット環境の整備状況に関するアンケート(3 月 31 日～4</p>

	<p>月 3 日 ; アンケート対象者数 : 792 人、回答者数 : 712 人、回答率 : 89.9%)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ PC がない。 ・ タブレット端末でも視聴可能か。 ・ Wi-Fi の接続が悪く、インターネットアプリが落ちてしまうことがよくある。 ・ Wi-Fi の速度制限の上限があるため動画を長時間見られない。 ・ 動画を見るには通信容量が足りない。 ・ Wi-Fi がないため通信料がかかる。 ・ 実家には Wi-Fi 環境はあるが、下宿先は Wi-Fi 環境がないので、デザリング機能でネットを使用している。そのため、月末になると、速度制限がかかり、視聴できなくなる恐れがある。
名古屋大学	<p>【遠隔授業実施に関するアンケート {教養教育院中間アンケート} (5月25日～6月7日 ; アンケート対象者数 : 4,471 人、回答者数 : 3,302 人、回答率 : 73.9%)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ PC やプリンター等の機器面において、遠隔授業による学習で支障がある学生が 5.3% (「遠隔授業による学習で支障があること」について回答した延べ 5,760 人中 305 人) ・ ネット接続等の通信面において、遠隔授業による学習で支障がある学生が 10.1% (「遠隔授業による学習で支障があること」について回答した延べ 5,760 人中 581 人) ・ インターネットの接続が不安定なので、できれば、パワーポイントと音声を使った授業にしてほしい。 ・ ウェブ会議システムを使った授業は、通信が重くなり、授業が聞けない不安があるので、できるだけ減らすようにしてほしい。 ・ 動画は、問題なく授業に参加できるよう、小さな容量としてほしい。 ・ ウェブ会議システムは、学生間でのリアルタイムのコミュニケーションを必要とする講義以外で使うことには、あまり賛同できない。 <p>【ウェブ会議システムによる問合せ窓口】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習支援システムのセッションが頻繁に切れてしまう。 ・ 本日の授業の受講中にウェブ会議システムのソフトが落ちた。 <p>【教養教育院に対するメールでの問合せ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業を受けるのに必要なネットのデータ通信量はどのくらいか。 ・ オンライン講義は、1 講座あたりどの程度通信量が発生するのか。 ・ 自分が契約している Wi-Fi は、3 日間で 10GB までという制限があり、遠隔講義を受講するにあたって十分なのか不安。 ・ 自宅のインターネット環境の整備が、授業開始には間に合わない。どのように授業を受ければよいか。 ・ 遠隔授業が始まったが、授業が受けられない状況にある。Wi-Fi を借りることができるか聞いたが、どのようにすればよいか。 <p>【情報推進部に対するメールでの問合せ】</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン講義、ウェブ会議システムの授業などで接続状態が悪くなる。
愛知教育大学	<p>【通信教育の実態把握のためのアンケート(7月10日～7月26日; アンケート対象者数: 4,046人、回答者数: 1,108人、回答率: 27.4%)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遠隔授業を受講するための通信環境が不十分で困っている学生が5.2% (「遠隔授業で困っていること」について回答のあった延べ4,185人中217人) <p>【教務企画課に対するメールでの問合せ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在下宿をしており、ポケットWi-Fiを使っているが、通信速度制限の影響でまなびネット、学務ネット、ウェブメールにPCでアクセスすることができない。スマートフォンでのアクセスはできるが、低速になっているため、ファイルの読み込みに失敗することが多く、動画がとぎれとぎれでしか再生できない、もしくは全く再生できずに困っている。1GBまでの通信が可能であるが、25歳を超えているため、通信会社のキャンペーンは適用外。実際に授業が始まらないと分からないかもしれないが、1コマ90分の講義で、どれくらいの通信容量がかかる見込みか。 ・下宿にWi-Fiがなく、携帯のデータ通信容量に不安がある。学生に対する補償を見たが、追加の分を購入するにもお金がかかり、金銭的に厳しい状況にある。何か解決策はあるか。 ・自宅は通信環境が整っておらず、モバイルWi-Fiを購入したがそれも圏外で、自宅では授業を履修することが難しい。また、私の使っている携帯電話は、通信容量制限等に関する特別なサービスは受けられず、固定回線を設置する工事も1か月以上かかってしまう。どうしたらよいか。 ・「遠隔授業は自宅で学習することを原則としますので、自宅から遠隔授業が可能な通信環境を備えているかどうかをあらかじめ確認しておいてください。」とホームページ上に記載があったが、学習支援システムにアクセスでき、授業のパワーポイントなどが確認できれば、「遠隔授業が可能な通信環境を備えている」と判断してよいか。
名古屋工業大学	<p>【オンデマンド授業に関するアンケート(8月24日～9月2日; アンケート対象者数: 5,559人、回答者数: 838人、回答率: 15.1%)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PCやプリンター等の機器面が悪かった学生が5.0% (「オンデマンド授業で悪かったこと」について回答した延べ3,151人中158人)。 ・インターネット環境が十分でなかった学生が2.3% (オンデマンド授業で悪かったことに回答した延べ3,151人中72人)。 <p>【学生なんでも相談室】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義で動画配信サービスを使用するが、画質を自動設定にすると途中で画質が荒くなってしまう。また、画質を自分で指定すると、動画が止まってしまう。私のネット環境が悪いのか。ちなみに、学習支援システムの動画は問題なく見られる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで何の問題もなく授業を受けられていたが、5月28日から動画が30秒ごとに止まってしまう、スムーズに授業を受けられず、内容も頭に入っていないので、とてもストレスになっている。 ※ 本件は、大学や学生のインターネット環境の問題ではなく、動画配信サービスのアップデート時において、不具合が発生した可能性が高い。
豊橋技術科学大学	<p>【学生向け遠隔授業アンケート(8月31日～9月23日;アンケート対象者数:2,069人、回答者数:642人、回答率:31.0%)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機器の故障などで使えない、利用できる機器の調達が困難な学生が7.3%(遠隔授業において技術的・環境的に問題があったと回答した延べ546人中40人)。 ・動画が途切れる、動画が途切れる・動画の画質が不明瞭で視聴しづらい、動画が途切れる・動画の音声不明瞭で聞き取りづらい学生が30.4%(遠隔授業において技術的・環境的に問題があったと回答した延べ546人中166人)。 ・PCの不具合で講義を受けづらい。 ・インターネットの使用環境が整っていない。 ・インターネット接続が不定期に途切れた。 ・スマホのデザリング以外にPCをインターネットに接続する方法がなかった。 ・通信環境が用意できていなかった。 ・容量が大きすぎてスマートフォンの空きがなくなりスマホが動かない。 ・自宅のWi-Fiが、時々突然切れることがある。 <p>【IT活用教育センター(CITE)遠隔講義サポート窓口】 (当局が確認した範囲においては、遠隔授業を受けるためのネットワーク接続手続についての問合せ等が多く、情報通信機器やインターネット環境に関する問合せは確認できなかった。)</p>
三重大学	<p>【MEIPL サポートデスク】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PCのウェブ会議システムの映像だけが映らなくなる。 ・ウェブ会議システムの接続試験の際にうまく繋がらず、参加できなかった。 ・PCが動かなくなってしまった。 ・PCを使っていると画面が突然消えたり、使っていない時間が5分も経っていないのに消えたりする。画面が消えては電源を入れるを繰り返していたら、電源が入らなくなった。どうすれば直るのか。 ・下宿先のマンションが提供してくれるWi-Fiを使用しており、スマートフォンは遅いながらも使えているが、PCではWi-Fiに繋げても使えない。OSのネットワーク診断ツールでは、「DNSサーバーが応答していない。」と表示される。どうしたら解決するのか教えてほしい。また、実家のWi-Fiは4Gくらいの速度はあったが、マンションのWi-Fiは特に夜に低速になってしまう。マンションのWi-Fiの仕組みも

教えてほしい。

・社会人大学院生として授業を履修している。家に PC はあるが、妻が仕事に持って行くため、日中に PC を使うことができない。このままでは、オンライン授業にも支障をきたすため購入を検討しているが、大学で PC を借りることができるという聞いた。大学でパソコンを借りる方法を教えてほしい。

・PC 購入時に、搭載が必要なソフトは何か。

・ウェブ会議システムのビデオが写らないが、どうしたらよいか。

・学習支援システム上にアップされたある授業の講義動画のリンクをタップすると各種ソフトのパッケージサービスのサインインを求められたので、作成済みのアカウント ID を入力したが、「このユーザー名は間違っている可能性があります。」と表示され、動画が再生できない。新版の各種ソフトのパッケージサービスではなく、旧版の各種ソフトのパッケージサービスがインストールされているが、それが原因か。動画を再生するには、新版の各種ソフトのパッケージサービスを購入し、インストールするしか方法がないのか。

・月末になるとウェブ会議システムの接続が悪くなり画面が止まったり、各講義の課題動画が止まったりする。このような場合、どのような改善を行えば良いのか。

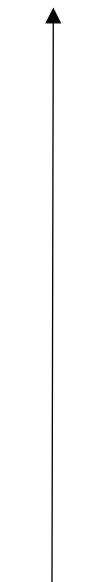
・Wi-Fi はしっかり繋がっているが、動画配信サービスで動画を視聴すると、動画が途切れ途切れになり音声と画像が合わず、止まるとずっとローリングしたまま見ることができない。どうしたらよいか。

・現在特定の OS を搭載している PC を使っているため、別の OS を PC に入れることを検討している。そのためのライセンスは各自で購入すれば良いのか。

・文書作成ソフトを PC で開くことができない。

(注) 1 当局の調査結果による。

2 問合せ窓口等への問合せ等については、各大学に係る調査日現在において、当局が確認した問合せ等の中から、情報通信機器やインターネット環境に関する問合せを当局が抜粋した。



図表 3-④ 各大学におけるインターネット環境の整わない学生に対する支援の実施状況

大学名	支援方法	支援の周知状況	支援開始日等 (遠隔授業開始日)
岐阜大学(全学)	Wi-Fi 等の使える教室等の開放	5月8日に学務情報システムで、岐阜大学副学長(企画・教育・評価・基金担当)兼岐阜大学教育推進・学生支援機構長から学生あてに「5月11日以降のネットワーク環境支援のための大学施設・設備の利用について」を发出するとともに、大学ホームページで周知している。	5月11日 (5月7日)
岐阜大学(教育学部・教育学研究科)	PC及びルータの貸出し	降のネットワーク環境支援のための大学施設・設備の利用について」を发出するとともに、大学ホームページで周知している。	4月14日 (5月7日)
静岡大学	Wi-Fi 等の使える教室等の開放	4月28日に学務情報システムで、理事(教育・附属学校園担当)から学生あてに「パソコン実習室等の開放について」を发出するとともに、大学ホームページの学生向け在宅(遠隔)授業専用サイトにおいて、前述の文書を確認するよう周知している。	4月30日 (4月30日)
浜松医科大学	Wi-Fi 等の使える教室等の開放	4月2日に実施したガイダンスにおいて、インターネット環境が整わない場合に、学内のPCやWi-Fiが利用できる教室等を開放する旨周知するとともに、在校生に対し、4月3日にポータルサイトで、学務課教務係から学生あてに、開放教室等のスケジュール等を周知している。	4月6日 (4月6日)
名古屋大学	Wi-Fi 等の使える教室等の開放	4月3日及び4月7日に大学ホームページ(総長メッセージ)で、「2020年度春学期の授業の実施方針」とともに、インターネット環境が整わない場合に、学内のPCやWi-Fiが利用できる旨周知している。	—
	ルータの貸出し	4月16日に大学ホームページで、「2020年度春学期の授業の実施方針」とともに、インターネット環境が整わない場合に、所属学部・研究科に相談するよう周知している。また、5月7日及び8日に大学ホームページ(総長メッセージ)で、部局を通じてWi-Fiルータ貸し出しを行っている旨周知している。	4月17日 (5月6日)

愛知教育大学	Wi-Fi 等の使える教室等の開放	4月30日に学務ネットで、教育・学生担当理事兼カリキュラム改革担当副学長から、「学部における遠隔授業開始にあたって」を发出し、授業を履修するための十分な通信環境を備えていないことがわかった場合は、至急、教務企画課までメールで問い合わせるよう周知するとともに、大学ホームページにも当該文書を掲載している。	5月7日 (5月7日)
名古屋工業大学	Wi-Fi 等の使える教室等の開放、PC及びルータの貸出し	4月7日に電子掲示板に「2020年前学期における授業等の実施に係る方針について(新型コロナウイルス感染症対策)」を掲載し、インターネット環境が整備できない学生は、Wi-Fi 等の使える教室等が使える旨周知している。また、5月7日に情報基盤センターホームページに掲載した「オンライン授業のためのFAQ」において、端末やインターネット環境の準備が困難な場合は、学務課に相談するよう周知をしている。	5月7日(注)2 (5月14日)
豊橋技術科学大学	PC及びルータの貸出し	4月24日に教務情報システムで、情報メディア基盤センター及びIT活用教育センターから「遠隔授業を受けるためのネットワーク接続手続について」を发出し、遠隔授業を受けるための手続きとともに、インターネット環境が整備できない学生は、教務課教務係に連絡するよう周知するとともに、大学ホームページにも当該文書を掲載している。	5月11日 (5月11日)
三重大学	ルータの貸出し	全学的な周知は行っていないが、情報通信機器の保有状況等調査の結果、インターネット環境が十分でない学生には、その学生や保護者に学部から電話説明等を行い、それでもインターネット環境を整備することが難しい学生に、各学部がルータの貸し出しを行っている。	医学部： 4月17日 (4月17日) 人文学部： 6月1日 (5月14日)

(注)1 当局の調査結果による。

2 名古屋工業大学は、遠隔授業の開始日程を当初の周知日から変更しているが、Wi-Fi 等の使える教室等の開放は、当初の周知日から行っている。

図表 3-⑤ 各大学における情報通信機器の保有状況等調査の実施日等

大学名	学部・研究科等名	遠隔授業 開始日 (当初予定の 授業開始日)	情報通信機器の保有 状況等調査実施日 (調査終了から授業 開始までの間の期 間)
岐阜大学	①全学	5月7日 (4月10日) (注3)	4月13日～4月17日 (19日間)
	医学系研究科医療者教育学専攻	4月7日 (4月7日)	—
	医学部看護学科	4月20日 (4月10日)	—
	②応用生物科学部共同獣医学 科(注4)	4月22日 (4月10日)	4月23日～4月30日 (注5)(0日間)
	③教育学部／教育学研究科	5月7日 (4月10日)	4月13日～5月6日 (0日間)
	②応用生物科学部応用生命 科学課程、生産環境科学課程／自 然科学技術研究科生命科学・化 学専攻、生物生産環境科学専攻 (注4)	5月7日 (4月10日)	4月23日～4月30日 (6日間)
	地域科学部；工学部；全学共通 教育科目／地域科学研究科；自 然科学技術研究科環境社会基 盤工学専攻、物質・ものづくり 工学専攻、知能理工学専攻、エ ネルギー工学専攻；連合農学研 究科；共同獣医学研究科(連合 獣医学研究科を含む)	5月7日 (4月10日)	—
	医学部医学科	5月11日 (4月10日)	—
	医学系研究科医科学専攻	6月2日 (4月10日)	—
	連合創薬医療情報研究科	6月4日 (4月10日)	—
静岡大学	全学	4月30日 (4月9日)	—
	①人文社会科学部／人文社会 科学研究科	4月30日 (4月9日)	4月16日～4月23日 (6日間)
	②教育学部／教育学研究科	4月30日 (4月9日)	4月17日～4月20日 (9日間)
	③情報学部／総合科学技術研 究科情報学専攻	4月30日 (4月9日)	4月9日～4月11日 (18日間)
	④理学部数学科、化学科、地球 科学科、物理科(2～4年生)、創 造理学コース(2～4年生)／総 合科学技術研究科理学専攻	4月30日 (4月9日)	4月22日～4月25日 (4日間)
	⑤理学部物理科(1年生)	4月30日 (4月9日)	4月15日～4月24日 (5日間)
	⑥理学部創造理学コース(1年 生)	4月30日 (4月9日)	4月15日～4月24日 (5日間)
	⑦理学部生物科学科(1年生)	4月30日 (4月9日)	4月14日～4月17日 (12日間)
	⑧理学部生物科学科(2～4年 生)	4月30日 (4月9日)	4月15日～4月24日 (5日間)
	工学部／総合科学技術研究科 工学専攻	4月30日 (4月9日)	—

	⑨農学部 (1年生)	4月30日 (4月9日)	4月上旬 (注6) (不明)
	⑩農学部 (2~3年生)	4月30日 (4月9日)	4月10日~4月17日 (12日間)
	農学部 (4年生) / 総合科学技術研究科農学専攻	4月30日 (4月9日)	—
	⑪地域創造学環	4月30日 (4月9日)	4月15日~4月22日 (7日間)
	自然科学系教育部; 光医工学研究科	4月30日 (4月9日)	—
浜松医科大学	全学	—	—
	医学研究科看護学専攻 (2年生)	4月1日 (4月1日)	—
	①医学部医学科	4月6日 (4月6日)	3月31日~4月3日 (2日間)
	連合小児発達学研究科	4月6日 (4月6日)	—
	医学研究科看護学専攻 (1年生)	4月10日 (4月10日)	—
	①医学部看護科	4月13日 (4月13日)	3月31日~4月3日 (9日間)
	医学系研究科医学専攻; 医学系研究科光医工学共同専攻	4月15日 (4月15日)	—
名古屋大学	①全学	4月17日 (4月10日)	4月1日~4月10日 (6日間)
	文学部 / 人文学研究科	4月17日 (4月10日)	—
	②教育学部 / 教育学研究科	4月17日 (4月10日)	4月12日~4月16日 (0日間)
	法学部 / 法学研究科	4月17日 (4月10日)	—
	経済学部 / 経済学研究科	4月17日 (4月10日)	—
	③情報学部 / 情報学研究科	4月17日 (4月10日)	4月17日~5月1日 (注5) (0日間)
	④理学部 (注7)	4月17日 (4月10日)	4月9日~4月11日 (5日間)
	④理学研究科; 多元数理科学研究科 (注7)	4月17日 (4月10日)	4月9日~4月19日 (注5) (0日間)
	⑤医学部医学科	4月17日 (4月10日)	4月22日~4月24日 (注5) (0日間)
	⑥医学系研究科医科学専攻	4月17日 (4月10日)	4月2日~4月10日 (6日間)
	医学部保健学科 / 医学系研究科 (医科学専攻を除く)	4月17日 (4月10日)	—
	⑦工学部物理工学科 (1、3、4年生) (注8)	4月17日 (4月10日)	4月7日 (9日間)
	⑧工学部物理工学科 (2年生) (注8)	4月17日 (4月10日)	4月7日 (9日間)
	⑦工学研究科応用物理学専攻、物質科学専攻 (注8)	4月17日 (4月10日)	4月6日 (10日間)
	⑨工学部電気電子情報工学科 / 工学研究科電気工学専攻、電子工学専攻、情報・通信工学専攻	4月17日 (4月10日)	3月31日~4月16日 (0日間)
	⑩工学部環境土木・建築学科環境土木工学コース (2~3年生)	4月17日 (4月10日)	4月3日~4月22日 (注5) (0日間)

	工学部化学生命工学科、マテリアル工学科、機械・航空宇宙工学科、エネルギー理工学科、環境土木・建築学科環境土木工学コース(1、4年生)、環境土木建築学科建築学コース/工学研究科有機・高分子化学専攻、応用物質化学専攻、生命分子工学専攻、材料デザイン工学専攻、物質プロセス工学専攻、化学システム工学専攻、機械システム工学専攻、マイクロ・ナノ機械理工学専攻、航空宇宙工学専攻、エネルギー理工学専攻、総合エネルギー工学専攻、土木工学専攻	4月17日 (4月10日)	—
	⑪農学部(1年生)(注9)	4月17日 (4月10日)	4月3日 (13日間) 4月18日~4月19日 (注5)(0日間)
	⑫農学部(1~4年生)/生命農学研究科(注9)	4月17日 (4月10日)	4月18日~4月19日 (注5)(0日間)
	⑬国際開発研究科	4月17日 (4月10日)	4月17日~4月20日 (注5)(0日間)
	環境学研究科	4月17日 (4月10日)	—
	創薬科学研究科	4月17日 (4月10日)	—
愛知教育大学	①全学	5月7日 (4月8日)	4月10日~4月15日 (21日間)
名古屋工業大学	全学	5月14日 (4月7日)	—
	①工学部情報工学科、創造工学教育課程情報・社会コース(2~3年生)	5月14日 (4月7日)	4月20日~4月24日 5月8日~5月14日 (注5)(0日間)
	工学部(上記を除く)/工学研究科	5月14日	—
豊橋技術科学大学	全学	5月11日 (4月8日)	—
	①工学部(1~3年生)	5月11日 (4月8日)	4月9日~4月13日 (27日間)
	工学部(4年生)/工学研究科	5月11日 (4月8日)	—
三重大学	全学	— (4月10日)	—
	医学部	4月17日 (4月10日)	—
	工学部/工学研究科	4月17日 (4月10日)	—
	①生物資源学部/生物資源学研究科	4月17日 (4月10日)	4月15日~4月17日 (注)5(0日間)
	②地域イノベーション学研究科	4月17日 (4月10日)	4月17日 (注5)(0日間)
	医学系研究科	4月20日 (4月10日)	—
	③人文学部(2~4年生)/人文社会科学研究科(2年生)	5月14日 (4月10日)	4月7日~4月10日 (33日間)
④人文学部(1年生)/人文社会	5月14日	4月8日~4月15日	

	科学研究科(1年生)	(4月10日)	(28日間)
	⑤教育学部(2～4年生)／教育学研究科(2年生)	5月14日 (4月10日)	3月27日～4月3日 (40日間)
	⑥教育学部(1年生)／教育学研究科(1年生)	5月14日 (4月10日)	3月25日～4月3日 (40日間)
	教養教育院	5月15日 (4月10日)	—

(注)1 当局の調査結果による。

- 2 「学部・研究科等名」欄に(1年生)等の記載がない場合は、当該学部・研究科の全学年
また、「学部・研究科等名」欄の○付き数字は、情報通信機器の保有状況等調査を実施した学部・研究科等に付しており、各大学の学部研究科等において一緒に実施した調査は、同一の数字としている。なお、○付き数字は、後述の図表3-⑥、⑦及び⑩におけるものと共通である。
- 3 岐阜大学は、一部学部学科・研究科で先行して授業を開始しているものの、大学ホームページで、遠隔授業の開始日を5月7日と周知していることや多くの学部・研究科が5月7日から授業を開始していることから、大学全体の遠隔授業開始日を5月7日とした。
- 4 岐阜大学応用生物科学部共同獣医学科は、鳥取大学との共同教育課程であり、先行して遠隔授業を開始しているが、情報通信機器の保有状況等調査は、応用生物科学部応用生命科学課程、生産環境科学課程、自然科学技術研究科生命科学・化学専攻及び生物生産環境科学専攻と一緒に実施している。
- 5 遠隔授業開始日と同日、または遠隔授業開始日以降に情報通信機器の保有状況等調査を終了している場合、調査終了から授業開始までの間の期間を0日間として整理した。
- 6 静岡大学農学部(1年生)に対する情報通信機器の保有状況等調査は、複数の教員がメール、電話などで調査しており、実施月日の詳細は不明。そのため、「(調査終了から授業開始までの間の期間)」は不明として整理した。
- 7 名古屋大学理学部、理学研究科及び多元数理科学研究科は、情報通信機器の保有状況等調査と一緒に実施している。また、工学部物理工学科、工学研究科応用物理学専攻及び物質科学専攻も、情報通信機器の保有状況等調査と一緒に実施している。
- 8 名古屋大学工学部物理工学科、工学研究科応用物理学専攻及び物質科学専攻は、情報通信機器の保有状況等調査と一緒に実施しているが、工学部物理工学科(2年生)のみ、調査方法が異なっている。
- 9 名古屋大学農学部の1年生は、2つの情報通信機器の保有状況等調査を実施しており、そのうちの1つは、農学部の2～4年生及び生命農学研究科と一緒に実施している。

図表 3-⑥ 各大学における情報通信機器の保有状況等調査の実施状況 (単位：人、%)

大学名	情報通信機器の保有状況等調査を実施した学部・研究科等名	調査の実施方法	個人の特定の有無	調査対象者数	回答者数	回答率
岐阜大学	①全学	ウェブフォーム	無	7,330	2,160	29.5
	②応用生物科学部共同獣医学科、応用生命科学課程、生産環境科学課程／自然科学技術研究科生命科学・化学専攻、生物生産環境科学専攻	学内システム	有	1,109	1,056	95.2
	③教育学部／教育学研究科	学内システム	有	1,200	1,095	91.3
静岡大学	①人文社会科学部／人文社会科学研究科	学内システム	有	1,947	1,042	53.5
	②教育学部／教育学研究科	ウェブフォーム	有	1,355	746	55.1
	③情報学部／総合科学技術研究科情報学専攻	ウェブフォーム	有	1,207	612	50.7
	④理学部数学科、化学科、地球科学科、物理科(2～4年生)、創造理学コース(2～4年生)／総合科学技術研究科理学専攻	学内システム	有	897	714	79.6
	⑤理学部物理科(1年生)	学内システム	有	49	39	79.6
	⑥理学部創造理学コース(1年生)	学内システム	有	25	21	84.0
	⑦理学部生物科学科(1年生)	学内システム	有	45	44	97.8
	⑧理学部生物科学科(2～4年生)	学内システム	有	157	145	92.4
	⑨農学部(1年生)	メール、電話など	有	183	183	100
	⑩農学部(2～3年生)	学内システム	有	386	319	82.6
	⑪地域創造学環	学内システム	有	202	163	80.7
浜松医科大学	①医学部	学内システム	有	792	712	89.9
名古屋大学	①全学	学内システム	有	14,920	6,069	40.7
	②教育学部／教育学研究科	ウェブフォーム	無	559	269	48.1
	③情報学部／情報学研究科	ウェブフォーム	無	993	429	43.2
	④理学部／理学研究科；多元数	ウェブフォーム	有	1,951	998	51.2

	理科学研究科					
	⑤医学部医学科	学内システム	有	681	680	99.9
	⑥医学系研究科 医科学専攻	ウェブフォーム	有	14	11	78.6
	⑦工学部物理工 学科(1、3、4年 生)／工学研究 科応用物理学専 攻、物質科学専 攻	紙媒体	有	397	301	75.8
	⑧工学部物理工 学科(2年生)	紙媒体、ウェブ フォームの併用	有	91	68	74.7
	⑨工学部電気電 子情報工学科／ 工学研究科電気 工学専攻、電子 工学専攻、情報・ 通信工学専攻	ウェブフォーム	無	851	504	59.8
	⑩工学部環境土 木・建築学科環 境土木工学コー ス(2～3年生)	学内システム	有	87	87	100
	⑪農学部(1年 生)	面談	有	179	179	100
	⑫農学部(1～4 年生)／生命農 学研究科	ウェブフォーム	有	1,033	1,024	99.1
	⑬国際開発研究 科	ウェブフォーム	有	177	132	74.6
愛知教育大学	①全学	学内システム	有	4,073	1,854	45.5
名古屋工業大学	①工学部情報工 学科、創造工学 教育課程情報・ 社会コース(2～ 3年生)	ウェブフォーム	有	360	325	90.3
豊橋技術科学大学	①工学部(1～3 年生)	学内システム	有	690	416	60.3
三重大学	①生物資源学部 ／生物資源学研 究科	学内システム	有	1,295	1,105	85.3
	②地域イノベー ション学研究科	メール	有	54	40	74.1
	③人文学部(2～ 4年生)／人文 社会科学研究科 (2年生)	学内システム	有	918	777	84.6
	④人文学部(1 年生)／人文社 会科学研究科(1 年生)	学内システム	有	274	274	100
	⑤教育学部(2～ 4年生)／教育 学研究科(2年 生)	学内システム	有	629	629	100
	⑥教育学部(1 年生)／教育学 研究科(1年生)	紙媒体	有	271	271	100

(注)1 当局の調査結果による。

2 「情報通信機器の保有状況等調査を実施した学部・研究科等名」欄に(1年生)等の記載がない場

- 合は、当該学部・研究科の全学年
- 3 「情報通信機器の保有状況等調査を実施した学部・研究科等名」欄の○付き数字は、前述の図表 3-⑤、後述の図表 3-⑦及び⑩におけるものと共通である。

図表 3-⑦

各大学における情報通信機器の保有状況等調査

(単位：項目)

のうち情報通信機器に係る調査の実施状況

大学名	情報通信機器の保有状況等調査を実施した学部・研究科等名	全調査等項目数	うち保有情報通信機器の状況			
			機器の種類	機器のOS	カメラ・マイク等	その他
岐阜大学	①全学	7	1	0	0	0
	②応用生物科学部共同獣医学科、応用生命科学課程、生産環境科学課程／自然科学技術研究科生命科学・化学専攻、生物生産環境科学専攻	7	1	2	1	1 (注4)
	③教育学部／教育学研究科	6	1	0	1	0
静岡大学	①人文社会科学部／人文社会科学研究科	6	1	0	(1) (注5)	0
	②教育学部／教育学研究科	7	1	0	0	0
	③情報学部／総合科学技術研究科情報学専攻	14	0	0	1	3
	④理学部数学科、化学科、地球科学科、物理科(2～4年生)、創造理学コース(2～4年生)／総合科学技術研究科理学専攻	4	1	0	0	1 (注4)
	⑤理学部物理科(1年生)	4	(1) (注6)	0	0	0
	⑥理学部創造理学コース(1年生)	6	2	(1) (注7)	0	0
	⑦理学部生物科学科(1年生)	6	2	(1) (注7)	0	0
	⑧理学部生物科学科(2～4年生)	6	2	(1) (注7)	0	0
	⑨農学部(1年生)	不明 (注8)	不明 (注8)	不明 (注8)	不明 (注8)	不明 (注8)
	⑩農学部(2～3年生)	3	1	0	0	1 (注4)
	⑪地域創造学環	10	2	0	0	0
浜松医科大学	①医学部	4	0	0	0	0
名古屋大学	①全学	38	1	(1) (注7)	0	0

	②教育学部／教育学研究科	5	0	0	1	0
	③情報学部／情報学研究科	2	0	0	0	0
	④理学部／理学研究科；多元数理科学研究科	9	1	0	2	0
	⑤医学部医学科	6	0	0	2	1 (注9)
	⑥医学系研究科 医科学専攻	14	1	0	0	0
	⑦工学部物理工学科(1、3、4年生)／工学研究科応用物理学専攻、物質科学専攻	7	1	1	0	0
	⑧工学部物理工学科(2年生)	7	1	1	0	0
	⑨工学部電気電子情報工学科／工学研究科電気工学専攻、電子工学専攻、情報・通信工学専攻	4	1	0	0	0
	⑩工学部環境土木・建築学科環境土木工学コース(2～3年生)	2	0	0	0	(1) (注10)
	⑪農学部(1年生)	2	0	0	0	1 (注9)
	⑫農学部(1～4年生)／生命農学研究科	9	1	0	0	0
	⑬国際開発研究科	3	0	0	1	0
愛知教育大学	①全学	2	0	0	0	0
名古屋工業大学	①工学部情報工学科、創造工学教育課程情報・社会コース(2～3年生)	21	1	1	1	4 (注11)
豊橋技術科学大学	①工学部(1～3年生)	4	1	(1) (注7)	0	1 (注9)
三重大学	①生物資源学部／生物資源学研究科	5	0	0	0	0
	②地域イノベーション学研究科	5	0	0	0	1 (注12)
	③人文学部(2～4年生)／人文科学研究科(2年生)	3	1	0	0	0
	④人文学部(1	4	1	0	0	0

	年生)／人文社会科学研究所(1年生)					
	⑤教育学部(2～4年生)／教育学研究所(2年生)	3	1	0	1	0
	⑥教育学部(1年生)／教育学研究所(1年生)	3	1	0	1	0

(注)1 当局の調査結果による。

- 2 情報通信機器の保有状況等調査を実施した学部・研究科等名」欄の○付き数字は、前述の図表 3-⑤及び⑥、後述の図表 3-⑪におけるものと共通である。
- 3 「機器のOS」、「カメラ・マイク等」について調査を実施しているものに、網掛けを付した。
- 4 ①岐阜大学応用生物科学部共同獣医学科、応用生命科学課程、生産環境科学課程、自然科学研究科生命科学・化学専攻及び生物生産環境科学専攻が実施したその他の調査項目は、新版の各種ソフトのパッケージサービスのインストールの有無、②静岡大学理学部数学科、化学科、地球科学科、物理科(2～4年生)、創造理学コース(2～4年生)、総合科学技術研究科理学専攻及び農学部(2～3年生)が実施したその他の調査項目は、旧版の各種ソフトのパッケージサービスのインストールの有無
- 5 静岡大学人文社会科学部及び人文社会科学研究所のカメラ、マイク等の調査項目は、機器の種類に合わせて実施
- 6 静岡大学理学部物理科(1年生)の機器の種類等の調査項目は、インターネット環境等の種類(制限区分無)に合わせて実施
- 7 静岡大学理学部創造理学コース(1年生)、理学部生物科学科(1年生)、理学部生物科学科(2～4年生)、名古屋大学全学及び豊橋技術科学大学工学部(1～3年生)の機器のOSの調査項目は、機器の種類に合わせて実施
- 8 静岡大学農学部(1年生)の調査項目は、主として、PC等の情報通信機器の保持の有無とその種類及び自宅・下宿先のインターネット環境であるが、i) 教員により調査項目が異なること、ii) 調査結果は、各教員で把握しており、集計した結果は作成していないことから、不明として整理した。
- 9 名古屋大学医学部医学科、農学部(1年生)及び豊橋技術科学大学工学部(1～3年生)が実施したその他の調査項目は、遠隔授業が受講できる情報通信機器の保有の有無や購入予定について
- 10 名古屋大学工学部環境土木・建築学科環境土木工学コース(2～3年生)が実施したその他の調査項目は、PC等の端末とインターネット環境の調査であるが、通信料を気にせずインターネットが使える環境が整っているか、環境が整っていないかについて質問しているため、保有情報通信機器の状況については、()書きとした。
- 11 名古屋工業大学工学部情報工学科及び創造工学教育課程情報・社会コース(2～3年生)が実施したその他の調査項目は、機器のCPU、メモリのベンダー及び種類等、資料と映像が同時に参照できる機器があるか等
- 12 三重大学地域イノベーション学研究科が実施したその他の調査項目は、スライド作成ソフトが使用できるPC、タブレット端末でウェブ会議システムに参加できるか。

図表 3-⑧

令和 2 (2020) 年度入学者に示した PC の仕様等

大学名	PC 必携化	PC の仕様等											
岐阜大学	×	—											
静岡大学	△ (注2)	<p>工学部機械工学科・工学部電気電子工学科</p> <p>① 工学部推奨ノートパソコン (OS:Windows10 Home64bit、CPU:Intel Corei7-8565U(1.8GHz)、記憶装置:256GBSSD、メモリ:8GB(最大 8GB)、重量:0.934 kg、バッテリー:約 15.5 時間、画面サイズ:13.3 型 FullHD(タッチ対応)、無線 LAN:IEEE802.11 a/b/g/n/ac 準拠)</p> <p>② 1 の推奨機種を参考に同程度 (以上) の性能の機種を購入してください。</p> <p>③ 既に自分用のノートパソコンを所有している場合、OS が Windows7 (以前) は学内で使用できない (Windows8.1 は、在学期間中の 2023 年 1 月に延長サポートが終了) ので、Windows10 を使用 (推奨)</p> <p>④ Microsoft Office は、大学ライセンスの Office365Pro Plus を無料で利用できる (個人で) 購入する必要なし</p> <p>工学部電子物質科学科・工学部化学バイオ工学科</p> <p>《必要な仕様 (必須項目)》</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ノートパソコン (持ち運び可能) であること ◎OS として、日本語版のウインドウズ (8.1 以上) が使用できること ◎ネットワーク (LAN) 端子、あるいは無線 LAN を装備すること ◎ウイルス対策ソフトを 4 年間 (在学期間中) 更新使用すること <p>《新規購入の際に目安となる仕様》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロセッサ (CPU) : Core-i5 (7) (1.8 ギガヘルツ以上) ・実装メモリ : 4 (8) GB 以上 ・OS : 日本語版ウインドウズ 10 (8, 8.1 でも可) ・ハードディスクなどの記憶容量 : 250GB 以上、SSD でも可 (ハードディスク 500GB・あるいは SSD256GB) <p>《その他》</p> <p>Microsoft Office の購入の必要なし</p> <p>工学部システム工学科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メインメモリは 8GB 以上であること ・有線 LAN 及び無線 LAN に接続可能であり、ネットワークケーブルを有すること ・ウイルス対策ソフトを有すること (在学中は常に有効である必要あり) ・Microsoft Office は、静岡大学のライセンスが使用できるので必要なし <p>情報学部</p> <p>推奨機種を示しているが、仕様等についての明示なし</p>											
浜松医科大学	△ (注2)	<p>持ち運びが可能なノートパソコン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・OS は Microsoft Windows10 が望ましい。 ・無線 LAN 接続機能があること ・Microsoft Word、Excel、PowerPoint がインストールされていること ・ウイルス対策ソフトをインストールしていること 											
名古屋大学	×	—											
愛知教育大学	○	<p>1. 必須の仕様</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td rowspan="3">本体</td> <td>形状</td> <td>軽量の 2in1 パソコン(2in1 タブレット) ただし、既に所有しているならノートパソコン等も可</td> </tr> <tr> <td>ネットワーク</td> <td>無線 LAN IEEE802.11 a/b/g/n/ac 以上を内蔵 有線 LAN ポートを備える。内蔵でない場合は、別途本体に接続できる有線 LAN アダプタを用意すること</td> </tr> <tr> <td>OS</td> <td>Windows10 (64bit) また本体等を Mac 等とすることも可能であるが、BootCamp 等を用いて、Windows10 (64bit) が使用できるようにすること</td> </tr> <tr> <td>キーボード</td> <td>JIS 配列</td> </tr> <tr> <td>LAN ケーブル</td> <td>カテゴリ 5e 以上のストレートケーブル (0.5m 以上)</td> </tr> </tbody> </table> <p>2. 推奨の仕様</p>	本体	形状	軽量の 2in1 パソコン(2in1 タブレット) ただし、既に所有しているならノートパソコン等も可	ネットワーク	無線 LAN IEEE802.11 a/b/g/n/ac 以上を内蔵 有線 LAN ポートを備える。内蔵でない場合は、別途本体に接続できる有線 LAN アダプタを用意すること	OS	Windows10 (64bit) また本体等を Mac 等とすることも可能であるが、BootCamp 等を用いて、Windows10 (64bit) が使用できるようにすること	キーボード	JIS 配列	LAN ケーブル	カテゴリ 5e 以上のストレートケーブル (0.5m 以上)
本体	形状	軽量の 2in1 パソコン(2in1 タブレット) ただし、既に所有しているならノートパソコン等も可											
	ネットワーク	無線 LAN IEEE802.11 a/b/g/n/ac 以上を内蔵 有線 LAN ポートを備える。内蔵でない場合は、別途本体に接続できる有線 LAN アダプタを用意すること											
	OS	Windows10 (64bit) また本体等を Mac 等とすることも可能であるが、BootCamp 等を用いて、Windows10 (64bit) が使用できるようにすること											
キーボード	JIS 配列												
LAN ケーブル	カテゴリ 5e 以上のストレートケーブル (0.5m 以上)												

		<table border="1"> <tr> <td>大きさ・重さ等</td> <td>幅 297mm×奥行 210mm 以下、なるべく薄いこと タブレット部で 0.8 kg以下、キーボードと併せて 1.5 kg以下、なるべく軽いこと</td> </tr> <tr> <td>CPU</td> <td>インテル Pentium Goldまたは同等以上 Pentium Silver、Celeron、Atomは推奨しない</td> </tr> <tr> <td>メモリ</td> <td>最低 4GB、推奨 8GB 以上</td> </tr> <tr> <td>画面</td> <td>10 インチ以上のタッチパネル、解像度 1800×1200 以上</td> </tr> <tr> <td>カメラ等</td> <td>内蔵カメラ、内蔵スピーカー</td> </tr> <tr> <td>ストレージ</td> <td>128GB 以上の SSD、</td> </tr> <tr> <td>外部端子等</td> <td>1 つ以上の USB (Type-C が望ましい)</td> </tr> <tr> <td>ウイルス対策ソフト</td> <td>Windows Defender 等</td> </tr> <tr> <td>保障</td> <td>3 年又は 4 年以上の保障又は保険があることが望ましい。パソコンの修理等に大学は対応しない。 万一故障した際には、授業等に支障がないよう、代替機等が用意できることが望ましい。</td> </tr> </table> <p>3. 包括ライセンスによる Office について 最新の Microsoft Office (Word, Excel, PowerPoint) アプリケーション (Windows) が必要 (Office Online は不可)。Office365 または Office365 または office2019 (Office Personal には PowerPoint が含まれないので不可) を用意すること。 なお、本学の包括ライセンスにより、在学中の学生は Office 365 ProPlus が利用できるもので、必ずしも購入の必要はない。「セットアップ講座」等により、所定の手順であらかじめセットアップを行うこと。</p> <p>4. その他のソフトウェア (アプリ) について 以下の 2 つのソフトウェア (アプリ) を使用するもので、セットアップ講座等により、セットアップをすること。 Adobe Acrobat Reader DC (無料) 等の PDF リーダー、ビューアーを使用します。 ロイロイ社の授業支援アプリ「ロイロイノート・スクール」(無料) を使用します。</p>	大きさ・重さ等	幅 297mm×奥行 210mm 以下、なるべく薄いこと タブレット部で 0.8 kg以下、キーボードと併せて 1.5 kg以下、なるべく軽いこと	CPU	インテル Pentium Goldまたは同等以上 Pentium Silver、Celeron、Atomは推奨しない	メモリ	最低 4GB、推奨 8GB 以上	画面	10 インチ以上のタッチパネル、解像度 1800×1200 以上	カメラ等	内蔵カメラ、内蔵スピーカー	ストレージ	128GB 以上の SSD、	外部端子等	1 つ以上の USB (Type-C が望ましい)	ウイルス対策ソフト	Windows Defender 等	保障	3 年又は 4 年以上の保障又は保険があることが望ましい。パソコンの修理等に大学は対応しない。 万一故障した際には、授業等に支障がないよう、代替機等が用意できることが望ましい。
大きさ・重さ等	幅 297mm×奥行 210mm 以下、なるべく薄いこと タブレット部で 0.8 kg以下、キーボードと併せて 1.5 kg以下、なるべく軽いこと																			
CPU	インテル Pentium Goldまたは同等以上 Pentium Silver、Celeron、Atomは推奨しない																			
メモリ	最低 4GB、推奨 8GB 以上																			
画面	10 インチ以上のタッチパネル、解像度 1800×1200 以上																			
カメラ等	内蔵カメラ、内蔵スピーカー																			
ストレージ	128GB 以上の SSD、																			
外部端子等	1 つ以上の USB (Type-C が望ましい)																			
ウイルス対策ソフト	Windows Defender 等																			
保障	3 年又は 4 年以上の保障又は保険があることが望ましい。パソコンの修理等に大学は対応しない。 万一故障した際には、授業等に支障がないよう、代替機等が用意できることが望ましい。																			
名古屋工業大学	×	—																		
豊橋技術科学大学	×	—																		

三重大学	○	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="526 163 619 566">人文学部</td> <td colspan="2" data-bbox="619 163 1428 566"> <ul style="list-style-type: none"> 画面サイズは 11~14 インチを推奨する。(携帯性を重視する場合はキーボードを含めた本体重量 1.2kg 前後を推奨する) Windows 10 または macOS Catalina を推奨する。 4GB 以上のメモリを搭載すること。 SSD は高速かつ耐振動性に優れているため、120GB 以上の SSD を強く推奨する。 IEEE802.11a/b/g/n 対応を推奨する。 バッテリー駆動時間がカタログ値で 8 時間以上であること。 CPU は Intel Core シリーズ (第 4 世代以降) を推奨する。 キーボードを着脱できる機種 (いわゆる 2-in-1) を含む。 Windows のウイルス対策ソフトは OS 標準の Windows Defender も可 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="526 566 619 1104">教育学部</td> <td colspan="2" data-bbox="619 566 1428 1104"> <table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="619 611 758 645">区分</th> <th data-bbox="758 611 1077 645">基本要件</th> <th data-bbox="1077 611 1428 645">推奨要件</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="619 645 758 678">形状</td> <td data-bbox="758 645 1077 678">ハードウェアキーボードを備え、持ち運びが容易であること</td> <td data-bbox="1077 645 1428 678"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="619 678 758 712">CPU</td> <td data-bbox="758 678 1077 712">Microsoft Office2016 とウイルス対策ソフトが快適に動作すること</td> <td data-bbox="1077 678 1428 712"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="619 712 758 745">メモ</td> <td data-bbox="758 712 1077 745">指定なし</td> <td data-bbox="1077 712 1428 745">4GB 以上</td> </tr> <tr> <td data-bbox="619 745 758 779">ストレージ</td> <td data-bbox="758 745 1077 779">容量が 120GB 以上であること</td> <td data-bbox="1077 745 1428 779">容量が 120GB 以上の SSD</td> </tr> <tr> <td data-bbox="619 779 758 813">画面サイズ</td> <td data-bbox="758 779 1077 813">指定なし</td> <td data-bbox="1077 779 1428 813">11~14 インチ</td> </tr> <tr> <td data-bbox="619 813 758 846">重量</td> <td data-bbox="758 813 1077 846">携帯可能なこと</td> <td data-bbox="1077 813 1428 846">1.2 kg 前後以下</td> </tr> <tr> <td data-bbox="619 846 758 958">LAN</td> <td data-bbox="758 846 1077 958">Wi-Fi ネットワークに接続でき、IEEE802.11a に対応していること</td> <td data-bbox="1077 846 1428 958">IEEE802.11a/b/g/n 対応</td> </tr> <tr> <td data-bbox="619 958 758 992">電源</td> <td colspan="2" data-bbox="758 958 1428 992">バッテリー駆動時間がカタログ値で 8 時間以上であること</td> </tr> <tr> <td data-bbox="619 992 758 1104">OS</td> <td data-bbox="758 992 1077 1104">Windows (8.1 以降) または MacOS</td> <td data-bbox="1077 992 1428 1104">Windows10 または MacOS Catalina</td> </tr> </tbody> </table> </td> </tr> </table>	人文学部	<ul style="list-style-type: none"> 画面サイズは 11~14 インチを推奨する。(携帯性を重視する場合はキーボードを含めた本体重量 1.2kg 前後を推奨する) Windows 10 または macOS Catalina を推奨する。 4GB 以上のメモリを搭載すること。 SSD は高速かつ耐振動性に優れているため、120GB 以上の SSD を強く推奨する。 IEEE802.11a/b/g/n 対応を推奨する。 バッテリー駆動時間がカタログ値で 8 時間以上であること。 CPU は Intel Core シリーズ (第 4 世代以降) を推奨する。 キーボードを着脱できる機種 (いわゆる 2-in-1) を含む。 Windows のウイルス対策ソフトは OS 標準の Windows Defender も可 		教育学部	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="619 611 758 645">区分</th> <th data-bbox="758 611 1077 645">基本要件</th> <th data-bbox="1077 611 1428 645">推奨要件</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="619 645 758 678">形状</td> <td data-bbox="758 645 1077 678">ハードウェアキーボードを備え、持ち運びが容易であること</td> <td data-bbox="1077 645 1428 678"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="619 678 758 712">CPU</td> <td data-bbox="758 678 1077 712">Microsoft Office2016 とウイルス対策ソフトが快適に動作すること</td> <td data-bbox="1077 678 1428 712"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="619 712 758 745">メモ</td> <td data-bbox="758 712 1077 745">指定なし</td> <td data-bbox="1077 712 1428 745">4GB 以上</td> </tr> <tr> <td data-bbox="619 745 758 779">ストレージ</td> <td data-bbox="758 745 1077 779">容量が 120GB 以上であること</td> <td data-bbox="1077 745 1428 779">容量が 120GB 以上の SSD</td> </tr> <tr> <td data-bbox="619 779 758 813">画面サイズ</td> <td data-bbox="758 779 1077 813">指定なし</td> <td data-bbox="1077 779 1428 813">11~14 インチ</td> </tr> <tr> <td data-bbox="619 813 758 846">重量</td> <td data-bbox="758 813 1077 846">携帯可能なこと</td> <td data-bbox="1077 813 1428 846">1.2 kg 前後以下</td> </tr> <tr> <td data-bbox="619 846 758 958">LAN</td> <td data-bbox="758 846 1077 958">Wi-Fi ネットワークに接続でき、IEEE802.11a に対応していること</td> <td data-bbox="1077 846 1428 958">IEEE802.11a/b/g/n 対応</td> </tr> <tr> <td data-bbox="619 958 758 992">電源</td> <td colspan="2" data-bbox="758 958 1428 992">バッテリー駆動時間がカタログ値で 8 時間以上であること</td> </tr> <tr> <td data-bbox="619 992 758 1104">OS</td> <td data-bbox="758 992 1077 1104">Windows (8.1 以降) または MacOS</td> <td data-bbox="1077 992 1428 1104">Windows10 または MacOS Catalina</td> </tr> </tbody> </table>		区分	基本要件	推奨要件	形状	ハードウェアキーボードを備え、持ち運びが容易であること		CPU	Microsoft Office2016 とウイルス対策ソフトが快適に動作すること		メモ	指定なし	4GB 以上	ストレージ	容量が 120GB 以上であること	容量が 120GB 以上の SSD	画面サイズ	指定なし	11~14 インチ	重量	携帯可能なこと	1.2 kg 前後以下	LAN	Wi-Fi ネットワークに接続でき、IEEE802.11a に対応していること	IEEE802.11a/b/g/n 対応	電源	バッテリー駆動時間がカタログ値で 8 時間以上であること		OS	Windows (8.1 以降) または MacOS	Windows10 または MacOS Catalina
人文学部	<ul style="list-style-type: none"> 画面サイズは 11~14 インチを推奨する。(携帯性を重視する場合はキーボードを含めた本体重量 1.2kg 前後を推奨する) Windows 10 または macOS Catalina を推奨する。 4GB 以上のメモリを搭載すること。 SSD は高速かつ耐振動性に優れているため、120GB 以上の SSD を強く推奨する。 IEEE802.11a/b/g/n 対応を推奨する。 バッテリー駆動時間がカタログ値で 8 時間以上であること。 CPU は Intel Core シリーズ (第 4 世代以降) を推奨する。 キーボードを着脱できる機種 (いわゆる 2-in-1) を含む。 Windows のウイルス対策ソフトは OS 標準の Windows Defender も可 																																					
教育学部	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="619 611 758 645">区分</th> <th data-bbox="758 611 1077 645">基本要件</th> <th data-bbox="1077 611 1428 645">推奨要件</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="619 645 758 678">形状</td> <td data-bbox="758 645 1077 678">ハードウェアキーボードを備え、持ち運びが容易であること</td> <td data-bbox="1077 645 1428 678"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="619 678 758 712">CPU</td> <td data-bbox="758 678 1077 712">Microsoft Office2016 とウイルス対策ソフトが快適に動作すること</td> <td data-bbox="1077 678 1428 712"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="619 712 758 745">メモ</td> <td data-bbox="758 712 1077 745">指定なし</td> <td data-bbox="1077 712 1428 745">4GB 以上</td> </tr> <tr> <td data-bbox="619 745 758 779">ストレージ</td> <td data-bbox="758 745 1077 779">容量が 120GB 以上であること</td> <td data-bbox="1077 745 1428 779">容量が 120GB 以上の SSD</td> </tr> <tr> <td data-bbox="619 779 758 813">画面サイズ</td> <td data-bbox="758 779 1077 813">指定なし</td> <td data-bbox="1077 779 1428 813">11~14 インチ</td> </tr> <tr> <td data-bbox="619 813 758 846">重量</td> <td data-bbox="758 813 1077 846">携帯可能なこと</td> <td data-bbox="1077 813 1428 846">1.2 kg 前後以下</td> </tr> <tr> <td data-bbox="619 846 758 958">LAN</td> <td data-bbox="758 846 1077 958">Wi-Fi ネットワークに接続でき、IEEE802.11a に対応していること</td> <td data-bbox="1077 846 1428 958">IEEE802.11a/b/g/n 対応</td> </tr> <tr> <td data-bbox="619 958 758 992">電源</td> <td colspan="2" data-bbox="758 958 1428 992">バッテリー駆動時間がカタログ値で 8 時間以上であること</td> </tr> <tr> <td data-bbox="619 992 758 1104">OS</td> <td data-bbox="758 992 1077 1104">Windows (8.1 以降) または MacOS</td> <td data-bbox="1077 992 1428 1104">Windows10 または MacOS Catalina</td> </tr> </tbody> </table>		区分	基本要件	推奨要件	形状	ハードウェアキーボードを備え、持ち運びが容易であること		CPU	Microsoft Office2016 とウイルス対策ソフトが快適に動作すること		メモ	指定なし	4GB 以上	ストレージ	容量が 120GB 以上であること	容量が 120GB 以上の SSD	画面サイズ	指定なし	11~14 インチ	重量	携帯可能なこと	1.2 kg 前後以下	LAN	Wi-Fi ネットワークに接続でき、IEEE802.11a に対応していること	IEEE802.11a/b/g/n 対応	電源	バッテリー駆動時間がカタログ値で 8 時間以上であること		OS	Windows (8.1 以降) または MacOS	Windows10 または MacOS Catalina						
区分	基本要件	推奨要件																																				
形状	ハードウェアキーボードを備え、持ち運びが容易であること																																					
CPU	Microsoft Office2016 とウイルス対策ソフトが快適に動作すること																																					
メモ	指定なし	4GB 以上																																				
ストレージ	容量が 120GB 以上であること	容量が 120GB 以上の SSD																																				
画面サイズ	指定なし	11~14 インチ																																				
重量	携帯可能なこと	1.2 kg 前後以下																																				
LAN	Wi-Fi ネットワークに接続でき、IEEE802.11a に対応していること	IEEE802.11a/b/g/n 対応																																				
電源	バッテリー駆動時間がカタログ値で 8 時間以上であること																																					
OS	Windows (8.1 以降) または MacOS	Windows10 または MacOS Catalina																																				

医学部	区分	基本スペック	推奨スペック
	形状	ハードウェアキーボードを備え（キーボードを着脱できる機種（いわゆる2-in-1を含む）、持ち運びが容易であること。	
	ディスプレイ	指定なし	11～14 ｲﾝﾁ
	本体重量	キーボードを含め、目安として1.5 kg以下	携帯性を重視する場合はキーボードを含め1.2 kg程度以下
	OS	Windows8.1 以上または Mac (授業は基本的に Windows を基準に行うため、Mac を利用する場合は Windows との差異に自己で対応できること。不安がある場合は Windows を推奨する。また、Windows8.1 では授業で示す操作と異なる場合があるため、Windows10 にすることを推奨します。もしそれ以前の PC しかないという場合、動作保証はできませんが入学後に無償で Windows10 にアップグレードすることは可能です。)	Windows10 または macOS Catalina
	CPU	Microsoft Office2016 とウイルス対策ソフトが快適に動作すること (Windows のウイルス対策ソフトはOS 標準の Windows Defender も可)	Intel Core シリーズ (第7世代以降) を推奨
	メモリ	4GB 以上のメモリを搭載すること	8GB 以上のメモリを搭載すること
	ストレージ	ストレージ容量が SSD120GB 以上であること (SSD は高速かつ耐振動性に優れているため)	240GB 以上の SSD を推奨
	無線 LAN	IEEE802.11a に対応	IEEE802.11a/b/g/n/ac に対応
	光学ドライブ	必須ではない	内蔵される必要はないが、別途でも外付けDVDドライブ等があれば便利
	バッテリー駆動時間	カタログ値で8時間以上	



工学部

【総合工学コース・機械工学コース・電気電子工学コース】

区分	基本スペック	推奨スペック
形状	ハードウェアキーボードを備え、持ち運びが容易であること	
ディスプレイ	指定なし	11～14インチ
OS	Windows8.1以上	Windows10
CPU	Microsoft Office2016 とウイルス対策ソフトが快適に動作すること	Intel Core シリーズ（第4世代以降）相当
メモリ	4GB以上	
ストレージ	120GB以上	SSD120GB以上
無線LAN	IIEEE802.11aに対応	IIEEE802.11a/b/g/nに対応
本体重量	1.5kg以下	携帯性を重視する場合は1.2kg程度以下
バッテリー	駆動時間8時間以上（カタログ値）	
その他		

【応用化学コース】

区分	基本スペック	推奨スペック
形状	ハードウェアキーボードを備え、持ち運びが容易であること	
ディスプレイ	指定なし	11～14インチ
OS	Windows8.1以上または macOS	Windows10 または macOS Mojave
CPU	Microsoft Office2016 とウイルス対策ソフトが快適に動作すること	Intel Core シリーズ（第4世代以降）相当
メモリ	4GB以上	
ストレージ	120GB以上	SSD120GB以上
無線LAN	IIEEE802.11aに対応	IIEEE802.11a/b/g/nに対応
本体重量	1.5kg以下	携帯性を重視する場合は1.2kg程度以下
バッテリー	駆動時間8時間以上（カタログ値）	
その他		

【建築学コース】

区分	基本スペック	推奨スペック
形状	ハードウェアキーボードを備え、持ち運びが容易であること	
ディスプレイ	指定なし	15インチ程度、解像度フルHD以上
OS	Windows8.1以上または macOS	Windows10 または macOS Catalina
CPU	Microsoft Office2019 とウイルス対策ソフトが快適に動作すること	Intel Core i7 (4コア) 相当
メモリ	4GB以上	16GB程度
ストレージ	120GB以上	SSD120GB以上
無線LAN	IIEEE802.11aに対応	IIEEE802.11a/b/g/nに対応
本体重量	指定しない	
バッテリー	駆動時間8時間以上（カタログ値）	
その他		専用ビデオチップ搭載

【情報工学コース】

区分	基本スペック	推奨スペック
形状	ハードウェアキーボードを備え、持ち運びが容易であること	
ディスプレイ	指定なし	11～14インチ
OS	Windows8.1以上または macOS	Windows10 または macOS Mojave
CPU	Microsoft Office2016 とウイルス対策ソフトが快適に動作すること	Intel Core シリーズ（第4世代以降）相当
メモリ	4GB以上	
ストレージ	120GB以上	SSD240GB以上
無線LAN	IIEEE802.11aに対応	IIEEE802.11a/b/g/nに対応

			本体重量	1.5 kg以下	携帯性を重視する場合は1.2 kg程度以下	
			バッテリー	駆動時間 8 時間以上 (カタログ値)		
			その他			
生物資源学部	授業に必要なノート型パソコン性能 ① ソフトウェア使用 (1) インストール OS Microsoft Windows10 64bit を推奨 Microsoft 社のサポート期間が終了していない OS は利用可能です。 ※Windows8.1 は2023年1月10日にMicrosoft社による延長サポートが終了します。 延長サポート期間内は学内で利用できますが、サポート終了前に速やかに新しいOSに移行してください。 (2) インストールソフトウェア・オフィスソフトウェア Microsoft Office 2016 Home and Business 以上を推奨 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 三重大学では Microsoft Office 包括ライセンス契約 (※) を行っており、Office 製品版を新たに購入する必要はありません。 また、新たにパソコンを購入する場合も、Microsoft Office が入っているモデルを買う必要がありません。 ※Office のインストール (導入) にあたっては、大学が発行する「統一アカウント」が必要です。詳しくは三重大学からの案内をご確認ください。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ウイルス対策ソフトウェア <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> Windows8.1 以降は OS 標準搭載の Windows Defender を使用してください。 ※使用しない場合は必ずウイルス対策ソフトをインストールし、対策をしてください。 </div>					
	② ハードウェア性能 (1) メモリ：4GB 以上 (2) LAN：無線 LAN 機能 (IEEE802.11a/b/g/n) を有すること。 (内蔵もしくは外付け) ※電波の混雑状況により、同時接続する人数や教室によっては IEEE802.11g では学内 LAN につながりにくい場合があるため、IEEE802.11a 対応機種を推奨します。					

(注)1 当局の調査結果による。

2 「PC 必携化」欄は、大学全体で必携化を実施している大学に○印を付し、必携化を実施していない大学に×印を付した。

また、静岡大学は、一部学部のみ必携化を実施しており、浜松医科大学は推奨にとどめているため、△印を付した。



図表 3-⑨ 電気通信事業者における学生の遠隔授業等に対する支援の実施状況

適用期間	事業者名 (ブランド名)	対象者	支援内容
4月1日 ～8月31日	(株)インターネットイニシアティブ (IIJmio)	同社の指定する条件を 満たしている25歳以下 の者(手続き不要)	・30GBのデータ量(クーポン)を無償提供
4月3日 ～8月31日	ソフトバンク(株)、(株)ウィル コム沖縄 (ソフトバンク/ワイモバイル)	2020年4月1日時点で 25歳以下の個人 (手続き要。ただし、ワ イモバイルのデザリングオプ ションは手続き不要)	・追加データの購入料金を 最大50GBまで無償化 ・デザリングオプションの利 用料金を無償化
4月1日 ～8月31日	(株)NTTドコモ (ドコモ)	同社の指定するプランを 契約している2020年4 月1日時点で25歳以下 の契約者または利用者 (手続き不要)	・「スピードモード」および 「1GB追加オプション」を、 50GBを上限に無償化 ※ デザリング無料
4月1日 ～8月31日	大分ケーブルテレコム(株)、 (株)ケーブルネット下関、 (株)ジェイコムウエスト、(株) ジェイコム九州、(株)ジェイ コム埼玉・東日本、(株)ジェ イコム札幌、(株)ジェイコム 湘南・神奈川、(株)ジェ イコム千葉、(株)ジェイコム東 京、土浦ケーブルテレビ (株)、横浜ケーブルビジョン (株) (J:COM MOBILE)	同社の指定するプランを 契約している25歳以下 の契約者または利用者 (手続き要)	・追加購入したデータ容 量を月に30GBまで無償 提供 ※ デザリング無料
4月1日 ～8月31日	KDDI(株)、沖縄セルラー電 話(株) (au)	同社の指定するプランを 契約している2020年3 月31日時点で25歳以 下の契約者または登録 利用者 (手続き不要)	・月間データ容量超過後 の50GB分まで および デザリングオプションを無償 化
4月1日 ～8月31日	(株)ワイページ (mineo)	契約者もしくは利用者 登録が2020年4月30 日時点で25歳以下の者 (手続き要)	・パケットチャージを各月最 大10GB分まで無償化
5月1日 ～7月31日	(株)QTnet (QTモバイル)	同社の指定する時点で 25歳以下の契約者 (手続き不要)	・契約プランに応じて、通 信容量を追加(1、3、 6GB:10GB、10～30GB: +10GB)
4月13日 ～4月30日	フレッツネットワークコミュニ ケーションズ (株) (nuroモバイル)	同社の指定するプランを 契約している2020年4 月1日時点で25歳以下 の契約者 (手続き不要)	・1契約ごとに20GB分 のチャージを無償提供 ・一律に付与するデー タ容量は3か月後の末 日まで有効
4月22日	(株)TOKAIコミュニケーションズ	契約者または利用者が	オンライン授業を利用する

～	(LIBMO)	満 24 歳を迎える学校年度 (4/1～翌年 3/31) 末まで適用 (手続き要)	学生を支援する 2 プランを提供 ・「学生支援 30」 30GB プランを 10GB プランと同価格 ・「親子支援 30」 学生だけでなく親子で 30GB プランを SIM カード 2 枚で利用可
4 月 1 日 ～4 月 30 日	ニフティ(株) (NifMo)	2020 年 4 月 1 日時点で 25 歳以下の契約者 (手続き要)	・「データおかわり」を最大 40GB まで無償提供
5 月 1 日 ～8 月 31 日		法人契約を除く全契約者 (手続き要)	・「データおかわり」を各月 50GB まで無償提供
9 月 1 日 ～12 月 31 日		50GB プラン契約者 (手続き要)	・「データおかわり」を各月 100GB まで無償提供
4 月 1 日 ～8 月 31 日	ビッグLOBE(株) (BIGLOBE モバイル)	同社の指定するプランを利用している学生 (25 才以下) (手続き要)	・ホリウムチャージ利用料を最大 20GB 分まで無料
4 月 1 日 ～8 月 31 日	UQ コミュニケーションズ(株) (UQ モバイル)	同社の指定する時点で 25 歳以下の利用者 (手続き要)	・月間データ容量超過後に追加した 30GB までのデータ容量を無償で提供
6 月 1 日 ～	Y.U-mobile(株) (y.u mobile)	2020 年 6 月 1 日時点で 25 歳以下の契約者または追加 SIM 契約者 (手続き要)	・毎月のデータチャージ料金を最大 25GB まで無償化
4 月 8 日 ～	楽天モバイル(株) (楽天モバイル)	契約者すべて (手続き不要)	・パートナー回線エリアのデータ通信容量を月 2GB から 5GB に増量
4 月 22 日 ～			・パートナー回線エリアの通信容量消費後の通信速度を最大 128kbps から 1Mbps に引き上げ
4 月 22 日 ～7 月 31 日	朝日ネット(株) (ANSIM)	同社の指定するプランの利用者 (手続き不要)	・月額利用料を 2,320 円割引

(注)1 事業者は、総務省のホームページで、令和 2 年 7 月 31 日時点において「新型コロナウイルス感染症の影響拡大に伴う学生等の学習に係る通信環境の確保に関する取組状況」を公表しているとされている事業者である。

2 各事業者のホームページに基づき当局が作成した。

図表 3-⑩ 名古屋大学医学部医学科が行った情報通信機器の保有状況等調査において利用できる通信容量として回答した学生の通信容量の状況 (単位：人、%)

5GB まで	20GB まで	容量制限はあるが通信料サポートなどを利用することで 20GB 以上利用可	容量制限なし	その他
6 (0.9)	14 (2.1)	75 (11.0)	576 (84.7)	9 (1.3)

(注)1 当局の調査結果による。

2 () 内は、名古屋大学医学部医学科が行った情報通信機器の保有状況等調査において、利用できる通信容量の状況に対する回答者数 680 人に占める当該容量の学生の比率

図表 3-⑪

各大学における情報通信機器の保有状況等調査の (単位：項目)
うちインターネット環境に係る調査の実施状況

大学名	情報通信機器の保有状況等調査を実施した学部・研究科等名	全調査等項目数	うち自宅・下宿等のインターネット環境				
			種類 (制限 区分 有) (注)2	種類 (制限 区分 無) (注)2	容量	速度	その他
岐阜大学	①全学	7	1	0	0	0	0
	②応用生物科学部 共同獣医学科、応用生命科学課程、生産環境科学課程／自然科学技術研究科生命科学・化学専攻、生物生産環境科学専攻	7	1	0	0	0	1 (注5)
	③教育学部／教育学研究科	6	1	0	1	0	0
静岡大学	①人文社会科学部／人文社会科学研究科	6	1	0	0	0	0
	②教育学部／教育学研究科	7	1	0	0	0	0
	③情報学部／総合科学技術研究科情報学専攻	14	0	1	4	3	0
	④理学部数学科、化学科、地球科学科、物理科(2～4年生)、創造理学コース(2～4年生)／総合科学技術研究科理学専攻	4	2	0	0	0	0
	⑤理学部物理科(1年生)	4	0	1	2	0	0
	⑥理学部創造理学コース(1年生)	6	0	2	0	0	0
	⑦理学部生物科学科(1年生)	6	0	2	0	0	0
	⑧理学部生物科学科(2～4年生)	6	0	2	0	0	0
	⑨農学部(1年生)	不明 (注6)	不明 (注6)	不明 (注6)	不明 (注6)	不明 (注6)	不明 (注6)
	⑩農学部(2～3年生)	3	1	0	0	0	0
	⑪地域創造学環	10	2	0	0	0	0
浜松医科大学	①医学部	4	0	1	0	0	3

							(注7)
名古屋大学	①全学	38	0	1	0	0	2 (注8)
	②教育学部／教育学研究科	5	1	0	0	0	0
	③情報学部／情報学研究科	2	0	1	0	0	1 (注9)
	④理学部／理学研究科；多元数理科学研究科	9	1	0	2	0	0
	⑤医学部医学科	6	0	0	1	0	0
	⑥医学系研究科 医科学専攻	14	1	1	2	2	0
	⑦工学部物理工学科(1、3、4年生)／工学研究科 応用物理学専攻、物質科学専攻	7	0	0	0	0	2 (注10)
	⑧工学部物理工学科(2年生)	7	0	0	0	0	2 (注10)
	⑨工学部電気電子情報工学科／工学研究科 電気工学専攻、電子工学専攻、情報・通信工学専攻	4	0	0	1	0	0
	⑩工学部環境土木・建築学科 環境土木工学コース(2～3年生)	2	0	0	0	0	1 (注11)
	⑪農学部(1年生)	2	0	0	0	0	1 (注11)
	⑫農学部(1～4年生)／生命農学研究科	9	0	0	2	1	0
	⑬国際開発研究科	3	0	0	0	0	1 (注11)
愛知教育大学	①全学	2	1	0	0	0	1 (注11)
名古屋工業大学	①工学部情報工学科、創造工学教育課程情報・社会コース(2～3年生)	21	1	0	0	1	0
豊橋技術科学大学	①工学部(1～3年生)	4	0	1	0	0	1 (注12)
三重大学	①生物資源学部／生物資源学研究科	5	0	0	0	0	2 (注13)
	②地域イノベーション学研究科	5	0	0	0	0	3 (注14)
	③人文学部(2～4年生)／人文社会科学研究科	3	0	0	1	1	0

	(2年生)						
	④人文学部(1年生)／人文社会科学研究所(1年生)	4	0	0	1	1	0
	⑤教育学部(2～4年生)／教育学研究所(2年生)	3	0	0	0	0	1 (注11)
	⑥教育学部(1年生)／教育学研究所(1年生)	3	0	0	0	0	1 (注11)

(注)1 当局の調査結果による。

- 2 「うち自宅・下宿等のインターネット環境 種類」欄において、モバイルルータによる無線回線がある(月や日当たりの使用上限 制限あり、従量制携帯回線パケット接続(上限を超えるととても遅くなる等)など、使用上の制限に関する分類があるものを(制限区分有)として、分類がないものを(制限区分無)として整理した。
- 3 情報通信機器の保有状況等調査を実施した学部・研究科等名」欄の○付き数字は、前述の図表3-⑤の「学部・研究科等名」欄の○付き数字の調査及び図表3-⑥及び⑦の「情報通信機器の保有状況等調査を実施した学部・研究科等名」欄の○付き数字の調査と同一の調査である。
- 4 「容量」について調査を実施しているもののうち、1か月当たりどのくらいの通信容量が使用できるのかを調査しているものに、網掛けを付した。
- 5 岐阜大学応用生物科学部共同獣医学科、応用生命科学課程、生産環境科学課程、自然科学技術研究科生命科学・化学専攻及び生物生産環境科学専攻が実施したその他の調査項目は、主観として遠隔講義が聴講可能かどうか。
- 6 静岡大学農学部(1年生)の調査項目は、主として、PC等の情報通信機器の保持の有無とその種類及び自宅・下宿先のインターネット環境であるが、i) 教員により調査項目が異なること、ii) 調査結果は、各教員で把握しており、集計した結果は作成していないことから、不明として整理した。
- 7 浜松医科大学医学部が実施したその他の調査項目は、自宅等におけるインターネット環境の有無、自宅等での動画視聴等の可否、動画視聴等をする上での何が不足しているか。
- 8 名古屋大学全学が実施したその他の調査項目は、家族と共用のPC・タブレットと回答した学生が使用できる時間と好きな時間に使用できるか。
- 9 名古屋大学情報学部、情報学研究所が実施したその他の調査項目は、設備が充分か不十分か。
- 10 名古屋大学工学部物理工学科(1、3、4年生)、工学研究科応用物理学専攻、物質科学専攻及び工学部物理工学科(2年生)が実施したその他の調査項目は、動画を無制限に視聴できる場所、視聴をどこで行ったか。
- 11 名古屋大学工学部環境土木・建築学科環境土木工学コース(2～3年生)、農学部(1年生)、国際開発研究科、愛知教育大学、三重大学教育学部(2～4年生)、教育学研究所(2年生)、教育学部(1年生)及び教育学研究所(1年生)が実施したその他の調査項目は、遠隔授業を受講できるインターネット環境の有無のみ
- 12 豊橋技術科学大学工学部(1～3年生)が実施したその他の調査項目は、インターネット環境の有無及び導入予定
- 13 三重大学生物資源学部及び生物資源学研究所が実施したその他の調査項目は、インターネット環境の有無及び導入予定及びその理由等
- 14 三重大学地域イノベーション学研究所が実施したその他の調査項目は、インターネット環境の有無及び導入予定、自宅以外のインターネット環境の有無

図表 3-⑫ 電気通信事業者による支援継続に関する意見・要望等

大学名	電気通信事業者による支援継続に関する意見・要望等
岐阜大学	<p>本学においてもスマートフォンのみ保有する学生や通信回線のデータ通信量に上限が存在する学生などが存在するため、円滑な遠隔教育の実施に向け、学生の通信環境の向上に特段のご配慮を賜りたい。</p>
静岡大学	<p>本学では後学期の授業においても、在宅授業（オンライン授業）と対面授業を併用していく予定であり、学生が自宅等において学習をすることが必要となる。学生の自宅等の通信環境によっては携帯電話の通信容量制限等により学習を行うことが困難な場合も想定されることから、そのような学生等においても学習の機会が確保されるよう、電気通信事業者が、携帯電話の通信容量制限等について柔軟な措置を講じて頂きたいと考えている。</p>
浜松医科大学	<p>教員からパケット代が問題になる学生が出てくるのではないかとの危惧があったため、8月いっぱいまで25歳以下のスマートフォン利用者に対し、通信速度制限の解除やテザリング機能の利用オプションを無償提供する新型コロナ対策支援を終了するとのお知らせを学生に対して注意喚起を行ったが、支援を継続していただければ、ありがたい。</p>
名古屋大学	<p>電気通信事業者において継続的な支援が可能であれば、学生にとっては大変重要な支援になると考える。</p>
愛知教育大学	<p>本学としては通信環境・データ量の負担を考慮し、主にオンデマンド型による遠隔授業の実施を教員にも勧めてきた。ただし、引き続き電気通信事業者等に対する支援の継続をいただければ、是非お願いしたい。</p>
名古屋工業大学	<p>学生を対象としたアンケート調査においても、遠隔授業の実施にあたって使用している機器でスマートフォンを使用した学生も相当数確認された。</p> <p>本学においても、後期の授業で、一部対面による授業を実施するが、多くの授業で、引き続き遠隔授業を継続する予定としている。</p> <p>今後、電気通信事業者の無償支援がなくなることで、経済的な負担が高いと感じる学生にとって安定的な受講の妨げとなることが想定される。そのため、新型コロナウイルスの感染状況が落ち着くまでの間は、電気通信事業者への支援継続を要請したい。</p>
豊橋技術科学大学	<p>本学で修学等に励んでいる学生の中にも、新型コロナウイルス感染症の影響により、経済的に不安を感じている学生もいると思う。この影響を最低限にしてもらふ必要はあるため、電気通信事業者への支援継続などの意見・要望等を求める機会があれば、検討させていただきたい。</p>
三重大学	<p>遠隔授業に関する学生や保護者からの意見の中で、遠隔授業のデメリットの一つとして通信費負担が挙げられる。</p> <p>未曾有のコロナ禍で様々な年代、属性の人に全国的に行動制限が掛かる中、特に大学の学生には遠距離からの通学、学内での授業や各種</p>

の課外活動における学生・教職員など多人数との交流、学外でのアルバイトや友人等との交流と、様々な活動の広範さ故に厳しい抑制を求められており、相対的に遠隔授業を始めとしたネットワークの活用の必要性、重要性が高まっている。

この様な状況を踏まえ、政府や電気通信事業者も無制限のサービス拡大は困難と理解しているが、コロナ禍収束までの時期的な見通しが見つからない現状においては、年齢等の要件をできるだけ設けない形で学生に対する支援を検討いただきたい。

特に本学では後期も継続して遠隔授業を行わざるを得ない状況であり、学生が少しでも安心して遠隔授業を受けられるよう早期の支援を望む。

(注) 当局の調査結果による。

図表 3-⑬ 遠隔授業の実施に伴い各大学が周知した必要な機器、インターネット環境

大学名	周知内容
岐阜大学（全学）	<p>「岐阜大学における令和 2 年度前学期の授業の運営について」（令和 2 年 4 月 1 日）</p> <p>クラスを分割して行う隔週授業や学習支援システムなどを用いた e-Learning 型授業などの実施に取り組みます。</p> <p>「新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う全館閉鎖を受けた対応について」（令和 2 年 4 月 3 日）</p> <p>休校期間中の授業については、各科目について、e-Learning による授業提供や、教材による自習等が担当教員から指示される場合がありますので、その指示に従って受講をお願いします。</p> <p>「岐阜大学附属病院を除く全部局の全館閉鎖について」（令和 2 年 4 月 4 日）</p> <p>2 年次以上の学生についてはオンライン等の教材を活用した教育を行い、学習を進めます。</p> <p>学生の皆さんへ（令和 2 年 4 月 8 日）</p> <p>現在、e-Learning 教育の方法など、各学部・研究科等において対応を検討しています。</p> <p>「岐阜大学の一部休業措置に伴う授業実施の方針について」（令和 2 年 4 月 10 日）</p> <p>原則として、授業は e-Learning 教育で行います。</p> <p>「岐阜大学の一部休業措置に伴う授業実施の方針の一部変更について」（令和 2 年 4 月 8 日）</p> <p>授業は e-Learning のみ実施します。なお、学生のネットワーク環境が個々に異なることを鑑みて、e-Learning 教育での教材（動画や配布資料など）の閲覧や課題の締め切りになどに十分な期間を設けるなど、配慮を行います。</p>
岐阜大学（教育学部、教育学研究科）	<p>「e-Learning 授業のための情報環境の整備について（依頼）」（令和 2 年 4 月 28 日）</p> <p>（1）情報機器</p> <p>ノート PC、タブレット端末、あるいは、デスクトップ型 PC をご用意いただきますようお願いいたします。</p> <p>お使いのノート PC やタブレット端末が、最新の OS を搭載したカメラ付きのものであれば、本学部・研究科で実施予定の e-learning 授業に対応できます。準備が難しい場合、スマートフォンがあればパソコンにカメラがついていなくても代替できます。</p> <p>（2）ネットワーク環境</p> <p>映像配信を視聴できるインターネット環境をご用意いただきますようお願いいたします。</p> <p>通信容量・速度制限のない、光ファイバー・ケーブルテレビなど固定の高速回線をご用意いただき、タブレット端末や PC を Wi-Fi で接</p>

	<p>続して動画視聴できる環境が理想的です。モバイル Wi-Fi ルータ (ポケット Wi-Fi など) やスマートフォンであれば、e-Learning 授業の学習に用いる十分な通信量の目安として月 50GB 程度、または、速度制限なしで利用できる環境が望ましいです。</p>
静岡大学	<p>新型コロナウイルス感染症対応による在宅授業に関する緊急対応サイト</p> <p>学務情報システムへアクセスできる環境を整えてください (PC 利用推奨)。</p>
浜松医科大学	<p>4月からの授業実施について (令和2年4月2日、9日開催のガイダンス資料)</p> <p>新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、本学ではウェブ授業を行います。</p> <p>基本的に、ウェブ会議システムによるライブ配信、レジュメの配信、事前に収録した講義動画の配信の手段を用いて Web 授業を展開します。</p>
名古屋大学	<p>学生の皆様へ (令和2年4月3日 HP 掲載)</p> <p>新型コロナウイルス対策として、多くの授業で、インターネットを活用した授業を予定しています。インターネットを活用した授業については、登校せず自宅等で学修いただくことを原則としています。学修用ノート PC・タブレット端末の保有や、十分なインターネット環境を準備いただくことを推奨します。スマートフォン等のデータ通信量には十分注意してください。</p>
愛知教育大学	<p>「学部における遠隔授業の開始にあたって」 (令和2年4月30日)</p> <p>遠隔授業は自宅で学習することを原則としますので、自宅から遠隔授業が可能な通信環境を備えているかどうかをあらかじめ確認しておいてください。確認した結果、授業を履修するための十分な通信環境を備えていないことがわかった場合は、至急、教務企画課までメールにて問い合わせてください。</p>
名古屋工業大学	<p>掲示板「2020 年前学期における授業等の実施に係る方針について (新型コロナウイルス感染症対策)」 (令和2年4月7日)</p> <p>オンライン授業を受けるために学習用 PC やタブレット端末を保有し、十分なインターネット環境を速やかに準備することを推奨します。なお、データ通信量が増えることが想定されますので、スマートフォンの対応については、十分に注意してください。インターネット環境 (PC、スマートフォン、Wi-fi 等) が整備できない学生はサテライト教室を使用することができます。</p> <p>オンライン授業のための FAQ</p> <p>4.1.5. オンライン授業のための端末やインターネット環境がない場合はどうしたらいいですか? 端末や Wi-Fi ルーター等の貸し出しはありますか?</p> <p>端末やインターネット環境の準備に際して、どうしても自身での解</p>

	<p>決が困難な場合は、学務課にご相談ください。</p> <p>4.3.7. 何がどうなれば、オンライン授業の受講が可能な状態と判断できますか？</p> <p>「オンライン授業 動画サンプル」を再生することができたら、技術的な観点ではオンライン授業の受講が可能な状態と判断できます。</p>
豊橋技術科学大学	<p>「遠隔授業を受けるためのネットワーク接続手続について」(令和 2 年 4 月 24 日)</p> <p>遠隔授業を円滑に受講するには、安定したネットワーク環境と PC などの設備が必要ですが、家電量販店でもネットショップでも品薄の状態です。だからと言って、インターネットに接続できる環境を求めて外出しないでください。また、無理に割高な PC を購入する必要もありません。在宅で学修するには多少不便ですが、本学の遠隔授業のほとんどはスマートフォンでも閲覧できるようになっています。今の状況がもう少し良くなるまで、スマホで受講するようにしてください。「スマートフォンもないよ」という学生は、下記の問い合わせ先に連絡してください。</p>
三重大学 (全学)	<p>三重大学オンライン授業受講にかかる心構え</p> <p>○オンラインのやりとりでは、音声不明瞭だと非常に伝わりにくくなりますので、発言等を可能な限り明瞭に伝えることが重要です。マイクは、PC 内蔵のものでも良いですが、キーボードを打つ音を拾いすぎる傾向があります。可能であれば、ヘッドセット (イヤフォンとマイクが一体になったもの) を使うと良いでしょう。スマートフォンに付属のイヤフォンは、PC に接続してヘッドセットとして使える場合があります。</p> <p>○PC にカメラが内蔵されていない場合、PC に加えてスマートフォンでも接続すればスマートフォンのカメラを使えます。</p> <p>○スマートフォンで受講する場合は、携帯回線のデータ通信量の節約と快適な通信環境の保持のため可能な限り通信量に制限のない Wi-Fi 経由で行ってください。</p>
三重大学 (人文学部)	<p>「【三重大学人文学部】オンライン授業開始のための事前調査について (お伺い)」メール (令和 2 年 4 月 2 日)</p> <p>オンライン授業の受講に支障をきたさないためには以下の条件を必要とします。</p> <p>○1日に4～5時間以上、ノートPC (カメラ付) で動画を受信しても一定額以上の通信料が発生しない。通信速度の制限がかからない。</p> <p>○オンラインで会話ができるくらいの通信速度がある。</p> <p>(ビデオ通話ができるくらいの通信速度があれば大丈夫です)</p> <p>「【重要】(人文学部・人文社会科学研究科) 通信環境の確認のお願い」メール (令和 2 年 4 月 22 日)</p> <p>既に周知しましたように、</p> <p>5月14日～人文学部 (一部教職課程科目など先行して開始)</p>

	<p>5月15日～教養教育院 オンライン授業が始まります。</p> <p>1日3コマ受けるとなると、ネットにつなぐ時間は、5～6時間程度/日となります。</p> <p>6時間×5日/週＝30時間/週 30時間/週×4週/月＝約120時間/月 実家・一人暮らしなど、住居環境は様々ですが、オンライン授業を受ける機器(PC、タブレット端末、スマートフォンなど)を一か月約120時間程度ネットにつないでも定額以上の請求にならないか、従量制課金制度の適用にならないか、もう一度確認してください。</p> <p>つまり、「一日中ネットにつないでも一定速度のスピードでずっと動画を見ることができ、定額のままか。」ということです。</p> <p>そのような状態にない人は、下記の対策をとってください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. インターネットの契約プランを最大利用できるプランに変更する 2. 携帯電話の料金プランを最大利用できるプランに変更する 3. ルーターを変える 4. 通信会社が提供するプランに変更する <p>大学の授業を受けるために必要な環境を必ず整えてください。</p> <p>授業、レポートの課題の提出など今学期は全てがインターネットなどを介してのやり取りになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学に来て、大学のLANを使用することはできません。 ・近所のWi-Fiスポットに行くこともやめてください(3密回避、感染リスクを増やさない)。 <p>今住んでいるところから大学の授業を受けるにあたり、保護者と相談し、環境整備を早急に行ってください。</p>
--	---

(注) 当局の調査結果による。

4 学生の心のケアに関する取組

調 査 結 果 等	説明図表番号
<p>【制度の概要】</p> <p>文部科学省は、「大学等における新型コロナウイルス感染症への対応ガイドラインについて（周知）」（令和2年6月5日付け2文科高第238号）において、大学等における新型コロナウイルス感染症への感染及びその拡大のリスクを可能な限り低減した上で、持続的に教育研究活動に取り組む必要があることから、そのために必要な留意事項等を整理し、学校運営の指針を示すものとして「大学等における新型コロナウイルス感染症への対応ガイドライン」を策定し、国立大学法人の長等に対し、周知している。</p> <p>この中で、学生への配慮と支援等の1つとして「新型コロナウイルス感染症の影響が長期化し、不安を抱えている学生等も出てきているところ、電話やメール等を活用し、より学生から相談しやすい体制を構築するとともに、新型コロナウイルス感染症により、新入生をはじめ学生生活に不安を抱えている学生の把握に努め、カウンセラーや医師等の専門家とも連携してきめ細かく対応するなど、メンタルヘルスへの適切な対応を行っていただきたい。」と示されている。</p> <p>また、その後に出された「大学等における本年度後期等の授業の実施と新型コロナウイルス感染症の感染防止対策について（周知）」（令和2年9月15日付け2文科高第543号）では、上記について再周知するとともに、学生が安心して大学等における学びに打ち込めるような配慮に関して、「学生相談室で実施している臨床心理士による相談について、通常の対面方式に加えて、ウェブ会議システムやメールを用いての受付にも対応している例」などを提示している。</p> <p>【調査結果】</p> <p>今回、当局が調査対象とした8国立大学において、学生の心のケアに関する取組状況を調査したところ、以下のような状況がみられた。</p> <p>8大学は、学生や教職員の健康保持増進を図るための施設を設置している（その施設名は、大学により「健康管理センター」、「保健センター」等と異なっているため、以下総称して「保健管理センター」という。）。これら8大学では、新型コロナウイルス感染症の拡大により、令和2年度前期からの授業を基本的に遠隔授業により行うこととしているところ、それに伴い生じる学生の孤独感や不安感に対する心のケアについても、保健管理センターで行っている。</p> <p>また、8大学のうち岐阜大学と愛知教育大学を除く6大学では、学生等からの相談窓口（「学生相談室」、「なんでも相談窓口」等。以下総称して「相談窓口」という。）においても、学生からの心の悩みなどの相談を受けており、全ての大学において、保健管理センター又は相談窓口</p>	<p>図表4-①</p> <p>図表4-②</p>

<p>に、新型コロナウイルス感染症拡大による不安等を訴える学生からの相談が寄せられている。</p> <p>8大学における学生からの心の相談内容や心のケアを行う体制等は以下のとおりである。</p> <p>(1) 新型コロナウイルス感染症の影響による主な学生からの心の相談内容</p> <p>調査対象の8国立大学の保健管理センターや相談窓口で受けた学生からの相談の中には、「友人を作る機会が限られているため孤立しており、『自分のみが授業を理解できていないのではないか』といった不安がある。」、「オンライン授業についていけるのか分からず不安である。」、「新型コロナウイルス感染症に感染することが不安である。」といった新型コロナウイルス感染症の影響によると考えられる心の相談がみられた。</p> <p>(2) 大学での学生の心のケアを行う体制</p> <p>調査対象の8国立大学における計9つの保健管理センターではいずれも、精神科医を配置しており、中には臨床心理士を配置しているものもみられる。</p> <p>また、学生からの心の相談を受け付けている6大学計7つの相談窓口では、学生からの心の悩みなどの相談を受けている。これらの窓口では、教職員や在学学生を相談員として配置しており、中には、臨床心理士を配置しているものもみられる。</p> <p>各相談窓口では、学生からの心の悩みについて相談を受け付けた場合、学生の心の状態をみた上で、必要に応じて保健管理センターの精神科医等の専門家による相談及び診察を行っている。</p> <p>岐阜大学と愛知教育大学は、保健管理センターの精神科医や臨床心理士が、直接、学生からの心の相談を受けており、必要に応じて診察を行っている。</p> <p>また、8大学の保健管理センターでは、医療機関での治療が必要と判断した場合には、学生の居住している周辺の医療機関や大学の付属病院などを紹介している。</p> <p>(3) 大学での学生からの心の相談及び診察の実施方法</p> <p>ア ウェブ会議システムを活用したオンラインでの相談及び診察の実施状況</p> <p>調査対象の8国立大学の保健管理センターでは、学生の心のケアに関して、対面のほか、電話、メール及びウェブ会議システムにより実施しているところもみられる。</p> <p>8大学の9つの保健管理センターのうち、4つの保健管理センタ</p>	<p>図表4-③</p> <p>図表4-④</p> <p>図表4-⑤</p>
---	--

一では、新型コロナウイルス感染の防止、遠隔地に居住している学生及び学生の不安に配慮して、ウェブ会議システムを活用したオンラインでの心の相談及び診察を実施している。

ウェブ会議システムを用いて実施している4つの保健管理センターからは、以下のような意見が聴かれ、今後も相談及び診察方法の一つとして継続していく予定であるとしている。

- ① 学生が大学に来る際のコロナ感染への不安の解消になる。
- ② オンライン上でも表情が分かるため、対面と同様に行うことができる。
- ③ 人と会うことを苦手としている学生や遠方に住んでいる学生が受診しやすい。
- ④ 学生が直接に相談室まで来なくても、画面を通して、表情を見ながらやり取りをすることができる。
- ⑤ オンライン授業のため、遠方に帰省した学生との相談が継続できる。

また、ウェブ会議システムを用いて実施している保健管理センターにおいて、相談及び診察を受けた学生の中には、新型コロナウイルス感染症の影響により、同センターで対面での診察を受けたくない、又は人と会うことを苦手としている学生がいたことなどから、これら学生の心のケアに関する相談及び診察について、新型コロナウイルス感染の防止や学生の不安に配慮し、画面を通じて、表情が分かるなどの対面と同様の効果があるウェブ会議システムを活用している。

なお、残る5つの保健管理センターでは、以下の理由からウェブ会議システムを活用したオンラインでの心の相談及び診察を実施していない。

- i 愛知教育大学（健康支援センター）は、現状では、対面、電話、メールでの相談及び診察が可能であることから、ウェブ会議システムでは実施していない。
 - ii 静岡大学（保健センター静岡支援室、保健センター浜松支援室）は、ウェブ会議システムの利用時に音声途切れたり、つながりにくいという問題があることから、ウェブ会議システムを活用していない。
 - iii 豊橋技術科学大学（健康支援センター（健康相談窓口））では、ウェブ会議システムを活用した心の相談及び診察を行うための機器の確保ができなかったため、活用をしていない。
 - iv 浜松医科大学では、心の相談を対面、電話、メールで対応できているため、現在は、ウェブ会議システムを活用したオンラインでの相談を積極的には考えていない。
- ただし、上記5保健管理センターでは、今後、感染拡大などで

図表 4-⑥

対面で行うことが困難になった場合に、ウェブ会議システムの活用を検討するとしている。

学生が相談及び診察のために移動するときや、対面で相談及び診察を行う際に、新型コロナウイルス感染のおそれがあるため、ウェブ会議システムを活用したオンラインでの相談及び診察は、感染の防止に有効と考えられる。

イ ウェブ会議システムを活用したオンラインでの相談及び診察を実施している旨の周知状況等

(ア) ウェブ会議システムを活用した相談及び診察についての周知状況

ウェブ会議システムを活用したオンラインでの相談及び診察を実施している4大学の4つの保健管理センターのうち、そのことについて学生に周知しているところは、岐阜大学の保健管理センターのみであった。

学生に情報発信する手段としては、ホームページ、メール、学内システムが考えられるところ、岐阜大学の保健管理センターでは、ウェブ会議システムを活用したオンラインでの相談及び診察について、同センターのホームページに掲載するとともに、全学生及び全教職員に対し、ウェブ会議システムの活用を始めた4月下旬と面接授業が再開した6月上旬にメールで周知している。全教職員にもメールを送付した理由について、同大学では、教職員から心のケアが必要な学生に対して、ウェブ会議システムを活用したオンラインでの相談及び診察を行っていることを紹介してもらうためとしている。

残る名古屋大学（保健管理室）、名古屋工業大学（保健センター）、三重大学（保健管理センター）の計3つの保健管理センターでは、学生が相談及び診察の受付を行う際には、ウェブ会議システムを活用したオンラインでの相談及び診察ができることを伝えているが、全学生には周知していない。

(イ) ウェブ会議システムの活用実績

ウェブ会議システムを活用して相談及び診察を行っている4保健管理センターの中で、同システムを活用していることを全学生に周知している岐阜大学の保健管理センターにおいては、4月から7月の相談及び診察の件数373件のうち、同システムを活用しているものが、ほぼ半数の186件（49.9%）を占めている。

これに対し、全学生に周知していない3保健管理センターでは、4月から7月の相談及び診察の件数のうち、ウェブ会議システムを活用した件数は、以下のとおり2割以下となっている。

- i 名古屋大学（保健管理室）では、547 件のうち 3 件（0.5%）
- ii 名古屋工業大学（保健センター）では、65 件のうち 12 件（18.5%）
- iii 三重大学（保健管理センター）では、8 件のうち 0 件

(4) 新型コロナウイルス感染症の影響下における大学での積極的な取組

調査対象の 8 国立大学の中には、新型コロナウイルス感染症拡大の影響下において、時間帯による学生の心の傾向への配慮として、以下のような積極的な取組をしているものがみられた。

岐阜大学の保健管理センターでは、夜間帯に心が不安定になり、心の問題が生じやすいことから、緊急事態宣言の発令中の令和 2 年 4 月 20 日から、毎週水曜日の夜間に精神科医によるウェブ会議システムを活用したオンライン診察の枠（19 時から及び 20 時からの 2 枠）を設置した。

なお、この取組を行っている精神科医は、夜間の診察時間に合わせて、勤務時間を変更している。

【所見】

したがって、静岡大学、浜松医科大学、名古屋大学、愛知教育大学、名古屋工業大学、豊橋技術科学大学及び三重大学は、新型コロナウイルス感染の防止、遠隔地に居住している学生及び学生の不安に配慮して、学生の心のケアを行うため、以下の措置を講じる必要がある。

- ① 学生の心のケアに係る相談及び診察を行うに当たり、ウェブ会議システムを相談及び診察方法の一つとして導入するとともに、その取組について、メールなどの学生が把握しやすい方法により周知すること
（静岡大学（保健センター静岡支援室、保健センター浜松支援室）、浜松医科大学（保健管理センター）、愛知教育大学（健康支援センター）、豊橋技術科学大学（健康支援センター（健康相談窓口））
- ② ウェブ会議システムを活用したオンラインでの心のケアに係る相談及び診察を行っていることについて、メールなどの学生が把握しやすい方法により周知すること
（名古屋大学（保健管理室）、名古屋工業大学（保健センター）、三重大学（保健管理センター））

図表 4-① 「大学等における新型コロナウイルス感染症への対応ガイドラインについて(周知)」(令和2年6月5日付け2文科高第238号)(抜粋)

新型コロナウイルス感染症については、各大学及び高等専門学校(以下「大学等」という。)において御留意いただきたい事項について、これまで周知等を行ってきたところですが、このたび、それらの事項を「大学等における新型コロナウイルス感染症への対応ガイドライン」として整理しましたので、お知らせいたします。

(略)

大学等における新型コロナウイルス感染症への対応ガイドライン

1 新型コロナウイルス感染症対策に関する基本的な考え方

(1) 本ガイドラインの趣旨・基本的な考え方

新型コロナウイルス感染症は、いまだ不明な点が多い感染症であり、国内外の感染状況を見据えると、社会全体としての長期的な対応が必要となることが見込まれる。こうした状況の下にあっても、大学及び高等専門学校(以下「大学等」という。)は、その目的及び使命を果たすため、学内における感染及びその拡大のリスクを可能な限り低減した上で、持続的に教育研究活動に取り組む必要がある。本ガイドラインは、そのために必要な留意事項等を整理し、学校運営の指針を示すものである。

(略)

6 学生への配慮と支援等

(1) 学生への迅速かつ十分な情報提供ときめ細かな相談体制

新型コロナウイルス感染症への対応に当たり、学事日程を変更したり、授業を例年とは異なる方法で実施したりする場合には、その受け手である学生に対して、迅速かつ十分な情報提供を行い、その不安を払拭することが必要である。

また、経済的に困難に直面している学生等が、修学継続のために、国による支援に加えて、自治体や各大学等における独自の支援策を含め、一人一人の状況に合わせた支援に確実にアクセスできるようにすることが重要である。

(略)

⑤メンタルヘルス等の相談対応

新型コロナウイルス感染症の影響が長期化し、不安を抱えている学生等も出てきているところ、電話やメール等を活用し、より学生から相談しやすい体制を構築するとともに、新型コロナウイルス感染症により、新入生をはじめ学生生活に不安を抱えている学生の把握に努め、カウンセラーや医師等の専門家とも連携してきめ細かく対応するなど、メンタルヘルスへの適切な対応を行っていただきたいこと。

(略)

(注) 下線は当局が付した。

図表 4-② 「大学等における本年度後期等の授業の実施と新型コロナウイルス感染症の感染防止対策について(周知)」(令和2年9月15日付け2文科高第543号)(抜粋)

(略)

(3) 交流機会の設定等の学生生活への配慮

感染対策を十分に講じた上での面接授業の実施について検討いただくことはもとより、大学等における学びにおいては、学生と教職員等とのコミュニケーションや学生同士の交流も重要な要素であることから、これらを実現するための機会を設定することについても積極的に対応いただくようお願いします。

また、新型コロナウイルス感染症の影響による社会や生活の変化等を背景として、学生がさまざまな不安を抱えやすい状況にあります。特に、大学等における学修や学生生活に慣れていない新入生において、想像していた大学生活との差異に悩みを有していることや、同感染症の影響により社会情勢の先行きが見通せないことから、就職活動を行う学生に不安感が高まっていることも考えられます。

学生のメンタルヘルス等の相談対応については、これまでにも万全を期していただくようお願いしているところですが、今般の情勢も踏まえ、より学生から相談しやすい体制を構築するとともに、新入生をはじめとする学生生活に悩みや不安を抱えた学生の把握に努め、カウンセラーや医師等の専門家とも連携してきめ細かく御対応いただくようお願いいたします。

各大学等において、学生が安心して大学等における学びに打ち込めるよう、学生生活への御配慮をいただくに当たっては、以下のような例もあることから、御参照ください。

(略)

- ✓ SNSを活用して学生の悩みを把握しやすい体制を整備しているものや、従来から学生相談室で実施している臨床心理士による相談について、通常の対面方式に加えて、ウェブ会議システムやメールを用いての受付にも対応している例

(略)

(注) 下線は当局が付した。



図表 4-③ 新型コロナウイルス感染症の影響による主な心の相談内容

○学生からの心の相談内容

- ・友人を作る機会が限られているため孤立しており、「自分のみが授業を理解できていないのではないか」といった不安がある。
- ・オンライン授業についていけるのかわからず不安である。
- ・教員から教材配信が滞りがちで、終盤に課題が溜まっていく不安がある。
- ・未提出の課題が多く、このままでは多くの単位を落としそうで不安である。
- ・課題が多く、精神的な負荷が大きいため、情緒不安定になる。
- ・オンライン授業により単位が取れるかが不安である。
- ・授業に対する習熟度が確認できないことについて不安である。
- ・1年生なので必要な情報の取り方がわからず、大事なことを見逃してしまい不安である。
- ・履修登録について、相談できる先輩がいない。
- ・オンライン授業により、大学で授業を受けているという気がせず、大学にいる意味が感じられないことから退学を検討中である。
- ・コロナの影響で就活イベントが中止になり、不安で眠れない。
- ・就活中であるが、コロナウイルスの影響で見通しが立たず、つらい。
- ・コロナでバイトがなくなりお金に困っている。
- ・思うように研究が進まず、不安である。
- ・生活が乱れて、うつ状態である。
- ・入学しても交流がなく、下宿生になり精神的に参っている。
- ・憂鬱で調子が悪いが、遠方の実家に帰りづらい。
- ・コロナ騒ぎの報道を見聞きすることがつらい。
- ・1人で家にいる時間が長くなり、コロナの情報をたくさん収集してしまい、不安が増加している。
- ・新型コロナウイルス感染症に感染することが不安である。
- ・新型コロナウイルス感染症に感染することにより誹謗中傷されることが不安である。

○保護者から寄せられた学生の心の相談内容

- ・オンライン授業についていくのが大変そうで、子供が退学を考えている様子である。
- ・下宿しているこどもがオンライン授業についていけず、塞ぎ込んでいる様子である。

(注) 1 調査対象の8国立大学から提供を受けた学生からの心の相談内容を記載

2 相談者個人が特定されないために大学名は、記載していない。

図表 4-④ 調査対象の 8 国立大学における学生の心のケアを行っている相談・診察窓口の体制

大学名		岐阜大学	静岡大学	
相談・診察窓口名		保健管理センター	静岡キャンパス 保健センター静岡支援室	浜松キャンパス 保健センター浜松支援室
相談・診察体制	精神科医	1 人（常勤）	1 人（常勤）	1 人（非常勤）
	臨床心理士	3 人（常勤 1 人、非常勤 2 人）	1 人（非常勤）	1 人（常勤）
	その他	—	—	—
相談・診察の対応方法	対面	○	○	○
	電話	○	○	○
	メール	○	○	○
	ウェブ会議システム	○	—	—
相談・診察件数（4 月から 7 月）		373 件 （実人数 113 人）	791 件 （実人数 263 人）	385 件 （実人数 97 人）
ウェブ会議システムの活用件数		186 件	—	—
新型コロナウイルス感染症の影響による相談・診察の件数（注 2）		（新型コロナウイルス感染症の影響によるもののみを区分することは、困難）	42 件	42 件

大学名		浜松医科大学（注 3）	名古屋大学	愛知教育大学
相談・診察窓口名		保健管理センター	保健管理室	健康支援センター
相談・診察体制	精神科医	2 人（常勤）	3 人（常勤）	1 人（常勤）
	臨床心理士	3 人（常勤 2 人、非常勤 1 人）	—	2 人（非常勤）
	その他	医師：3 人 保健師：1 人	—	—
相談・診察の対応方法	対面	○	○	○
	電話	○	○	○
	メール	○	—	○
	ウェブ会議システム	—	○ （注 4）	—
相談・診察件数（4 月から 7 月）		55 件 （実人数 15 人）	547 件 （実人数は、月ごとに集計している。）	125 件 （実人数 40 人）
ウェブ会議システムの活用件数		—	3 件	—
新型コロナウイルス感染症の影響による相談・診察の件数（注 2）		18 件	15 件	20 件

大学名	名古屋工業大学	豊橋技術科学大学	三重大学
相談・診察窓口名	保健センター	健康支援センター (健康相談窓口)	保健管理センター
相談・ 診察 体制	精神科医	1人(常勤)	1人(非常勤)
	臨床心理士	1人(非常勤講師)	—
	その他	—	医師:2人 保健師:1人
相談・ 診察 の対応 方法	対面	○	○
	電話	○	○
	メール	○	○
	ウェブ会議システム	○	—
相談・診察件数 (4月から7月) (注1)	65件 (実人数10人)	7件 (実人数7人)	8件 (実人数7人)
ウェブ会議システム の活用件数	12件	—	0件 (注5)
新型コロナウイルス感染症の影 響による相談・診 察の件数 (注2)	(新型コロナウイルス感 染症の影響によるもの のみを区分することは、困 難)	6件	2件

(注) 1 「相談・診察件数(4月から7月)」には、相談で終わったものや診察まで行ったものがあるが、相談・診察ごとに区分して件数を計上していない。

2 「新型コロナウイルス感染症の影響による相談・診察の件数」は、各大学の相談及び診察窓口の担当者が、4月から7月の相談及び診察の中から、新型コロナウイルス感染症の影響を受けていると考えられるとした相談及び診察の件数を記載

3 浜松医科大学では、学生の心の悩みに関する診察を、主に浜松医科大学の附属病院で行っているため、保健管理センターでは、学生の心の悩みに関する相談のみを行っている。

4 名古屋大学は、ウェブ会議システムを活用したオンラインでの相談及び診察を行うに当たり、活用するウェブ会議システムを特定せずに、心の相談に来た学生が使用できるウェブ会議システムに合わせている。

5 三重大学は、学生からの心の相談を受ける際に、ウェブ会議システムを相談及び診察方法の一つとして取り入れているが、4月から7月には実績はなかった。

図表 4-⑤ 調査対象の 8 国立大学における学生からの心の相談に対応している相談窓口の体制

大学名		静岡大学	浜松医科大学	名古屋大学
相談窓口名		静岡キャンパス 学生支援センター 学生相談室	浜松キャンパス 学生支援センター 学生相談室	何でも相談窓口 学生支援センター (学生相談・共修推進室)
相談体制	精神科医	—	—	—
	臨床心理士	2 人 (非常勤)	1 人 (非常勤)	5 人 (常勤)
	その他	相談員:学部代表 教員 5 人	相談員:学部代表 教員 5 人	相談員:教職員 30 人 学生相談員:2 人
相談の対応方法	対面	○	○	○
	電話	○	○	○
	メール	○	○	○
	ウェブ会議システム	○	○	○ (注 2)
相談件数 (4 月から 7 月)		539 件 (実人数 132 人)	42 件 (実人数 11 人)	3549 件 (実人数は、月ごとに 集計している。)
ウェブ会議システムの活用件数		20 件	4 件	791 件
新型コロナウイルス感染症の影響による相談の件数 (注 1)		74 件	5 件	522 件
		(年度末に集計しているため、未把握)		

大学名		名古屋工業大学	豊橋技術科学大学	三重大学
相談窓口名		学生なんでも相談室	健康支援センター (学生相談窓口)	学生なんでも相談室
相談体制	精神科医	—	—	—
	臨床心理士	2 人 (常勤)	6 人 (常勤 1 人、非常勤 5 人)	4 人 (常勤 1 人、非常勤 3 人)
	その他	教員による相談員 15 人 学生相談係事務職員 6 人	相談員:教員 12 人	—
相談の対応方法	対面	○	○	○
	電話	○	○	○
	メール	○	○	○
	ウェブ会議システム	○	○	○
相談件数 (4 月から 7 月)		576 件 (実人数 130 人)	736 件 (実人数 115 人)	463 件 (実人数 133 人)
ウェブ会議システムの活用件数		74 件	110 件	53 件
新型コロナウイルス感染症の影響による相談・診察の件数 (注 1)		(新型コロナウイルス感染症の影響によるもののみを区分することは、困難)	28 件	74 件

- (注) 1 「新型コロナウイルス感染症の影響による相談の件数」は、各大学の相談窓口の担当者が、4 月から 7 月の相談の中から、新型コロナウイルス感染症の影響を受けていると考えられるとした相談の件数を記載
- 2 名古屋大学は、ウェブ会議システムを活用したオンラインでの相談を行うに当たり、活用するウェブ会議システムをあらかじめ特定せずに、心の相談に来た学生が使用できるウェブ会議システムに合わせている。
- 3 岐阜大学と愛知教育大学は、相談窓口で学生からの心の相談を受けていない。

図表 4-⑥ 学生からの心の相談に対し、ウェブ会議システムを活用していることについての各大学の意見

- ・学生が大学に来る際のコロナ感染への不安の解消になる。
(静岡大学(静岡キャンパスの学生支援センター学生相談室)、名古屋大学(保健管理センター、学生支援センター)、名古屋工業大学(保健センター、学生なんでも相談室))
- ・大学から離れた実家で聴講している学生にとっては、大学への移動時の感染リスクの不安なく相談できる。
(浜松医科大学(何でも相談窓口))
- ・学生が直接に相談室まで来なくても、画面を通して、表情を見ながらやり取りをすることができる。
(三重大学(保健管理センター、学生なんでも相談室))
- ・電話に比べると表情が分かるので相談しやすい。
(静岡大学(静岡キャンパスの学生支援センター学生相談室))
- ・オンライン上でも表情が分かるため、対面と同様に行うことができる。
(岐阜大学(保健管理センター)、名古屋工業大学(保健センター))
- ・人と会うことを苦手としている学生や遠方に住んでいる学生が受診しやすい。
(豊橋技術科学大学(健康支援センター(学生相談窓口))、名古屋工業大学(保健センター、学生なんでも相談室)、岐阜大学(保健管理センター))
- ・オンライン授業のため、遠方に帰省した学生との相談を継続できる。
(静岡大学(静岡キャンパスの学生支援センター学生相談室))
- ・ウェブ会議システムでは、対面に比べると微妙な表情変化、体の動き、空気感が分かりにくく、対面と同質の相談まではできない。
(静岡大学(静岡キャンパスの学生支援センター学生相談室))
- ・自室で相談を受けている感覚になり、心理的に不快感を持つ学生や、通常と異なる方法により相談を行うことに混乱する学生には使えない。
(静岡大学(静岡キャンパスの学生支援センター学生相談室))

(注) 当局の調査結果による。